



始



ENGLISH GRAMMER FOR STUDENTS

特210
729

SAGARA'S
ENGLISH GRAMMAR
FOR
STUDENTS

BY

T. SAGARA

OF THE ASSOCIATED PRESS
OF JAPAN



緒 言

英文法を覚える一番よい方法は自然に耳から英語を聞き覚える間に文法をも覚える事である。

此方法は一番自然であるが大多数の日本人學生には實行不可能な事である。のみならず斯うして覺えた英語、殊に英文法は極めて自然ではあるが、如何して左様書いて悪いのかと反問された場合に明確な返事が出来ない事である。即ち理由は解らないが、一般に英語では左様は書かないとか言はないとかと言ふ事だけしか解らないのだ。

英文法は此の理由を組織的に教へ、英語の正しき書き方、正しき譯し方を組織的に教へるのである。本書では一般の英文法書で閑却され易い「正しき譯し方」に殊に重點を置いた。

之れが爲めに勢ひ日本語と英語との相違點を明確に示し、學生諸君の理解を容易ならしむる爲めに努めたつもりである。

普通の英文法書では名詞から説き出して居るが、本書では斷然一新機軸を出して先づ形容詞を説明し次いで副詞・前置詞・動詞・名詞・冠詞・代名詞・接續詞・間投詞の順序で説明を進めた。之れ英語と日本語では形容詞と副詞の用法が一番よく似て居るので覚え易い故、易より難へと順を追ふたものである。

中等學校上級生即ち三四五年級に居られる學生諸君は單に英文法を覺えただけでは役に立たない、即ちすぐ高等程度の諸學校へ進む入學試験を受けねばならないから、英文法書で文法のみを覺えるだけでなく、同時に組織的に英文

和譯も和文英譯も覚え込まねばならぬ。

本書では此の文法・英文和譯・和文英譯を同時に覚え込む事を主眼として編纂したものである。総合的組織の下に文法・和譯・英譯を渾然融和せしめ文法を會得すると同時に和譯と英譯の方法も自然と納得出来るやうに本文の説明は言ふに及ばず、例文並に練習問題に於ても周到なる注意を拂つた。此小著が上級生諸君の英語學習上の一助ともなれば著者の本懐之に過ぎるものが無い。

昭和八年五月十日

著 者 識

目 次

第一篇 日本語と英語の比較 …〔1—275〕

第一章 日本語は合成語が多い ……………1

第二章 形容詞 ……………(1—27)

I. 形容詞の定義 ……………1

II. 形容詞の位置 ……………2

III. the+形容詞 ……………2—3

IV. 必ず後へ来る形容詞 ……………3

V. 形容詞の種類 ……………3

VI. 性質形容詞 ……………3—4

VII. 固形容詞 ……………4

VIII. 數量形容詞 ……………4—8

IX. 代名形容詞 ……………8—15

X. 形容詞の變化 ……………15—20

(原級・比較級・最上級)……………15—20

XI. 形容詞の作り方 (形容詞を作る接尾語) 21—23

☞ 練習問題

(文法・英文和譯・和文英譯)……………23—27

第三章 副詞 ……………(27—47)

I. 副詞の作り方 (副詞を作る接尾語) ……27—28

II. 副詞の位置 ……………28—30

III. 副詞の定義 ……………30

IV. 副詞の種類 ……………30—33

V. 副詞の變化 ……………33—34

VI. 注意すべき副詞の用法 ……35—44

(副詞句の作り方)……………43

☞ 練習問題

(文法・英文和譯・和文英譯)……………44—47

第四章 前置詞(47—77)

I. 前置詞の定義47
 II. 前置詞の種類47—49
 III. 前置詞の目的語49
 IV. 前置詞の省略49—50
 V. 時を表す前置詞50
 VI. 場所を表す前置詞52
 VII. 行爲者及び道具を表す前置詞54
 VIII. 比較を表す前置詞54
 IX. 目的を表す前置詞55
 X. 材料を表す前置詞55
 XI. 起源を表す前置詞55
 XII. 原因を表す前置詞55—56
 XIII. 理由及び根拠を表す前置詞56
 XIV. 結果を表す前置詞56
 XV. 主な前置詞の意義と用法57—73
 練習問題
 (文法・英文和譯・和文英譯).....74—77

第五章 動 詞.....(77—161)

I. 動詞の種類77—78
 II. 動詞を作る接尾語78—79
 III. 名詞より動詞を作る場合79—80
 IV. 自動詞を變じて他動詞となす場合80
 V. 自動詞80—81
 VI. 他動詞81—83
 VII. 自動詞が他動詞に用ゐられる場合83—85
 VIII. 他動詞が自動詞に用ゐられる場合85—86
 IX. 動詞の慣用的用法86—89
 X. 助動詞89—95
 XI. 人稱と數95—98
 XII. 規則動詞と不規則動詞98—106

[不規則動詞の變化・原形 (root) の用法・過去分詞 (past participle) の用法] ...99—106
 XIII. 態 (Voice)107—110
 XIV. 時 (Tense)110—135
 (現在・現在進行形・現在分詞・過去・過去進行形・未來・shall と will の用法)110—115
 練習問題
 (文法・英文和譯・和文英譯).....123—126
 (現在完了・現在完了進行形・副詞節と現在完了・過去完了・進行形過去完了・未來完了・進行形未來完了の用法)126—132
 練習問題
 (文法・英文和譯・和文英譯).....132—135
 XV. 法 (Mood)135—140
 (假定法・命令法の用法)134—140
 練習問題
 (文法・英文和譯・和文英譯).....140—143
 XVI. 兼務動詞 (Verbals)143—147
 (定動詞と不定動詞、不定詞の用法) ...143—144
 練習問題
 (文法・英文和譯・和文英譯).....148—150
 (分詞・現在分詞・過去分詞の用法).....150—153
 練習問題
 (文法・英文和譯・和文英譯).....153—156
 (體用詞の用法).....156—159
 練習問題
 (英文和譯・和文英譯)159—161

第六章 名 詞(161—207)

I. 名詞の作り方 (各詞を作る接尾語) (161—168)
 指小辭 (diminutive) の用法167—168

II. 名詞の種類169

III. 普通名詞169—171

IV. 固有名詞171—174

V. 物質名詞174—176

VI. 集合名詞177—181
(群集名詞の用法)178

VII. 抽象名詞181—185
(抽象名詞を作る接尾語・抽象名詞の
譯し方)182—184

VIII. 人 稱185

IX. 數186

X. 複數の作り方186—189
練習問題
(文法・英文和譯・和文英譯)190—194

XI. 性194—196
(男性・女性・通性・無性)195

XII. 擬人法197

XIII. 格 (主格・所有格・目的格)197—203
練習問題
(文法・英文和譯・和文英譯)203—207

第七章 冠 詞(207—218)

I. 冠 詞207

II. 不定冠詞と其意義・用法208—210

III. 不定冠詞の位置210—211

IV. 定冠詞211—212

V. 定冠詞の用法212—214

VI. 定冠詞の位置214

VII. 冠詞の省略214—217

VIII. 冠詞の反覆217—218
練習問題
(文法・英文和譯・和文英譯)218—222

第八章 代名詞(222—256)

I. 人稱代名詞222—226

II. It の用法226—228

III. 所有代名詞228—230

IV. 再歸代名詞230—232

V. 指示代名詞232—241

VI. 疑問代名詞241—244

VII. 關係代名詞244—251

VIII. 複合關係代名詞251—252
練習問題
(文法・英文和譯・和文英譯)252—256

第九章 接續詞(256—274)

I. 接續詞の定義256—257

II. 接續詞の用法257—259

III. 主なる接續詞の用法259—271
練習問題
(文法・英文和譯・和文英譯)271—274

第十章 間投詞(274—275)

第二篇 文章論[276—326]

第一章 文の要素(276—282)

I. 文の要素276

II. 名詞節277

III. 形容節277

IV. 副詞節277

V. 役目に依つて分類したる文の要素278

VI. 等級に依つて分類したる文の要素281

第二章 文の分類(282—285)

I. 用法による分類	282
II. 構文による分類	283
第三章 文の換形	(285—294)
I. 混文と單文との轉換	285
II. 複文と單文との轉換	292
III. 複文と混文との轉換	293
練習問題	
(文法・英文和譯・和文英譯)	294—297
第四章 語の配列順序	(297—303)
I. 叙述文	297
II. 疑問文	299
III. 感歎文	300
IV. 命令文	300
V. 祈願文	301
練習問題	
(英文和譯・和文英譯)	301—303
第五章 省略	(304—310)
I. 命令	304
II. 挨拶	304
III. 反覆	305
IV. 比較	305
V. 感歎	305
VI. 從屬節	305
VII. 假定法	306
VIII. 數詞	306
IX. The + Adjective	306
X. 所有格	306
XI. 副詞句	306
XII. 熟語・諺	307
XIII. 日記・葉書文	307

練習問題	
(英文和譯・和文英譯)	307—310
第六章 直接叙法と間接叙法	(310—320)
I. 直接叙法と間接叙法	310—311
II. 直接叙法と間接叙法との轉換	311—316
練習問題	
(文法・英文和譯・和文英譯)	316—320
第七章 文の解剖	(320—326)
I. 單文の解剖	320—321
II. 混文の解剖	221—322
III. 複文の解剖	322—323
練習問題	323—326
索引	[327—333]

上級生の英文法

第一篇

日本語と英語の比較

第一章 日本語は合成語が多い

日本語には非常に合成語が多い、従つて此の合成語をその儘英語に譯さうとしても駄目だ。

例へば才子とか敏腕家とか勉強家とか美花とか博聞とか言ふ語句を見ると此等は邦語ではそれぞれ立派な一語を成してゐるが、よく考へて見ると合成語な事が解かる。

- (a) 敏腕家=敏腕な人 an able man; a man of ability.
- (b) 勉強家=勉強する人 a hard worker; a close student.
- (c) 美花=美しい花 a beautiful flower.
- (d) 博聞=見聞の博いこと much (wide) information.

かく日本語では恰も一語であるものが、英語に直すと二語にも三語にもなるのは、此等の日本語が元來合成語な爲めである。日本語に合成語の多いのは漢字が盛んに用ゐられてゐるからだ。

而して日本語の合成語は大抵形容詞を含んでゐる事は上の例で明白であると思ふ。

第二章 形容詞

I. 形容詞の定義

形容詞 (Adjective) は名詞又は代名詞を形容する語句である。第一章の例の中の able; of ability; hard; close; beautiful; much; wide 等はいづれも形容詞である。

II. 形容詞の位置

形容詞の位置は英語も日本語も同じである。但し形容詞が句又は節の形をとると英語では形容される語の後へ持つて行くから注意せねばならぬ。即ち普通の場合には英語でも日本語でも形容詞は名詞又は代名詞の前に附ける、但し形容詞が述語 (Predicate) の役目をする時には名詞又は代名詞の後へ来る事は英語も日本語も同じ。

- (a) 晴天=晴れた天気 { a fine day.
fine weather.
賢者=賢い人 a wise man.
- (b) 此の花は美しい This flower is beautiful.
美しい花 a beautiful flower.
- (c) 賢者 { a man of wisdom.
a man who is wise.

(a) は普通の形容詞の場合故、形容詞が名詞の前に来てゐる。(b) は同じ美しいでも述語 (Predicate) となれば日本語でも名詞の後に来るが、英語でも矢張り is beautiful のやうにせねばならぬ。(c) は英語で形容詞を長くして句又は節の形を用ゐると、必ずかゝる形容詞は名詞又は代名詞の後へつけるのである。然しながら斯かる形容句又は形容節を日本語に譯す場合には勿論後の方から譯さねばならぬ。

- Success comes to him who begins in time. He who does not rise early, can not do a good day's work.

時機に後れないやうに仕事を始める人には成功が来る。朝早く起きない人は十分な一日分の仕事が出来ない。

☞ who begins in time は him の形容節で之は him beginning in time と出来る。who does not rise early は he の形容節であつて A late riser can not..... か He, not rising early, can not..... と出来る。

III. 形容詞+the

「富者」も合成語で「富める者」「金のある人」の意味故英語では勿論 a rich man とか a wealthy man となる。

但し英語の慣用法として形容詞に the をつけると名詞になつてその階級の者全部を表すのである。

- (a) The rich are not always happy. (富者必ずしも幸福ならず)
(b) The poor are sometimes happier than the rich. (貧者は時に富者よりも幸福だ)
(c) The killed and wounded number about 1,000. (死傷者約一千を算す)

☞ 然しよく考へると the rich = the rich people; the poor = the poor people; the killed and wounded = the killed and wounded persons であつて、people や persons を略したのである。故に動詞が皆複数でなければならぬのだ。

IV. 必ず後へ来る形容詞

anything や something や nothing や everything を修飾する形容詞は必ず後へ来る。又 else (外に) や alone (のみ) は名詞の後に置く。

- Is there anything interesting? (何か面白い事がないか)
I want something to eat. (何か食べ物がほしい)
It's nothing serious. (大した事でない)
He hates everything imported. (彼は舶來物が何でも嫌ひだ)
Is there anything else? (外に何かあるか)
Man alone has the gift of speech. (人間のみ言語を有す)

V. 形容詞の種類

形容詞はその用法から性質形容詞 (qualifying adjective), 固有形容詞 (proper adjective), 数量形容詞 (quantitative adjective) 及び代名形容詞 (pronominal adjective) の四種に分つ。

VI. 性質形容詞

性質形容詞 (qualifying adjective) は性質 (quality) 又は

状態を表すもので、又普通形容詞 (common adjective) とも言ふ。

☞ 性質形容詞は普通の形容詞の外に、物質名詞も性質形容詞となる。即ち物質名詞は材料を表す形容詞となるのだ。

- ① He is a sick boy. } 彼は病少年だ。(普通形容詞)
That boy is sick. }
I have a silver watch. 銀時計がある。(物質名詞)
It is a stone building. } あれは石造の建物だ。
That building is made of stone. } (物質名詞)

☞ 妙に思はれるとか不思議に聞えるとか感覚を表す動詞即ち feel, look, seem, appear, taste, smell, sound 等の動詞の次には形容詞を用ゐる。邦語では副詞を使ふのであるが、英語では必ず形容詞だ。

- ② It sounds strange. それは妙に聞える。
This chair looks fine. この椅子は綺麗に見える。
This paper feels smooth. 此紙はすべすべする。
Roses smell sweet. 薔薇は匂がよい。
Apples taste good. 林檎は味がよい。

VII. 固有形容詞

固有形容詞 (proper adjective) は固有名詞 (proper noun) より作られたものである。

☞ 固有形容詞は必ず大文字で書き出さねばならぬ。

固有名詞	固有形容詞
Japan (日本)	Japanese (日本の)
England (英國)	English (英國の)
France (佛國)	French (佛國の)
Germany (獨逸)	German (獨逸の)
Portugal (葡萄牙)	Portuguese (葡萄牙の)
Spain (西班牙)	Spanish (西班牙の)

VIII. 數量形容詞

1. 數量形容詞 (quantitative adjective) は數 (number),

順序 (order), 量 (quantity) 又は度合 (degree) を表す形容詞である。

☞ 同じ數量形容詞でも多くのとか少しのと言ふ漠然たる數を表すものと二つとか百とか定まつた數量を表すものがある。斯く後者の如く定數を表す數量形容詞は又數詞 (numerals) とも言ふ。數詞は基數 (cardinal numbers)、序數 (ordinal numbers) 及び倍數 (multiplicatives) の三つに分れる。

基數は how many (old, high, deep.....) (幾つ) と言ふ問に對する答となるもので一つとか十とか二十と言ふ普通の數字である。

- ① How old is he? He is thirty. (彼は幾歳だ、三十です。)
☞ { He is in his thirties. (彼は三十代です)。
{ He is still in his teens. (彼は未だ十代だ)。

序數 (ordinal numbers) は which in order (何番目、いくつ目) なる問に對する答になるもので第一のとか十番目のとか順序を表す形容詞である。

- ② first (=1st) 第一 seventh (=7th) 第七
second (=2nd) 第二 eighth (=8th) 第八
third (=3rd) 第三 ninth (=9th) 第九
fourth (=4th) 第四 tenth (=10th) 第十
fifth (=5th) 第五 eleventh (=11th) 第十一
sixth (=6th) 第六 twelfth (=12th) 第十二

☞ 序數には必ず定冠詞の the がつく。即ち the first とか the second のやうに。但し序數の代りに基數を用ゐる事も出来る。

- ③ The second lesson = Lesson two (第二課)
The ninth page = Page nine (第九頁)

☞ 尙序數には第一から第三までは first (=1st); second (=2nd); third (=3rd) となるがその他は -th なる接尾語をつける。即ち twentieth や seventh のやうに。

羅馬數字 (Roman figures) がよく英語で用ゐられるから其の書き方を記して見やう。

{ 1	5	10	50	(アラビア数字)
{ I	V	X	L	(ローマ数字)
{ 100	500	1000		
{ C	D	M		

● 羅馬数字では小なる数字を大なる数字の右へ書けばそれを足すのであるが、逆に小なる数字を大なる数字の左へ書けばそれを大なる数字より引く事になる。

- III=3 VIII=8
- IV=4 IX=9
- CL=150 CM=900
- MCMXXXVII=1933

● 倍数 (multiplicatives) も数量形容詞の中に入るものであつて、*single* (一つの), *half* (半分の), *double* (倍の), *times* (.....倍) がこの倍数である。

- a single soul たつた一人
- half an hour 半時間
- a double suicide 心中
- once (一度); twice (二度); thrice (三度).

Mt. Fuji is three times $\left\{ \begin{array}{l} \text{as high as} \\ \text{the height of} \end{array} \right\}$ Mt. Tsukuba.

(富士山は筑波山より三倍高い)。

2. 数量形容詞中前述の数詞即ち序数、基数及び倍数以外のものは皆不定数を表す。此の不定数を表す数量形容詞は

- (a) 数を表すもの many; few; a few; some; several; sundry; any; all; enough; no.
- (b) 量を表すもの much; little; a little; some; any; all; enough; sufficient; no.

等である。

3. many と much の用法。

many は「多くの」「多数の」の意味で複数普通名詞につく。

much は「多くの」「澤山の」の意味で量又は度合を表すから物質名詞又は抽象名詞に附く。

- Many persons were killed. 死者が多かつた。

Much money was wasted. 澤山の金を浪費した。

● as many は「同数の」「それだけの」で as much は「同量の」「それだけの」との意。so many は不定の数を表し「いくら」の意、又 so much は不定の量を表して「いくら」となる。但し前に like や as が来れば as many の代りに so many を用ゐ、as much の代りに so much を用ゐる。

- I waited for him two hours—it seemed to me as many days. (私は彼を二時間待つて居たのだが、其の二時間はまるで二日間のやうに思はれた)。

The wall was about fifteen feet high, and as many thick.

(塀の高さは十五呎で厚さも同じく十五呎あつた)。

When he was sentenced to death, he seemed as calm as if he had expected as much. (彼は死刑の宣告を受けた時豫てそれだけの事を豫期して居たかの如く従容として居た)。

Apples are sold at so many for a yen. (林檎は一圓にいくらで賣る)。

They climbed like so many monkeys. (彼等はまるで猿のやうに登つた)。

4. few と a few 及び little と a little の用法。

few は many に對して「少ない」事を表し、a few は none に對して「少しはある」事を表し、共に複数普通名詞に附く。

little は much に對して量の「少ない」事を表し、a little は none に對して「少しはある」事を表す、共に單數名詞即ち物質名詞又は抽象名詞につく。即ち few と little は打消の意味である。

- He has little money and few friends. (彼は金も少ないし友達も少ない)。

I have a few books. (私は本を少し持つて居る)。

● 故に not a few 及び not a little は「少なからざる」との意味を表す。又「本當に少ない」「殆ど無い」と言ふ打消の句は複数普通名詞なら but few; very few; only a few を用ゐ、物質名詞又は抽象名詞には but little;

very little; only a little を用ゐる。

- There are $\left\{ \begin{array}{l} \text{but few} \\ \text{very few} \\ \text{only a few} \end{array} \right\}$ students who can read and write English well.

(英語をよく讀んだり書いたり出来る生徒は本當に少ない)。

- There is $\left\{ \begin{array}{l} \text{but little} \\ \text{very little} \\ \text{only a little} \end{array} \right\}$ hope. (見込は殆どない)。

☞ 「先づない」とか「殆どない」と言ふ意味では複数普通名詞には few or no; few, if any を用ゐる、物質名詞又は抽象名詞には little or no 又は little, if any (あつても至つて少ない) を用ゐる。

- There are $\left\{ \begin{array}{l} \text{few or no} \\ \text{few, if any} \end{array} \right\}$ such men. (そんな人は先づない)。

There is $\left\{ \begin{array}{l} \text{little or no} \\ \text{little, if any} \end{array} \right\}$ hope. (見込は先づない)。

☞ the few や the little は全部 (=all) を表す、即ち「少ないけれども全部」「なけなしの物をすつかり」と言ふ意味。

- He gave away the little money and the few books he had.
(彼は自分の持つて居た金と書物は 少なかつたけれども全部 くれて仕舞つた)。

I gave him $\left\{ \begin{array}{l} \text{the little money that I had.} \\ \text{what little money I had.} \end{array} \right.$

(私はなけなしの金を皆彼に呉れて仕舞つた)

IX. 代名形容詞

1. 代名形容詞 (pronominal adjective) は代名詞としても用ゐられる形容詞を言ふ。即ち此種の形容詞は名詞又は代名詞と共に用ゐれば形容詞であるが、單獨に用ゐれば代名詞となるのだ。

☞ 代名形容詞中數量に関するものは數量形容詞ともなる。即ち數量形容詞は又代名形容詞ともなるのである。例へば few; a few; little; a little; many; much; some; any

の如き之れである。

☞ 代名形容詞中代名詞として使用出来ぬものは every; certain; no だけである。

2. 主なる代名形容詞。

主なる代名形容詞は次の通り。

- (a) 所有格を表すもの (單數) my; your; his; her; its;
the boy's.
(複數) our; your; their; the
boys'.

☞ 代名詞又は名詞の所有格は形容詞の働をなす。

(b) 指示代名詞となり得るもの

- (一定) $\left\{ \begin{array}{l} \text{(單數)} \text{ this; that; such; the same.} \\ \text{(複數)} \text{ these; those; such; the same.} \end{array} \right.$
(不定) $\left\{ \begin{array}{l} \text{(單數)} \text{ some; any; a certain; another.} \\ \text{(複數)} \text{ some; any; certain; other.} \end{array} \right.$
(各自) each; every; either; neither.
(數量) $\left\{ \begin{array}{l} \text{both; all; some; any; no;} \\ \text{a few; few; a little; little.} \end{array} \right.$

(c) 關係代名詞又は疑問代名詞となり得るもの。

- (關係) which; what.
(疑問) what; which.

3. any の用法。

any は疑問文、條件文及び否定文に用ゐらる。any を疑問文及び否定文に用ゐると「幾らかあるか無いか」「誰か」「何か」を聞くのであつて、邦語には強いて譯さなくても宜い事が多い。否定文に用ゐると「少しも無い」「一人も無い」と言ふ事になる。

- Have you any books? 「何か」(本を持つてゐるか)
Yes, I have some books. (少し持つてゐる)
No, I have not any (=no) books. (少しも持つてゐない)
He asked me if I had any money with me. (彼は私に金を持つてゐるかと尋ねた)

Has $\left\{ \begin{array}{l} \text{anybody} \\ \text{any one} \end{array} \right\}$ come to see me? (誰か私を訪ねて来たか)

Is there anything in it? (それは何か入つてゐるのか)

注意 any が肯定文に用ゐられると三つ以上ある物の中で「誰でも」「何でも」「どれでも」「どこでも」の意味になる。

● Any book will do. (どんな本でもよい)

Either book will do. (どちらの本でもよい) (二冊の中)

4. some の用法。

some は肯定文に用ゐられる。有無を表す形容詞なる any (幾らか有るか無いか) に答ふるもので、「無い事はない、幾らか有る」「少しは有る」及び「數……」(=a few) の意味となる。尙 any に對する答の some は不定の意味であつて「有るか無いか」に對する答故、邦語には強いて「幾らか」とか「少し」とか譯さなくてもよい事が多い。之れ單數普通名詞の符號として不定冠詞の a や an が使用されると同様、複數普通名詞又は單數物質名詞の符號として some が用ゐられるからだ。

● Did you give him any money? (彼に金をやつたか)

Yes, I gave him some money. 「少し」(やつた)

No, I did not give him any money. 「少しも」(やらなかつた)

I want $\left\{ \begin{array}{l} \text{some apples. 林檎を} \\ \text{some water. 水を} \end{array} \right\}$ 少しほしい

注意 人に物をすゝめる時には疑問文でも any の代りに some を用ゐる。又 some は單數普通名詞につくと「誰か、何か、いつか、どこか」と言ふ不定の意味となり、普通名詞(複數)や抽象名詞に附くと「……の中には……のものもある」の意味を表す(此の場合 some は文首に出す)。

● Would you like some tea? (お茶は如何です)

(any を用ゐない)

May I offer you some coffee? (咖啡を差上げませうか)

(any を用ゐない)

There is some one at the door. (誰か玄関に来た)

Some student must have written it. (誰か生徒がそれを書いたに違ひない)

Some students are foolish enough to think so. (學生の中には愚かにもさう考へる者がある)

注意 some と any の比較。

● You must come some day. (いつかきつといらつしやい)

You may come any day. (いついらしても宜い)

He may come at any moment (いつ來るかも知れない)

5. a certain と certain の用法。

a certain (單數) と certain (複數) は話してゐる人には何者なるや解かつて居ながら之を言明するを欲せざる場合に用ゐるもので、「或」「某」と譯す。some は話してゐる人にも何者なるや解かつて居ない場合に用ゐる語で「何か」「誰か」と譯さねばならぬ。

● I met a certain gentleman yesterday. (昨日或る紳士に會つた)

Certain papers say so. (或る二三の新聞がさう言つてゐる)

A certain Mr. Watanabe. (渡邊某)

He is reading some book. (何か本を讀んでゐる)

6. each と every の用法。

each も every も常に單數の名詞に附く形容詞である。each は代名詞としても用ゐられるが、every は代名詞としては用ゐられない。each は「銘々、各の、各自の、夫々、別々に」と言ふ意味で、「銘々に所有する」とか「分配する」意味を有す。every は all の意味の強い語で、「悉く、何れも、誰でも」「……で無い者は無い」の意味を表す。即ち every は each and all に等しい。同じく「各自の」「それぞれの」の意味でも respective や several は複數普通名詞に附く形容詞である。

● Each pupil has his own book. (生徒は銘々に自分の本を持つてゐる)

Every pupil knows his lessons. (生徒は誰でも皆自分の學課を知つてゐる)

Each and all pupils know their lessons. (生徒は皆悉く自分の學課を知つてゐる)

The boys went to their $\left\{ \begin{array}{l} \text{respective} \\ \text{several} \end{array} \right\}$ homes.

(子供等はそれぞれ自分の家に歸つた)

注意 every one of の形は「悉く、残らず、すつかり」の意味。not every + 単数名詞 = very few + 複数名詞で「稀れだ、滅多にない」を意味す。又 nearly every + 単数名詞 = most + 複数名詞 (大抵の、大概) となる。

② They were killed every one of them. (彼等はすつかり殺されてしまつた)

He is a gentleman every inch of him. (彼はどこからどこまでも紳士だ)

Every couple is not a pair. (似合つた夫婦は稀れだ)

No doubt, not every man is a hero; and heroic opportunities are not given every boy. (無論英雄たる人は稀であつて、且つ子供が英雄たり得る機會は滅多にない)

Nearly every Japanese student speaks English. (大體の日本の學生は英語を話す)

7. all と both の用法。

all は三つ以上の場合に用ゐられ、both は二つのものに用ゐる。all は「皆、凡ての、一切の、すつかり」を意味し、both は「二人とも、二つとも、兩方」の意。

☞ all も both も共に冠詞、形容詞及び所有格代名詞の前に置かねばならぬ。但し all と both は代名詞の前後何れに置くも可。又名詞の後へも置かれる。

③ Both my brothers have studied all their lessons. (私の兄弟は二人とも自分の學課を皆勉強した)

All the students of this school are diligent. (此學校の生徒は皆勉強だ)

$\left\{ \begin{array}{l} \text{All} \\ \text{Both} \end{array} \right\}$ of them are diligent. (代名詞の前)

They are $\left\{ \begin{array}{l} \text{all} \\ \text{both} \end{array} \right\}$ diligent. (代名詞の後)

My brothers are $\left\{ \begin{array}{l} \text{all} \\ \text{both} \end{array} \right\}$ diligent. (名詞の後)

注意 not all と not both とを混同してはならぬ。三

つ以上の者を全部打消すには not any; no; none のいづれかを用ゐる。二つの者を全部打消すには not either 又は neither を用ゐる。従つて not all は三つ以上のものの全部の打消しでなく部分的否定を表し、同様に not both も二つのものを全部打消すものではなく片方だけの否定を表す。

④ I do not know all of them = I know only some of them.

(皆は知つて居る譯でない) (知つて居るのは僅かだ)

I do not know any of them = I know none of them. (誰も知らない)

I do not know both of them = I know only one of them. (兩方は知らない) (片方しか知らない)

I do not know either of them = I know neither of them. (どちらも知らない)

Both his parents are not living (片親しかない)

Neither of his parents is living. (兩親がない)

8. Both と either の用法。

both と either はまぎらはしいが both は複数名詞に用ゐる、either は單数名詞に用ゐる。而して neither は either の打消しである。both は「兩方」「どちらも」で、either は「どちらか一方」「どちらか」を意味するのが普通であるが、然し either も亦 both の如く「兩方へ」「兩方」を意味する事もある。

⑤ You can take either side. (どちら側へついてもよい)

Put the lamp at either end. (どちらかの端へランプを置け)

The river overflowed on either side (= on both sides). (河が兩側へ氾濫した)

There is a door at either end of the room. (室の兩端に戸が一つ宛ある) (戸が二つ)

There are doors at both ends of the room (室の兩端に戸がある) (戸の數不明)

9. the same の用法。

the same は意味を強めると the very same; one and the same; the self same となり、「同一の」「同じ」の意を表す。☞ the same..... as は「同種の」を表し、the

same.....with 又は the same.....that は「同一の」「同じ」(=identical) を表す。

- We all attend the same school. (吾々は皆同じ学校へ行く)
I have the same dictionary as you (have). (君と同じ字書を持つてゐる) (同種)

This is the same dictionary $\left\{ \begin{array}{l} \text{with the one} \\ \text{that} \end{array} \right\}$ I lost yesterday.

(これは昨日僕が無くした字書と同じだ) (同一)

10. such の用法。

such は「斯かる、斯やうな、そんな」と言ふ意味の形容詞で単数普通名詞の前に付けば不定冠詞の a 又は an が such の次へ来る。但し複数普通名詞や抽象名詞又は物質名詞の前には不定冠詞を用ゐない。some; any; many; all; few; no 等は such の前に置く。

- I never read such an interesting book. (こんな面白い本は讀んだ事が無い) (単数)
I don't like such books. (僕はこんな本は嫌ひだ) (複数)
Tell me to do so and so at such and such an occasion, and I'll do so. (斯々の場合に斯々せよと仰つて下さればさう致します)
There are many (few) such men. (そんな人はいくらかもある「少ない」)
Such was his diligence that he made remarkable progress in his English (=He was so diligent that.....). (彼は非常に勉強家だつたから英語が著しく上達した)

11. 疑問形容詞の用法。

疑問形容詞は what 及び which で元來は疑問代名詞である。名詞と共に用ゐれば形容詞となるもので、人にも物にも用ゐらる。

- What size is your collar? (君のカラは何番か)
Which way shall we take? (どつちの道を行かうか)

12. 關係代名形容詞の用法。

關係代名形容詞は what; whatever; which; whichever で、此等の關係代名詞が次に名詞を伴へば形容詞と

なる。

- I gave him what little money I had. (少ないながら持つてゐる金を皆彼にやつた)
Take whichever book you prefer. (好きな本を持つて行き給へ)

X. 形容詞の變化

(Comparison of Adjectives)

1. 邦語の形容詞は比較を表はさない。

日本語では「てにおは」を用ゐて比較を表すのである。例へば「これはよい」と「これがよい」とは違ふ。即ち「これがよい」は「これの方がよい」事で他と比較して一層よい事である。故に邦語ではよいと言ふ形容詞は依然として變化しないが、比較を表す場合には主語につく「てにおは」を變へるのである。

- これはよい This is good.
 $\left\{ \begin{array}{l} \text{これが} \\ \text{この方が} \\ \text{こつちが} \end{array} \right\}$ よい This is better.
 $\left\{ \begin{array}{l} \text{これが} \\ \text{この方が} \\ \text{こつちが} \end{array} \right\}$ 一番よい。 This is the best.

日本語ではよい、一層よい、一番よいと形容詞の比較を表す場合「一番よい」は兎も角としてその他は主語の「てにおは」を變へて比較の度合を表すのである。然し英語では主語には何等の變化なく、直接形容詞を變化させて比較を表す。

2. 形容詞の變化。

英語の形容詞の變化とは比較の度合を表す爲めに起るもの故、形容詞の變化を殊に比較 (comparison) と言ふのである。

性質形容詞及び數量形容詞の good; bad; much; many; little; old 等の語は特別の變化をする。換言すれ

ば不規則な変化をするのである。

3. 形容詞の変化には三態ある。

一は原級 (positive degree) で二は比較級 (comparative degree)、三は最上級 (superlative degree) である。

4. 原級 (positive degree)。

原級 (positive degree) は普通の形容詞の形、即ち單純なる性質を表す形容詞である。

① This is a **fine** picture. (これは立派な繪だ)

This garden is **large**. (此庭は廣い)

5. 比較級 (comparative degree) とは二つの物又は人を比較して一方が他方に比して優つて居るか劣つて居るかを表す形容詞である。

比較級は邦語にはない事は前述の通りであつて、強いて譯せば「一層」とか「よりも」なる語句を用ゐるのであるが普通は主語の「てにおは」を變へて「此方が」「こつちが」「これが」と「が」を用ゐて比較を表すのが日本語の特徴である。

② This is **finer**. (此方が立派だ) (優越)

This is **finer than** that. (此方がそれより立派だ)

This picture is **less fine than** that. (此繪はそれほど立派

This picture is **not so fine as** that. (此繪はそれほど立派でない) (劣等)

This picture is **as fine as** that. (此繪はそれに劣らぬほど立派だ) (同等)

6. 最上級 (superlative degree) は三つ以上の人又は物を比較して最も優れた又は最も劣れる性質を表すもので、邦語では「一番、最も」なる語句を用ゐて表す。

③ He is **the cleverest** boy **in** our class. (彼は私達の級で一番出来る子供だ)

He is **the cleverest** boy **among** us. (彼は私達の中で一番出来る子供だ)

Iron is **the most useful** of all metals. (鐵は凡ての金属の中で一番有用である)

最上級の形容詞の次に名詞が来れば「……の中で」の意味の前置詞は **in, among** 及び **of** を用ゐる。 **in** は

單數名詞の前に用ゐる、**of** 及び **among** は複數名詞又は代名詞の前に用ゐる。

形容詞の最上級には定冠詞の **the** をつける。但し副詞の最上級には **the** を附けない。尙 **most** を「非常に、大層」(=**very**) 又は「大抵の、大概」の意味に用ゐれば **the** を附けない。

④ This is **the most** interesting book. (これが一番面白い本だ) (最上級)

This is a **most** interesting book. (これは大層面白い本だ) (=very)

Most people think so. (大抵の人はさう考へる)

7. 比較級及び最上級の作り方。

(1) 單音節 (one syllable) の語及び少數の二音節 (dissyllable) の語は語尾に **-er** を附けて比較級、**-est** を附けて最上級を作る。

(a) 語尾が **e** で終つて居れば **-r** を附して比較級、**-st** を附けて最上級を作る。(b) 又語尾が子音でその前が短母音の場合には語尾の字を重ねて **-er** や **-est** を附ける。次に (c) 語尾が **y** で終り **y** の前に子音があれば **y** を **i** に變じて **-er, -est** を附ける。但し **y** の前が母音の場合には **y** を **i** に變じない。

(原級)	(比較級)	(最上級)
deep (深い)	deeper	deepest
great (大なる)	greater	greatest
narrow (狭い)	narrower	narrowest
—	—	—
brave (勇敢な)	braver	bravest
noble (高尚な)	nobler	noblest
—	—	—
big (大きい)	bigger	biggest
thin (薄い)	thinner	thinnest
—	—	—
dry (乾いた)	drier	driest
busy (忙しい)	busier	busiest
happy (幸福な)	happier	happiest

注意 二音節 (dissyllable) で **-er** をつけて比較級、**-est** をつけて最上級を表すものは大抵終節にアクセントがあるか、さもなければ語尾が **-y, -er, -le** で其の前が子音の場合に限る。

(原級)	(比較級)	(最上級)
intense' (強烈な)	intens er	intens est
polite' (丁寧な)	polite r	polite st
an'gry (怒れる)	angrie r	angrie st
easy (容易な)	easy r	easy est
cleve'ner (出来る)	cleve'ner r	cleve'ner est
gentle (優しい)	gentle r	gentle st

(2) 三音節以上の語並に大多数の二音節の語は **more** 又は **less** (劣れる場合) をつけて比較級、**most** 又は **least** (劣れる場合) をつけて最上級をつくる。☞ 同じ二音節の語でも語尾が **-ful; -less; -ous; -ive; -ing** 等の場合には決して **-er** や **-est** を附けない。

(原級)	(比較級)	(最上級)
useful (有用な)	{ more less } useful	{ most least } useful
famous (有名な)	more famous	most famous
active (活動的)	more active	most active
beautiful (美しい)	{ more less } beautiful	{ most least } beautiful
loving (愛する)	more loving	most loving
interesting (面白い)	more interesting	most interesting

(3) 次の形容詞は変化が不規則である。

(原級)	(比較級)	(最上級)
bad } (悪い)	worse	worst
evil }		
good } (よい)	better	best
well }		
much } (多い)	more	most
many }		

far (遠い)	{ farther	{ farthest
	{ further	{ furthest
little (少ない)	less	least
old (年とれる)	{ older	{ oldest
	{ elder	{ eldest

☞ older, oldest は単に年が一層多い事を示し elder, eldest は長幼の順を示す、即ち一家又は一社会に於ける長者を示し次へ名詞が来る。

例 My elder brother is two years older than I. (私の兄は私より二歳年上だ)

My eldest brother is five years older than I. (私の長兄は私より五歳年上だ)

8. 羅典語から出た比較級の形容詞は **than** の代りに **to** を用ゐる。☞ 尚かゝる形容詞の語尾は **-or** で終り且つ accent が終節から三番目にある事に注意せよ。

☞ His strength is **superior to** (=greater than) mine (彼の力は私の力にまさつてゐる)

His strength is **inferior to** (=less than) mine. (彼の力は私の力に劣つてゐる)

注意 se'nior to (より年長の); ju'nior to (より年下の); ante'rior to (より前の); poste'rior to (より後の) も同じ。

9. 比較級を用ゐて最上級の意味を表す事が出来る。

(a) 比較級 + **than** + any other + 単数名詞 とすれば「外のどの……よりも一層……である」となり (b) 比較級に打消の語を附けると最上級の意味を表し「……よりも——なる者が無い」となりいづれも「一番……である」と言ふ最上級の意味を表す。

☞ (a) Mt. Everest is **higher than any other mountain** in the world (=Mt. Everest is the highest mountain in the world). (エヴァレスト山は世界のどの山よりも高い)

(b) **Nothing is more important** in war than unity of command (=Unity of command is the most important in war). (戦争では命令の統一ほど大事なものは無い)

10. **no more than** と **not more than** 並に **no less**

than と not less than の用法。

no more than は only に同じで「僅か、……に過ぎない」意。not more than は「……より少ないかも知れないが決して多くない」事で「約……位」「……位しか」(=only about) の意。no less than は「丁度、同様に、……程も」(=as many [much] as; just; like) の意。not less than は「……より多くとも決して少なく無い、……以上」(=or more) の意。

① He is **no more than** (=only) twenty years old. (彼は僅か二十歳だ)

He has **not more than** (=only about) 100 yen. (彼は百圓位しか金を持つてゐない)

He studied English **no less than** (=as many as) ten years.

(彼は十年間も英語を勉強した) (丁度又はそんなに長く)

He studied English **not less than** ten years (=ten years or more). (彼は十年間は請合つて英語を勉強した、十年以上も習つた)

11. no more than と not any more than の用法、

此の二つは両方の不可能なるを示す形で

(a) A is no more B than C is [D].

(b) A is not B any more than C is D.

として用ゐられ、常に than の前から譯して「A が B で無いやうに C も D で無い」と譯す。

① The whale is **no more fish than** a horse is. (鯨の魚に非ざるは猶馬の魚に非ざるが如し)

It is **not easy to give away money any more than** it is to make money. (金を與へる事の容易で無いのは金を儲ける事の容易で無いと同じだ)

☞ **no less than** は「……と同様に」と後から譯す事に注意せよ。

② Want of care will ruin the good man **no less than** the man of lax morals. (不注意は不品行な人を破滅させると同様善人をも滅ぼすものだ)

XI. 形容詞の作り方

邦語の形容詞には「……しき」「……き」「……しい」が語尾に附いて居る事が多く又「……のやうな」「……らしい」「……的」なごの接尾語を附けると形容詞が出来る。英語でも之と同様で元來が形容詞である語は別としてその他は次の如き接尾語 (suffix) を付けて形容詞をつくるのである。換言すれば次の接尾語のついて居るものは全部形容詞である。

形容詞を作る接尾語。

1. -able, ible (……し得る、得べき、される)。☞ 動詞より形容詞を作る

① eat **ble** (食はれる); laugh**able** (笑ふべき); port**able** (運ばれる); reli**able** (信すべき); vis **ble** (見える)。

2. -al (……的、的) ☞ 名詞より形容詞を作る。

② national (國民的、國民の); natural (自然の、自然的); occasional (時々の); legal (法律的、法律上の); royal (王の)。

3. -ant, ent (……なる、の)。☞ 名詞より形容詞を作る。

③ abund**ant** (溢れる、豊富な); dilig**ent** (勤勉な); frag**ant** (匂のよい); silen**t** (沈黙せる)。

4. -ary, -ar, -an (……なる、の、的)。☞ 名詞より形容詞を作る。

④ frag**mentary** (断片的); hono**rary** (名譽の); seco**ndary** (第二の、從的); tempo**rary** (一時的); volun**tary** (隨意的); prim**ary** (主なる、第一の); sect**arian** (宗派的); Amer**ican** (アメリカの)。

5. -ate (……する、的、なる) ☞ 名詞より形容詞をつくる。

⑤ affec**tionate** (愛情の深い); priv**ate** (私の)。

6. -en (……製の、の)。☞ 名詞より形容詞をつくる。

⑥ hempen (麻の); woollen (羊毛の); golden (黄金の、金の如き); braz**en** (真鍮製の、厚顔な)。

7. -escent (……へ向へる、……しかける)。動詞より形容詞を作る。

① convalescent (快方に向へる); obsolescent (廢れかゝつた)。

8. -ese (……の)。固有名詞より形容詞をつくる。

① Japanese (日本の); Chinese (支那の); Portuguese (ポルトガルの)。

9. -esque (……らしい、の様な)。名詞より形容詞をつくる。

① picturesque (繪のやうな); arabesque (アラビヤ風の)。

10. -fold (……倍、……重)。數詞について形容詞を作る。

① twofold (二重の、二倍の); fourfold (四倍の、四重の)。

11. -ful (……に満ちた、多い、の)。名詞について形容詞をつくる。

① beautiful (美しい); hopeful (有望な); fruitful (實多き、結果のよい)。

12. -ic, -ical (……的、上、の)。名詞より形容詞を作る。

① aristocratic (貴族的); aquatic (水上の); botanic (植物の); historic (歴史の); mythic (神話の)。

13. -id (……の、的、なる)。名詞より形容詞を作る。

① acid (酸い); candid (卒直な); morbid (病的な); rapid (迅い)。

14. -ish (……らしい、……じみた、稍……の)。名詞又は形容詞に附いて形容詞を作る。

① boyish (子供じみた); selfish (利己的な); reddish (赤味を帯びた)。

15. -ive (……的、……する、なる)。動詞について形容詞を作る。

① active (活動的); attentive (注意深い); oppressive (壓迫する)。

16. -less (……無き)。名詞について形容詞を作る。

① countless (無数の); homeless (宿なしの); hopeless (絶望の)。

17. -like (……らしい、のやうな)。名詞に附いて形容詞を作る。

① gentlemanlike (紳士らしい); homelike (自宅のやうな); womanlike (女らしい)。

18. -ly (らしい、のやうな)。名詞について形容詞を作る。

① friendly (友達らしい); manly (男らしい); lovely (愛らしい); heavenly (天上の、天の)。

19. -oid (……状の、に似た)。名詞について形容詞をつくる。

① alkaloid (アルカリの如き); anthropoid (人に似たる)。

20. -ous, -ose (……に富める、多い、的、する)。名詞について形容詞をつくる。

① audacious (大膽なる); cautious (用心深い); dangerous (危険な); glorious (光榮ある)。

21. -some (……に満ちたる、する、なる、の)。名詞に附いて形容詞をつくる。

① frolicsome (ふざける); handsome (美しい); lonesome (淋しい); troublesome (厄介な)。

22. -sory, -tory (……する、の、的)。名詞に附いて形容詞をつくる。

① compulsory (強制的); exclamatory (感歎的); promissory (約束の)。

23. -y, -ey (……する、なる、の、的)。名詞又は動詞に附いて形容詞をつくる。

① bloody (血の、血腥き); fatty (脂肪の、太つた); greedy (貪慾な); needy (窮乏せる); wealthy (富める); sticky (ねばる)。

練習問題

I. 文法

I. 次の語の形容詞を作れ。

1. occasion; breadth; nature; value.

2. snow; grace; fool; wood.
3. Greece; India; Italy; China; Rome; Turkey; Korea.

II. 次の語の比較級及び最上級を書け。

1. bad; far; happy; ill; little.
2. good; few; polite; severe; busy; hot; famous.

III. 次の文の誤を正せ。

1. You are diligenter than him.
2. Few money is better than none.
3. He was much glad to have few friends here.
4. As a material for clothing, wool is superior than cotton.
5. The Mutsu is larger than all the Japanese warships.
6. Health is more good than wealth.
7. I can live in every house.
8. The latest man who left the ball was Mr. A.

【解答】 I. 1. occasional (時々); broad (広い); natural (自然の); valuable (値のある)。 2. snowy (雪の降る); graceful (優美な); foolish (愚かな); wooden (木製の)。 3. Greek (希臘の); Indian (印度の); Italian (伊太利の); Chinese (支那の); Roman (羅馬の); Turkish (土耳其の); Korean (朝鮮の)。

II. 1. bad (悪い), worse, worst; far (遠い), farther, farthest; happy (幸福な), happier, happiest; ill (病氣な、悪い), worse, worst; little (少ない), less, least. 2. good (よい), better, best; few (少ない), fewer, fewest; polite (丁寧な), politer, politest; severe (ひどい), severer, severest; busy (忙しい), busier, busiest; hot (暑い), hotter, hottest; famous (有名な), more famous, most famous.

III. 1. You are more diligent than he (君は彼より勤勉だ)。 2. A little money is better than none (少しの金でも無いよりしました)。 3. He was very glad to have a few friends here (彼は此處で僅かでも友達のある事を非常に喜んだ)。 4. As a material for clothing, wool is superior to cotton (被服の材料としては羊毛が綿にまさつてゐる)。 5. The Mutsu is larger than any other Japanese warship (陸奥は日本の外のどの軍艦よりも大きい)。 6. Health is better than wealth (健康は富にまさる)。 7. I can live in any house (私はどんな家にでも住める)。 8. The last man who left the ball was Mr. A (舞踏會を最後に出たのはA君だつた)。

II. 英文和譯

- IV. 1. There is no more dependence to be placed on his word than there is on the wind.
2. The artist and the philosopher can no more do without society and the state than the vegetable and animal can exist without the mineral kingdom.
3. A home without love is no more a home than a body without a soul is a man.
4. You can not injure such a man any more than you can throw a stone at the sun.
5. The English language is as fine a vehicle of thought and expression as any; it is rapidly becoming the language of the world; and the treasures of English literature are second to none.
6. Many people think they are enjoying themselves, merely because they are doing nothing useful.
7. A war of eighteen months will work not three times but ten times the evil of a war of six.
8. Nature yields nothing, except to the sweat of man's brow; every gift on her part is a recompense for effort on his.
9. True greatness has little, if anything, to do with rank or power.

【解答】 IV. 1. 彼の言葉の當てにならぬ事は風の當てにならぬと同じだ。 2. 美術家や哲學者が社會と國家無しにやつて行けない事は植物や動物が礦物〔界〕が無くては生存出来ないのと同じだ。 3. 愛の無い家が家庭で無い事は靈魂の無い身體が人間で無いのと同じだ。 4. 諸君がかゝる人を傷つける事の出来ないのは恰も太陽に石を投げつける事の出来ないのと同じだ。 5. 英語は思想及び表現の器としてどの國語にも劣らぬ立派なものだ、英語は迅速に世界語となりつゝある、英文學の至寶はどの文學にも劣らない。 6. 役に立つ事を何もしないで居るから面白く遊んで居ると思つてゐる人が多い。 7. 一年半の戦争の賣す戦禍は半年の戦争の戦禍の三倍でなく十倍だ。 8. 自然は人間が顔に汗を流して働くに非ざれば何物

10. Without care and method, the largest fortune will not, and with them, the smallest will, supply all necessary expenses.

III. 和文英譯

- V. 1. 君の作文は私のよりよいがあの人の一番よい。
 2. あの人は昨日病氣になつて段々悪くなるばかりだ。
 3. あの人は私よりも遠くへ行つたが君は皆の中で一番遠くへ行つた。
 4. あの人は瘠せてゐるが、君の方がずつと瘠せてゐる。
 5. 始めは随分淋しい思ひをしたが今では友達も出来て愉快地暮して居る。
 6. 私は南向きの明るい日當りのよい室を書齋として居る。
 7. 彼はその行動極めて大膽であるが他面に於て小事をも輕視しない。

【譯語】も與へない、自然の方で與へる有らゆる賜物は人間の方の努力に對す報酬である。9. 眞の偉大は位や權力と殆ど關係がない。10. 注意と組織がなければ最大の財産もあらゆる必要な経費を支辨出来ないが、注意と組織がありさへすれば最小の財産でもあらゆる必要な経費を支辨出来る。

V. 1. Your composition is **better than mine**, but his is **the best**. 2. He fell ill yesterday, and is **getting worse**. 3. He went **farther than I**, but you went **farthest of all**. 同 **far** の比較級と最上級でも **farther, farthest** と **further, furthest** とある。**farther, farthest** は實際の距離を表し、**further, furthest** は比喩的に程度即ち「更に」「其の上」の意を表す。4. He is thin, but you are **far (much) thinner**. 同 **far** の比較級や最上級の度合を表すには、即ち「ずつと」とか「遙かに」を表すには **much; far; by far** を用ゐる。5. At first I felt **very lonely**, but I am **living a happy life**, now that I have got some friends. 6. My study is a **light, sunny room, facing the south**. 7. He is **very bold** in his action, but on the other hand **does not make**

8. 今日久し振りで郊外へ散歩に出たらすつかり春景色になつてるので愉快でならなかつた。
 9. 前藏相 A 氏は来る二十日經濟狀況視察の爲め渡歐することになつた。
 10. こんな好い機會は一度逸したら二度と容易に來ないだらう。

第三章 副詞

I. 副詞の作り方

1. 日本語の副詞は「非常に」とか「うんと」「ひさく」「著しく」の如く「に、と、く」なきの「てにおは」の變化で表はす事になつてゐる。

英語でも元來の副詞は別として名詞又は形容詞から副詞を作るには接尾語 (suffix) を用ゐるので、その數は次の六つである。

2. 副詞を作る接尾語。

-less (……無く、せずに)。名詞に附いて副詞を作る。

doubtless (疑もなく); questionless (疑もなく、確かに)。

-ly (……のやうに、に)。形容詞に附いて副詞を作る。

kindly (親切に); badly (悪く、ひどく); quickly (早く); mostly (大部分); beautifully (美しく)。

-ward, -wards (……の方に、へ、に)。名詞又は形容詞に附いて副詞を作る。

eastwards (東へ); southwards (南へ); afterwards (後に);

light of small things. 8. I went to the suburbs for the first walk in many days and was highly delighted at the entirely spring-like scenery. 9. Mr. A, former Finance Minister, will leave for Europe on the 20th of this month to inspect economic conditions. 10. Such an excellent opportunity, if once missed, will never come again.

downwards (下方へ); towards (……へ、に)。

-wise, -ways (……のやうに、……なりに、方法で)。

名詞又は形容詞に附いて副詞を作る。

- ① crosswise (横に); lengthwise (長く、縦に); noways, nowise (決して、少しも……無い); otherwise (然らずんば、他に)。

II. 副詞の位置

1. 副詞の位置は日本語では一定不変だと言つてよい、即ち形容詞又は動詞の前にいつでも副詞があるのだ。然し英語では一定不変でない、大體は英語の副詞は動詞には後に、形容詞には前へ附ける事になつてゐる。詳しく言へば次の通りだ。

2. 自動詞の場合。自動詞を修飾する副詞は其の自動詞のすぐ後へ置く。

- ① He speaks **quickly**. (彼は早口だ)

注意 always; never; often; sometimes; generally (一般に); usually (大抵); apparently (一見); rarely (稀に); seldom (稀に) 等の副詞は大抵 自動詞の前に置く。

- ② It **apparently** is false. (それは嘘らしい)。

He **seldom** stays away from school. (彼は滅多に學校を休まない)。

3. 他動詞の場合。他動詞の場合には之を修飾する副詞は他動詞の前又は目的語の後に置く。

- ③ **Kindly** show me the way. (どうぞ道を教へて下さい)。

He showed me the way **kindly**. (彼は親切に道を教へてくれた)。

4. 助動詞ある場合。助動詞ある場合には副詞は助動詞と本動詞との間に置く。

- ④ I will **never** do it again. (私は決して二度とそんな事をしない)。

The wind has **suddenly** fallen. (風が突然止んだ)。

5. 形容詞、副詞及び句の場合。形容詞、副詞、句及び

節を修飾する副詞は其の前に置く。

- ⑤ It is **very** difficult. (それは非常に六ヶ敷い)。

He speaks English **very** well. (彼は英語をよく話す)。

He left **soon** { after my arrival }
after I arrived } (彼は僕が到着すると間もなく出發した)。

注意 enough なる副詞は其の修飾する語の後へ置く。

- ⑥ He is not old **enough**. (彼は未だ年が足りない)。

He does not work hard **enough**. (彼は勉強が足りない)。

6. 文全體を修飾する場合。文全體を修飾する副詞は文首に置く。

- ⑦ **Happily** he did not die (=It was happy that he did not die). (幸にも彼は死ななかつた)。

注意 He did not die **happily** (=He did not die a happy death) は「彼は幸福な死に方をしなかつた」

7. 意味を強める場合。意味を強める場合には副詞を文首へ置く事がある。

- ⑧ **Scarcely** had I finished my work when my friend came to see me. (私が仕事を終へるか終へない内に私の友が訪ねて來た)。

8. 定まれる時を表す場合。定まれる時を表す副詞、又は副詞句は文の初めか終りへ置く。又場所を表す副詞は時を表す副詞の前に置く。

- ⑨ The 20th athletic meeting of our school will be held **in our school ground next Sunday**. (我校の第二十回運動會は來る日曜日に校庭で舉行される)。

A big fire broke out **in Honjo on the night of the 15th of this month**. (今月十五日の夜本所に大火があつた)。

注意 next Sunday 及び on the night of the 15th of this month は文首へ出してもよい。

9. 副詞句及び副詞節の場合。adverbial phrase 及び adverbial clause は普通其の修飾する語の次へ置く。

- ⑩ Will you go **on foot or by tram**? (歩いて行きますか電車にしますか)。

I will learn it **by heart**. (私はそれを暗記します)。

10. infinitive の場合。副詞は不定詞の後へ置くを常とす。to と root との間に副詞を挟む事は成るべく避けねばならぬ、但し not, never, always 等は infinitive の前へ置く。

⑨ He has been ordered by the Education Department to proceed abroad. (彼は文部省から海外出張を命ぜられた)。

I hope never to see his face again. (彼の顔は二度と見たくないものだ)。

III. 副詞の定義

副詞 (Adverb) とは動詞、形容詞又は他の副詞を修飾する語である。副詞は又時に文全體を修飾する事もある。

⑩ He speaks English well. (彼は英語をよく話す)

(動詞を修飾)

He is a very clever boy. (彼は非常によく出来る子供だ)。

(形容詞)

He works very hard. (彼は非常によく勉強する)。(副詞)

Unfortunately the offender was still at large. (不幸にして犯人は未だ縛につかなかつた)。(文全體)

IV. 副詞の種類

1. 副詞の種類。副詞には單純副詞、疑問副詞及び關係副詞の三種類ある。

2. 單純副詞 (Simple adverb)。單純副詞は very, often, much, now, then, here, kindly の如く單に他の語句を修飾する副詞である。單純副詞は其の意義に依つて次の六種に分類する事が出来る。

(a) time (時間) に関するもの: always; early; late (遅く); lately (近頃); recently (近頃); ever (常に); now; then; before; since (其の後); ago (以前); already; soon; presently (すぐ); immediately (直ちに); instantly (即座に); afterwards; never; to-day; to-mor-

row; yesterday.

(b) place (場所) に関するもの: here; there; hence (これから); thence (それから); hither (こちらに); thither (あちらに); in; out; within; without; above; below; inside; outside; around; whence (それから); far; near; forwards; backwards.

(c) manner (方法) に関するもの: thus (かくして); so; well; ill; badly; amiss (間違つて、悪く); probably; certainly; kindly; otherwise (さも無くば); lengthwise (縦に)。此の副詞には -ly 又は -wise がつく事が多い (二七、二八頁参照)

(d) number (數) に関するもの: once; twice; thrice (三度); again; seldom; often; firstly (第一に); secondly (第二に)。

(e) degree or quantity (度合又は分量) に関するもの: very; much; too; quite; almost; little; a little; rather; somewhat; half; partly (一部); wholly (全部); greatly; but (過ぎない、僅かに); even; merely; thus; the (それだけ)。

(f) affirmation or negation (肯定又は否定) に関するもの: yes; certainly; surely; by all means (是非); no; not; never; not at all.

⑪ (e) の the は形容詞又は副詞の比較級につくもので「それだけ」の意。

⑫ He worked the harder because he had been encouraged. (彼は奨励されたのでそれだけ益々勉強した) この the を指示副詞とも言ふ。

3. 疑問副詞 (interrogative adverb)。疑問副詞は疑問文に用られる副詞であつて其意味に依つて次の六種に分れる。

(a) time (時間) に関するもの: when (いつ); what time (何時); how long (どの位、いつから)。

(b) place (場所) に関するもの: where (どこに);

whence (どこから); whither (どちらへ)。

(c) number (数) に関するもの: how many (きの位); how often (何度)。

(d) manner, quality or state (方法、性質又は状態) に関するもの: how (如何に、さうして); in what state (どんな状態に)。

(e) degree or quantity (度合又は分量) に関するもの: how; how far (きの位)。

(f) cause or reason (原因又は理由) に関するもの: why; wherefore; how.

4. 関係副詞 (relative adverb)。関係副詞は二文を接続し、一語で副詞と接続詞の役目を兼ねるもので when, while, where, how, why, the 等を言ふ。

(a) time (時間) に関するもの: when; while; whenever; whence.

① Let me know the time when you will come. (形容節)
Let me know when you will come. (名詞節)
(君の来る時間を知らしてくれ)。

(b) place (場所) に関するもの: where; wherever.

② This is the place where we dwell. (形容節)
This is where we dwell. (名詞節)
(ここが吾々の住む所です)。

(c) manner (方法) に関するもの: how; however.

③ This is the way how he did it. (形容節)
This is how he did it. (名詞節)
(彼はかと言ふ風にしてやつたのです)。

(d) reason (理由) に関するもの: why.

④ This is the reason why he did it. (形容節)
This is why he did it. (名詞節)
(これ彼がさうした理由です)。

(e) degree (度合) に関するもの: the (すればする程)。

⑤ The more men have the more they desire. (人は澤山持てば持つほど欲しがらるものだ)。

The sooner he comes, the better for him. (早く来れば来る

程彼の爲めによい)。

⑥ 最初の the は関係副詞 (すればする程) (=to what extent) で、第二の the は指示副詞 (それだけ益々) (=to that extent) である。大抵、

the + comparative, the + comparative の形で用ゐられる。関係副詞の the だけ独立的に用ゐられる事は無い (指示副詞は別)。⑦ 第 31 頁参照。

5. 二重副詞 (double adverb)。副詞中には二つ重ねて用ゐられるものがある、之を二重副詞と言ふ。

⑧ He is well off, but I am badly off. (彼は暮がよいが僕は貧乏だ)。

He is hard up in money. (彼は金にこまつてゐる)。

She is well up in English. (彼女は英語が旨い)。

The school is quite close by. (学校はすぐ近くだ)。

Later on, he let me know it over the telephone. (後で彼はそれを電話で私に知らせた)。

⑨ far away (遠く離れて), over there (向ふに), over again (再び) 等も二重副詞だ。

V. 副詞の變化 (Comparison of adverbs)

1. 副詞の變化は形容詞の變化と同様であるから、形容詞の變化を参照されよ。⑩ 第 17 頁。

2. 単音節の語及び early や often の如き少数の二音節の語は語尾に -er を付けて比較級、-est をつけて最上級を作る。

positive (原級)	comparative (比較級)	superlative (最上級)
soon	sooner	soonest
fast	faster	fastest
often	oftener	oftenest
early	earlier	earliest

3. -ly にて終る副詞及び其他大多数の二音節及び三音節の副詞は more をつけて比較級、most を付けて最上級を作る。⑪ 打消の意味では less, least をつける。

㉒ (原級)	(比較級)	(最上級)
bravely	{ more } bravely	{ most } bravely
	{ less }	{ least }

4. 不規則の變化をする副詞。次の副詞は不規則な變化をする。

㉓ (原級)	(比較級)	(最上級)
well	better	best
ill	worse	worst
badly		
much	more	most
far	{ farther }	{ farthest }
	{ further }	{ furthest }
late	later	{ latest (最近の) }
		{ last (最後の) }
little	less	least

5. 形容詞の最上級には **the** をつけるが、副詞の最上級には **the** を附けない。

㉔ Spring is **the best** season of the year. (春は一年中で一番よい季節だ) (形容詞)

I like spring **best**. (私は春が一番好きだ) (副詞)

6. **too** と **very** と **much**。too と very は原級の形容詞及び副詞を修飾するか或は現在分詞を修飾する。much は之に反して比較級を修飾するか或は動詞及び過去分詞を修飾する。

㉕ Don't eat **too much** sugar. (砂糖を食べ過ぎるな) (形容詞修飾)

You are **very** diligent. (君は非常に勤勉だ) (形容詞修飾)

You are **too** obliging. (君は親切過ぎる) (現在分詞修飾)

I am **much** surprised to hear you speak so **much**. (君があんなにうんとしゃべるのを聞いて非常に驚いた)

(過去分詞及動詞修飾)

Wisdom is **much** better than gold. (智慧は黄金よりずっとよい) (比較級修飾)

注意 **very tired**; **very pleased**; **much afraid** は例外である。

VI. 注意すべき副詞の用法

1. **yes** と **no** の使ひ分け。yes と no とは極めて簡単にも拘らず邦人學生はよく間違ふものだ。yes と no との使ひ分けの原則は簡単明瞭であつて、問の文の肯定否定に拘らず答が否定の場合には **no** を用ひ、答が肯定の場合には **yes** を用ゐるのだ。

- ㉖ { Is this book difficult? (此本は六ヶ敷いか) (肯定)
Yes, it **is** difficult. (はい、六ヶ敷いです) (肯定)
No, it **is not** difficult. (いや、六ヶ敷くない) (否定)
Is this book **not** difficult? (此本は六ヶ敷くないか) (否定)
Yes, it **is** difficult. (いえ、六ヶ敷い) (肯定)
No, it **is not** difficult. (はい、六ヶ敷くない) (否定)

2. **not** の用法。not は助動詞と本動詞との間に挿入する打消語で、現在の時には **do** (第三人稱單數は **does**)、過去の時は **did** を加へ次へ **not** を置く。

- ㉗ I **do not** like him. (彼をすかない)
I **did not** like him. (彼をすかなかつた)
He **does not** like me. (彼は私をすかない)

注意 **be** と **have** のみは例外であつて打消の場合には助動詞の **do** を使はないで直ちに **not** を次へ置く。又助動詞がいくつもある時は最初の助動詞の次へ **not** を置く。

- ㉘ { I **am not** a teacher. (私は先生ではない)
I **have not** your book. (君の本を持つてゐない)
He **might not** have been successful, if he had been idle.
(彼は怠けて居たら旨く行かなかつたかも知れない)

3. **think not**; **hope not**; **fear not** の用法。答の **think not**; **hope not**; **fear not**; **expect not** 中の **not** は直接に **think**; **hope**; **fear**; **expect** 等の本動詞を打消すのではなく、次へ來るべき從屬節を打消すのである。勿論此の從屬節は略されてゐるのだ。

- ㉙ Do you **think** it will rain to-morrow? (明日降ると思ふか)
I **think not**. (降らないと思ふ) (=I think it will not rain to-morrow)

- { Will he die? (あの人は死ぬでせうか)
 { I hope not. (死なないと思ふ) (=I hope he will not die)
 { Will it clear up to-morrow? (明日は晴れるでせうか)
 { I fear not. (晴れまいと思ふ) (=I fear it will not clear up to-morrow)
 { Will things go all right? (萬事旨く行くでせうか)
 { I am afraid not. (旨く行くまいと思ふ) (=I am afraid things will not go all right)
 { Will he come? (来るでせうか)
 { I expect not. (来まいと思ふ) (=I expect he will not come)

4. **no** と **not** の用法。 **be** 及びその變形 (**am; are; is; was; were**) を打消すには **not** を用ゐる、**there is; have; want; give** を打消すには **no** を用ゐる。但し意味を強める爲めには此の逆にする、即ち **be** へ **no** を用ゐて打消し **there is; have; want; give** 等を打消すに **not** を用ゐる。

- { I am not a scholar. (私は學者でない)
 ● { I am no scholar. (學者でも何でもない) (強勢)
 { I have no money. (金はない)
 { I have not any money. (金は少しもない) (強勢)
 { There is no university in this town. (此町に大學は無い)
 { There is not any university in this town. (此町に大學は一つだつてない) (強勢)

5. **never** と **nothing** の用法。 **never** は「決して……無い」 (=not ever) で、**nothing** は「少しも……無い」 (=not anything) の義で、意味を強める爲めに用ゐらる。

- { Never tell a lie (決して、断じて)
 ● { Do not tell a lie (嘘をつくな)
 { I know nothing about it. (少しも、全く)
 { I don't know anything about it. (それに就いては私は何も知らない)

6. **little** と **a little** の用法。 **little** と **a little** との用法は形容詞の場合と同じ故第七頁を参照せよ。

little は否定の意味を有し「殆んど無い」「滅多にない」即ち **not** の弱い形と見て差支ない。**a little** は肯定の意味を有し「少しは……だ」「少々……だ」の意。

● He is little better than yesterday. (彼は昨日と殆んど變らない)

● I am a little tired. (少し疲れた)

● **little** が **expect** (期待す); **dream** (夢想す); **think**; **know** の動詞又は **how; as; so** 等の副詞と共に用ゐると **not at all** の意味となり「少しも……無い」と言ふ強い打消となる。

● I little expected that he would succeed so well. (彼があんなに立派に成功しやうとは少しも思はなかつた) (=I did not expect at all that……)

I little dreamed of his coming. (彼が来やうとは夢想だもしなかつた)

You little know what mischief you have done. (君は自分でどんな害をしたか少しも解つて居ない)

This shows how little he knows his business. (これで彼が自分の仕事を少しも知らない事が解かる)

He knows his business as little as a schoolchild. (彼は小學生みたやうに自分の仕事を少しも知つてゐない)

7. **hardly; scarcely; seldom** の用法。 **hardly; scarcely** も **seldom** も人によると恰も肯定語のやうに「辛うじて」と譯す人があるが、それは誤りであつて、此等の語は元來打消の語故「殆んど……無い」「滅多に……無い」と譯すべきだ。「辛うじて」は **barely** とか **with difficulty** と譯さねばならぬ。尚以上の三語は同一の意味ではなく **hardly** は程度や可能性に重きを置き、**scarcely** や **seldom** は分量や數や回数に重きを置くのである。

● He is hardly able to walk. (彼は殆んど歩く事も出来ない)

He is scarcely seventeen years old. (彼はまだ十七にもなるかならないかだ)

He scarcely (=seldom, if ever,) goes to church. (彼が教會へ行く事は滅多に無い)

8. **very** の特殊用法。 **very** は true; actual (眞の、實際の、……こそ) の意味で形容詞に用ゐられるが、時には最上級の形容詞を修飾する事もある。

● This is the **very** man I wanted to see. (此人こそ私が會ひたいと思つた人だ) (形容詞)

He came at that **very** instant. (其瞬間に彼がやつて来た) (形容詞)

He is the **very** best student in the class. (彼こそ級中一番の生徒だ) (副詞)

9. **too** の特殊用法。

(a) **too** + { adjective } + infinitive は **so** + { 形容詞 } + { 副詞 }

that..... { can } not.....に同じで「餘り……で——さ
do }
will }

れない」「非常に……で——されない」との意味を表す。

● His habit was **too strong to be** easily broken off = His habit was **so strong that it could not** be easily broken off.

(彼の習慣は非常に強いので之を容易に打破出来なかつた)

He is **too wise not to see** that = He is **so wise that** he sees that. (彼は非常に賢いからそんな事は解かる)

(b) **only too** + infinitive 及び **but too** + infinitive は打消の意味でなく、この場合の **too** は **very** の意味で「非常に……してゐる」意。

● I shall be { **only too** } glad to accept your invitation. (私
but too }
は非常に喜んで君の招待に應ずる)

● **too ready** + infinitive (非常に……だ、餘りに……だ) や **too inclined** + infinitive (非常に……だ、餘りに……したがる) も上と同じで、此の **too** は決して打消の意味はなく單に **very** や **very much** の意。

10. **cannot** + **too** (**over-**) の用法。これは It is impossible to be **too**……又は It is impossible to be

over- に同じで「いくら……しても——し過ぎる事は無い」「飽くまで……すべきである」意。

● We **cannot be too** careful in this world. (此世の中ではいくら注意しても注意のし過ぎる事はない) (念には念を入れべきだ)

Games not only keep the body in health, but give a command over the muscles and limbs, which **cannot be overvalued**. (運動は身體を健全ならしむるのみならず又筋肉四肢の使用を自由ならしめるもので、此事たるやその價值は實に測り知る可からざるものがある)。

11. **enough** の用法。 **enough** は原級の形容詞及び副詞を修飾し、「十分に、全く、相當に、丁度よく」の意。 **enough** は修飾する語の後へ来る。

● It is cool **enough** for me to-day. (今日は私に丁度よい位の涼さだ)

He is not old **enough**. (彼は未だ年が足りない)

That is not thick **enough**. (それは厚さが足りない)

Your pay is high **enough** for your work. (君の給料は仕事相當だ)

12. **ago**; **before**; **since** の用法。 **ago** は今から何日前とか何年前の意味に用ゐる、**before** は過去の一定の時から以前の意味。故に **ago** は **past tense** と共に用ゐる、**before** は **past perfect** と共に用ゐる。**since** は **ago** と同じく「……以前」の意味に用ゐられる、但し此場合「何年」とか「何日」の語句が伴ふ。 **since** を單獨に用ゐると **since then** の略で「それ以來、その後、爾來」の意となり、現在完了又は現在と共に用ゐられる。**before** を單獨に用ゐると「以前に、前に」(=formerly) の意味となり、現在完了、過去、過去完了いづれにも用ゐられる。

I saw him a month **ago** (**since**). (私は彼に一ヶ月前に會つた)

● He was an orphan; both his parents **had died a few years before**. (彼は孤兒であつた、両親は數年前に死んでしまつた)

- I have never seen him since. (私は其後彼に會はない)
 It is a fortnight since. (其後二週間になる)
 I have never before seen such a dreadful sight. (私は以前にこんな恐ろしい光景を見た事が無い)
 I did it once before. (私は前に一度それをやつた事がある)

13. already; yet; still の用法。already は肯定叙述文に用ゐる、「もう、既に」との完了の意を表し凡ての tense に用ゐらる。yet は肯定疑問文又は否定叙述文に用ゐる、「もう、まだ」と未了の意を表し、現在完了に用ゐられる事が多い。

- He has already recovered. (彼は既に全快した)
 Has the bell rung yet? (もう鐘がなりましたか)
 No, it has not rung yet. (いえ、まだなりません)

● 普通 already を疑問文に用ゐるは誤りだ、但し「そんなに早く」と意外の意味を表す場合には疑問文に already を使つてもよい。

- Is he back already? (もう歸つてるのか) (そんなに早く)
still は繼續を表し yet は未了を表す。yet は往々肯定叙述文に用ゐる、even now (今でも、まだ) の意を表す事がある。

- Is he still alive? (あの人は未だ生きてるか)
 You may yet find him. (君はまだ彼に會へるだらう)

14. once と ever の用法。once は「一度」と言ふ意味と「曾て、昔」(=formerly) と言ふ意味がある。前者の場合には条件文にも用ゐられるが、後者の場合には必ず肯定叙述文に用ゐる。

ever は「今迄、これまで、いつか、その中」(=at any time; always) の意味で疑問文、条件文、否定文又は比較の文章に用ゐる。

- Once a beggar, always a beggar. (三日乞食をすると止められない)
 ● Once [upon a time], there was a man called Taro. (昔昔太郎と言ふ人があつた)

- Have you ever seen a tank? (君は装甲車を見た事があるか)
 If I ever catch him, he shall smart for it. (いつか彼奴を捕へたらひどい目に遭はせてやる)
 You have done better than ever. (今迄になくよく出来た)

15. so の用法。so は副詞で such は形容詞であるが、兩者の使用法はよく似て居るから混同してはならぬ。so の次には形容詞又は副詞が来るが、such の次には名詞が来る。

- I never saw so able a man (=I never saw such an able man). (私はあんな敏腕家を見た事がない)

● (a) so……as は比較の否定文に用ゐる、「……ほゞ——でない」事を意味し as……as は肯定文に用ゐる、「……に劣らぬ、と同一の」の意味を有す。

(b) not so much as は「……さへも、すら無い」(=not even) を表し、not so much……as は「……で無くして寧ろ」(=not……but rather) を意味す。

(c) so as to は in order to (する爲めに) で、so……as to は「……にも——する」(=enough to) の意。

(d) So am I は I am too の意味で「私も、私も左様です」で、So I am は yes の意味で「はい、左様です」の意。

- He is as clever as you. (彼は君に劣らぬほど利巧だ) (肯定)
 ● He is not as tall as I. (私と身長が同じでない) (同一)
 ● He is not so tall as I. (私ほど身長が無い) (劣等) (否定)

I have not so much as (=not even) heard his name. (彼の名前を聞いた事すら無い)

A man's worth lies not so much in what he has as in what he is. (人の眞價はその財産に存せずして寧ろその人物に存す)

- I got up early **so as to** (=in order to) catch the first train.
 (私は一番列車に間に合ふ爲め早く起きた)
 He was **so kind as to** (=kind enough to) lend me the book.
 (彼は親切にも私にその本を貸して呉れた)
 I am tired.—**So am I.** (私は疲れた。僕も疲れたよ)
 I like it.—**So do I.** (私はそれが好きだ。僕も好きだ)
 Are you a student?—**So I am.** (君は學生か。左様です)

☞ **so** は同一語の反覆を避くる爲め形容詞、副詞、名詞の代りに用ゐらる。

- ① My business is urgent, and I hope you will treat it **so** (=as urgent). (私の用事は急を要するのですから其のつもりで取扱つて下さい)
 I told him **so and so**. (私は彼に斯様々々話して置いた)
So so (=fairly well) it works. (可なりよく行つてゐる)
 And **so on** (forth) (……等、など) (=etc.)
 I told you **so**. (左様言つて置いたじやないか、言はぬこつちや無い)
 You don't say (=mean) **so**? (まさか)

16. **there** の二用法。 **there** には二つの用法がある。一は普通の副詞として「其處に」「あそこで」の意味を表はし、もう一は物の有無を示し「……がある」とか「……が無い」とかの意味を表す場合、**there is** とか **there are** の形で單に文を導く役を爲す用法である。

☞ 後者の用法の **there is** や **there are** は **we have**; **you have** 又は **they have** 等で書き換へる事が出来る。

- ① Where did you find it? I found it **there**. (どこでそれを見つけたか。あそこで見付けた)
 Is **there** any middle school in this town? Yes, **there is** one. (此町に中學がありますか。はい一つあります)
 Is **there** a station **there**? (そこには停車場がありますか)
 There is no station **there**. (其處には停車場はない)
There must have been a strong earthquake somewhere.
 (何處かに大地震があつたに相違ない)
There will be } no school to-morrow. (明日は學校は休み
We shall have }

だ)

17. 副詞句 (adverbial phrase)。副詞句は前置詞+名詞又は前置詞+代名詞若しくは二重副詞より成るものであるが其の主なるもの次の如し。

above all (就中、殊に); **above board** (公明正大に、堂々と); **after all** (やつぱり、結局); **again and again** (再三再四); **as yet** (まだ); **at all** (ちつとも、少しも、苟も); **at once** (直ちに、すぐ); **at present** (目下、現在) (=for the time being; for the present; **at that** (おまけに、それに)。

before long (その中、すぐ); **by and by** (その中、やがて、すぐ); **by the by (way)** (序に、因みに)。

far and away (すば抜けて、すつかり、飽まで) (=out and out); **far and near (wide)** (遠近に、あちこち); **first and foremost** (先づ第一に、先づ); **for long** (長い間、しばらく)。

in time (間に合つて、丁度よく、其の中、結局); **in the long run** (結局、早晚); **into the bargain** (おまけに)。

now and then; **every now and then** (折々、ちよいちよい)。

on one's guard; **on the alert** (用心して、警戒して); **on the contrary** (之に反して); **on the defensive** (守勢を取つて); **on the morrow of** (の翌日、の曉には); **on the eve of** (の前日、將に……せんとするに先立ち); **on the offensive** (攻勢を取つて); **once again, once more, over again** (もう一度、今一度); **once and again, now and again** (折々、ちよいちよい); **once for all** (これきり、一度きり、今度だけ); **over and above** (其上に、の外)。

previously (previous) to (……に先立ち)。

sooner or later (早晚、結局)。

through and through (すつかり、全然); **to and**

fro (あちこち); to the contrary (反対の、逆の)。
 what not (……等、なき); what with (一つは……
 の爲め、やら)。

練習問題

I. 文法

I. Correct errors, if any:—

1. I was very surprised.
2. I am very interested in your story.
3. About two hundred students are in our school.
4. He heartily laughed always at a good joke.
5. Doesn't you know whom has taken my knife? Yes, I doesn't.

II. Fill the blanks with "yes" or "no" in the following sentences, if necessary:—

1. Where are you going? () I am not going anywhere.
2. Did you not catch the train? () I missed it.
3. Can neither you nor he speak French? (), I think he can.
4. Did you not find him at home? (), he was out.
5. Then, you did not start in time, I suppose. (),

解答 I. 1. I was much surprised. 過去分詞には much.
 2. I am much interested in your story. 3. There are about two hundred students in our school. 物の有無は there are で書出す。
 4. He always laughed heartily at a good joke. always は自動詞の前に置く。 5. Don't you know who have taken my knife? No, I don't. 否定の答には no.

II. 1. Where are you going? I am not going anywhere. 疑問詞 where, how, when, what 等に對する答には yes, no を用ゐない。 2. No. catch の反対を表す故。 3. Yes. 彼が出来るかと肯定する故。 4. No. out は at home の反対故。 5. Yes. quite early (早く) (in time) に出發し

I left home quite early, but I was stopped by a friend on the way.

II. 英文和譯

- III. 1. He has his way to make in the world and can not begin too early.
 2. Children can not pay too much attention to the wishes of their parents.
 3. A book may be compared to your neighbour; if it be good, it cannot last too long; if bad, you cannot get rid of too early.
 4. Nothing is more precious than time, yet nothing is less valued.
 5. The more we think for others, and the less we think of ourselves, the happier we shall be.
 6. Our respect towards a person lies not so much in what he can say, or even do, as in what we feel he really is.
 7. It is not the greatness of a man's means that makes him independent, so much as the smallness of his wants.
 8. The policeman walked through the crowd without

たと肯定する故。

III. 1. 彼は出世しなければならぬのだからしていくら早く始めても早過ぎると言ふ事は無い。 2. 子たるものは其両親の意に飽まで従ふべきものだ。 3. 書物は諸君の隣人にたとへる事が出来る、若し良いものならばいつまで續けても結構だが若し悪ければ出来るだけ早く縁を切る方がよい。 4. 時間程貴重な物は無いが然しこれほど粗末にせられるものも無い。 5. 吾々は他人の爲めを思ふ事が多ければ多いほど且つ自分の事を思ふ事が少なければ少ない程益々幸福になるだらう。 6. 吾人が人に對する尊敬は其人の言へ得る事又は爲し得る事に對するものに非ずして寧ろ吾人の感ずる其人の眞の人物に對して拂ふものである。 7. 人をして獨立せしむるものは其人の財産の大には非ずして寧ろ其人の欲望の小なるにある。 8. 其巡查は傍見だにせずして群集の間を通つて歩いて行つ

- so much as turning his face to either side.
 9. This book is as hard again as that.
 10. Although men are accused for not knowing their own weakness, yet perhaps as few know their own strength.

III. 和文英譯

- IV. 1. 來週の今日又御目にかゝります。
 2. 話の序ですが御自身でやつて見る氣はありませんか。
 3. あなた、もう少し遅く話せませんか、あまりに早く御話しですから申される事が解りかねます。
 4. 今週中私は引續き忙しかつたので彼を見舞ふ暇がなかつた。
 5. 明日午後か遅くも明後日には必ず御返事差上げます。
 6. 金満家必ずしも名望家とは限らない。
 7. 我國の工業は少くとも獨逸位に發達させねばならぬ。

【譯註】 た。9. 此本は其本の倍六ヶ敷い。10. 人は自分の弱點を知らないと言つて非難されるけれども然し恐らく自分の長所を知つて居る人も同様に少ない。

IV. 1. I shall see you again this day week. ~~this day week~~ this day week; this day month; this day year は前後の關係で「來週の今日、來月の今日、來年の今日」又は「先週、先月、昨年今日」と言ふ事になる。勿論 a week hence; a month hence; a year hence (未來の場合) は a week ago; a month ago; a year ago (過去の場合) と言ふ事も出来る。2. By the way, haven't you any mind to do it yourself? 3. I say, can't you speak more slowly? You speak so fast that I can hardly understand you. 4. I have been so busy all this week that I have had no time to call on him. 5. I will let you know without fail to-morrow afternoon or the day after to-morrow at the latest. 6. A rich man is not necessarily a popular man. 7. The industry of our country should be developed at least as much as that of Germany.

8. 此處から十哩程の所に此地方で一番立派な一番大きい都會がある。
 9. 日支關係が複雑になるに従つて我々は今迄よりも尙一層深く支那といふ國を知る事が必要になつた。
 10. 東京郊外には櫻の名所が澤山ありますが中でも向島と小金井は最も有名です。

第四章 前置詞

I. 前置詞 (preposition) の定義

前置詞 (preposition) は名詞又は代名詞の前にあつて此等の語と他の語との關係を示す語である。

支那人又は西洋人が日本語を話すのを聞いて居ると、言葉の調子は兎も角として、さうも變に聞える事が多いでせう。そんなら何處が變なのかと言へば、その原因は「てにおは」の間違にあるのだ。

日本語の「てにおは」は語の後へつくから後置詞 (post-position) と言ふべきものだらうが、その作用は英語の前置詞によく似て居る。日本語は「てにおは」一つで生きもし死にもするのである、同様に英語もその前置詞を正確に使ふと否とによつて King's English (正確な英語) にもなり murder the King's English する事にもなるのだ。

II. 前置詞の種類

前置詞は次の六種類に分類する事が出来る。

1. 單純前置詞 (simple preposition)。

【譯註】 8. There is a city, the finest and largest in this district, about ten miles from here. 9. The more complicated the relations between Japan and China have become, the more necessary has it become for us to understand China better. 10. There are many places in the suburbs of Tokyo noted for cherry-blossoms, but Mukojima and Koganei are best known.

① after; at; by; for; from; in; of; off; on; over; per; since; till; through; under; up; with.

2. **二重前置詞 (double preposition)**。二つの前置詞が一所に用られるものである。

① from among (中から); from off (から、はづして); from under (下から); from within (中から); until toward (頃まで)。

3. **合成前置詞 (compound preposition)**。これは前置詞が名詞、形容詞、副詞などと合して他の前置詞を作つたものである。

① about (=on + by + out); above (=on + by + up); across (=on + cross); along (=on + long); before (=by + fore); behind (=by + hind); between (=by + twain); beyond (=by + yonder); but (=by + out); into (=in + to); onto (=on + to); throughout (=through + out); until (=un + till); upon (=up + on); within (=with + in); without (=with + out)。

4. **分詞的前置詞 (participial preposition)**。これは分詞より轉じた前置詞である。

① during (間、中); concerning (關して); pending (迄、中); notwithstanding (にも拘らず); excepting (の外); save (除いて); past (過ぎ); regarding (關して); respecting (關して)。

5. **熟語前置詞 (phrase preposition)**。これは二つ以上の語が合して一の熟語を爲し前置詞として用られるものである。

① according to (に従つて、依つて); as for (に就いては); because of (の故に); by dint of (づくで、に依り); by means of (の手段により); for the sake of (の爲めに); for want of (の無い爲めに); in case of (の場合には); in token of (の印までに); in consequence of (の結果として); in front of (の前に); in honour of (の爲めに); in lieu of (の代りに); in opposition to (に反對して); in respect of (に關して); in spite of (に拘らず); instead of (の代りに); in regard to (に關しては); in the event of

(の際には); in place of (の代りに); on account of (の爲めに); on behalf of (の代りに); on board (船中に、中に); on the eve of (の前に、將に……せんとするに際し); on the morrow of (の曉に); owing to (の爲めに); with a view to (……する爲めに); in view of (に鑑み); with reference to (に關して)。

6. **擬似前置詞 (disguised preposition)**。擬似前置詞とは前置詞が他の語の形を爲すものである、即ち of が o' となり、in が a となる類。勿論かゝる a も冠詞として取扱つてよい。

① five o'clock (=five of clock) (五時)。
once a week (=once in a week) (一週一回)

III. 前置詞の目的語

前置詞の次に來る語を前置詞の目的語 (object) と言ふ。前置詞の目的語は大概名詞又は代名詞である。

① Rivers flow into the sea. (河は海へ注ぐ) (名詞)
A basket with some apples in it. (林檎の入つてゐる籠) (代名詞)

② **關係代名詞 (relative pronoun)** が前置詞の目的語たる場合は之を省略しても差支ない。

① the man whom we are looking for (吾々の探してる人)
a chair to sit on = a chair on which to sit. (腰かける椅子)

IV. 前置詞の省略

次の三つの場合には前置詞を省略する。

1. **時間を表す場合には for (間) を略し、又時の名を表す場合には this; that; next; last; every; some; any を附ければ at; on; in 等を略す。**

① I shall stay there [for] about ten days. (あちらへ約十日間滞在する)

I am expecting his telegram [at] every moment. (今にも來るかと思つて彼の電報を待つてゐる)

The goods were forwarded [on] this day. (品物は本日發送)

した)

I shall start **[in]** this week and return **[in]** next week.
(今週出發して來週歸る)

2. **use** (用)、**age** (年齢)、**colour** (色)、**size** (大きさ) 等の抽象名詞の前の前置詞を略す。

⑨ It is **[of]** no use trying it again. (二度やつて見たつて駄目だ)

He is **[of]** the same age as you. (彼は君と同年だ)

[Of] What colour is it? (それはどんな色か)

[Of] What size is it? (それはどんな大きさか)

3. **way** (道) の前に **this** や **that** がつくと **in** を省く。

⑩ Please drop **in** at my house when you happen to come **[in]** this way. (こつちへ來たら寄つて下さい)

He went **[in]** that way. (彼はあちらへ行つた)

V. 時を表す前置詞

1. 時を表す **at**; **in**; **on** の用法。 **at** は時の一點、即ち何時、何分、正午、夜明、夜半の如き刹那を表す。 **in** は長き時間、即ち月、四季、年、世紀等の如き時の連続を表す。 **on** は定まつた時日即ち何日とか何日の朝晩等を表す。

⑪ **at** half past eight (八時半に); **at** noon (正午に); **at** mid-night (夜半に).

in September (九月に); **in** spring (春に); **in** the 8th year of Showa (昭和八年に).

on the 5th of next month (來月五日に); **on** Thursday last (先週の木曜日に); **on** the morning (night) of the 1st of this month (今月一日の朝〔夜〕に).

2. 時を表す **in**; **within**; **after** の用法。「……後に」と言ふ同じく時の経過を表す前置詞でも、**in** は未來の事に用ゐる、**after** は過去の事に用ゐる。 **within** は未來の事でも「……以内、未滿に」の意。

He will die **in** a few days. (二三日後に死ぬでせう)

⑫ It will be finished **in** three hours. (三時間たつと出來上がる) (未來)

He died **after** a few days. (二三日後に死んだ) (過去)

I shall be back **within** a week. (一週間以内に歸ります) (未來)

注意 **after** は未來に用ゐられないが **on and after** (……から) は例外。

⑬ The new railway schedule will come into effect **on and after** the 1st of next month. (新しい汽車時間表は來月一日から實施さる)

3. **till**; **until**; **by** の用法。 **till** と **until** (文語) は「……迄」の意味で繼續を表し、**by** は「……迄で」でも期限を表し **not later than** に同じ。 **till** 又 **until** は **up to** に同じ。

⑭ I shall wait for him **till** (= **until**) five in the afternoon. (午後五時まで彼を待つて居やう) (繼續)

The application for admission must be sent **in by** (= **not later than**) the 2nd of next month. (入學願書は來月二日迄に差出さねばならぬ) (期限)

4. **for**; **during**; **through** の用法。 **for** は時間を表し「……間」の意。 **during** は状態の繼續を表し「……中、間」の意、**through** 及び **throughout** は「始から終まで」の意味「……中」の意。

⑮ **for** five years (五年間); **during** my stay in your town (御地に滯在中); **through** (= **throughout**) the year (一年中)。

5. **past** と **to** の用法。 **past** は **after** に同じで「……過ぎ」、**to** は「……前」の意。三十分までは **past** 又は **after** を用ゐる、三十一分からは **to** を使ふ。

⑯ half **past** ten (十時半); twenty-five minutes **to** eleven (十一時二十五分前); a quarter **to** eleven (十一時十五分前)。

VI. 場所を表す前置詞

1. **at** と **in** の用法。at は元來點を示し、in は廣き場所を示す。故に at は地點や村や町に用ゐる、in は大都會、國、州に用ゐる。

- He was born **at** a small village **in** Fukushima Prefecture.
(彼は福島縣の小村に生れた)

2. **on**; **above**; **over**; **up**; **under**; **beneath**; **below**; **down** の用法。on は表面に接觸して居る事を示し且つ河又は海なごの水面には必ず on を用ゐる。above は「……より高い、の上」を示し、over は「眞上に」を示し、up は單に「上の方へ、さかのぼつて」の意味となる。under は「眞下に」で、beneath は「……の下に、足許に」の意味で接觸を示し、below は「より低い」「……より下に」、down は單に up と對し「下の方へ」「下つて」の意味を表す。

Put it **on** your desk. (それを君の机の上に置け) (接觸)

A full moon rose **above** the horizon. (満月が地平線上に上つた) (より上)

The lamp hung **over** the table. (ランプがテーブルの上に懸つて居た) (眞上)

We sailed **up** the river. (吾々は河をのぼつた) (溯つて)

We took shelter **under** a tree. (木の下で雨宿りした)
(眞下)

I felt the ground sink **beneath** my feet. (私は足の下の大
地が沈んで行くやうな氣がした) (足許)

The sun has just sunk **below** the horizon. (太陽が丁度地
平線下に没した) (より下)

It floated down the river. (それは河を流れて下の方へ行
つた) (下つて)

3. **in**; **into**; **out of** の用法。in は「……の中に」にある靜止状態を示し、into は「……の中へ」入る運動を示し、out of は in 及び into の反對で「……から、……から離れて」外へ出る運動又は靜止状態を示す。

- **in danger** (危険な、危い); **out of danger** (危険を脱して、大丈夫な); **into the room** (室の中へ); **out of the room** (室から)。

4. **along**; **across**; **through** の用法。along は細長い物に「沿ふて」「縦に」で、across はその反對で「横切つて、交叉して」、through は「貫通して、通つて」、

- **along** the coast (海岸に沿ふて); **across** the Pacific (太平洋を横斷して); **flow through** the city of Tokyo (東京市を貫流する)。

5. **in front of** と **behind** の用法。in front of は「……の前に、正面に」で before に同じ。behind は「……の後ろに」で back of 又は at the back of に同じ。

- **in front of** (=before) the school (學校の前に); **behind** (=back of; at the back of) the house (家の後ろに)。

6. **on** と **off** の用法。on は「……の上に」で表面に接觸して居る事を示し、off は on の反對で「……から、……から離れて」の意味を表す。

- **on** the coast (海岸に); **off** the coast (海岸の沖合に); **on duty** (當番で); **off duty** (非番で); **on and off** (時々、間歇的に、したりやめたり)

7. **between** と **among** の用法。between は二つの物又は人の「間に、間で」の意味で、among は三つ又は三以上の物の「間に、間で」を意味す。

- **between** Japan and China (日支間); **between ourselves** (内所の話だが、私達の間だけだが); **among** the students (學生の間で) (多數を表す)。

8. **by**; **beside**; **at** の用法。at は目的を持つて或物のそばにある事又は狙ふ事を示し、by 及び beside は偶然そばにある事を表す。

- Some one is **at** the door. (誰か戸口へ來た) (訪ねて)
The maid is **at** the well. (女中は井戸端に居る) (水汲みに)
He is standing **beside** his mother. (彼は自分の母のそばに立つてゐる) (偶然)

9. **to**; **for**; **toward** の用法。to は come; go;

return; proceed (行く); move; march; book (切符を買ふ)等の自動詞又は他動詞の次へ来て「……へ、に」と目的地を表し、for は leave; start; depart; clear (出港する)等の自動詞又は他動詞の次へ来て目的地を示す。toward は單に方向を示し「……へ向つて、へ、頃」の意。

- ⑨ come up to Tokyo (上京する); leave Tokyo for Osaka (東京出發大阪へ向ふ); come toward the house (家の方へ来る)。

10. round と about の用法。round も around (米語) も同じで「周圍を、ぐるりを、ぐるぐる」の意。about は漠然と「……邊を、あたりを、あちこち」の意。

- ⑩ walk about the streets (町をあちこち歩く); revolve round (=around) the sun (太陽の周りを回轉する)。

VII. 行爲者及び道具を表す前置詞

行爲者 (agent; doer) を表す前置詞は by (……に依つて) で、道具 (instrument) を表す前置詞は with (……で、を以て) である。

- ⑪ This book was written by me with a fountain-pen. (此本は私が萬年筆で書いたのだ)

注意 非業の死を遂げた場合その原因は by を以て表す。

- ⑫ die by violence (非業の死を遂ぐ); die by poison (毒死する); perish by sword (fire) (劍で [火事で] 死ぬ)。

VIII. 比較を表す前置詞

比較を表す前置詞は with と to であるが、compare with は「……と比較する」で、compare to は「……に譬へる、なぞらへる」(=liken to) である。

- ⑬ as compared with (……と比較して、に比すれば)
Life is often compared (=likened) to a voyage. (人生はよく航海に譬へられる)
This can not stand comparison with that. (これはそれと比較にならぬ、其れの方がずっとよい)

IX. 目的を表す前置詞

目的を表す前置詞は for (爲めに、探して)、after (追ふて、求めて)、on; upon (に就いて、で)、at (狙つて、向つて、そして)、about (關係して、して) である。

- ⑭ What are you looking for? (何を探してるのか)
The dog ran after the cat. (犬が猫を追掛けた)
He fired at (on) the burglar. (強盜を狙つて射つた)
He is keen on his job. (仕事に熱心だ)
What are you at? (何のつもりか)
What are you about? (何をして居るのか)

X. 材料を表す前置詞

材料を示す前置詞は of; out of; from である。of と out of は出來上つた物が原料の質に變化なき場合に用ゐる、from は形及び質が全然變化せる場合に用ゐる。

- ⑮ Most pens are made of steel. (大抵のペンは鋼鐵で作る)
Wine is made from grapes, and beer from barley. (葡萄酒は葡萄から、麥酒は大麥からつくる)

XI. 起源を表す前置詞

起源を表す前置詞は from 及び of である。

- ⑯ He hails (=comes) from Hokkaido. (彼は北海道の出だ)
He is of a noble family. (彼は華族の出だ)

XII. 原因を表す前置詞

原因を表す前置詞は from; of; through; at; over; with; for 等である。

from は直接の原因を表し「……で、から」の意。of は「……で」死ぬなき普通の死因の場合に用ゐる。through は原因を表し「……の爲めに、から、のお蔭で」の意。at は感情の原因を表し「を聞いて、を見て、……で」の意。over も感情の原因を表し「……を見て、聞いて、……で」

の意。**with** は「……の爲めに、で、……の事を」の意。
for は「……の爲めに、……で、を願ふて」の意。

- He is suffering **from** appendicitis. (彼は盲腸炎に罹つてゐる)
- Many people die **of** typhoid fever. (多くの人々が腸室扶斯で死ぬ)。**die from** は次へ *unknown cause* (不明の原因) が来るか或は殊に原因に力を入れる場合。
- He lost his position **through** (=owing to) his idleness. (彼は怠けた爲めに地位を失つた)
- I am surprised **at** his ignorance. (彼の無智なのに驚いた)
- I am disappointed **over** the result. (其結果に失望した)
- Don't cry **over** spilt milk. (過ぎた事に愚痴をこぼすな)
- He has long been sick **with** fever. (長い事熱病に罹つてゐる)
- The teacher is angry **with** you. (先生が君の事を怒つてゐる)
- I am anxious **for** your success. (君の成功を切望する)
- I could not speak **for** fear. (恐ろしくて口がきけなかつた)

XIII. 理由及び根拠を表す前置詞

理由及び根拠を表す前置詞は **on; upon; for** である。

- He tendered his resignation **on** the ground (=plea; score) of ill health. (彼は病氣を理由として辞表を提出した)
- I learned it **on** good authority. (確かな筋から聞いた)
- Japan is noted **for** silk. (日本は生絲で名高い)

XIV. 結果を表す前置詞

結果又は變化を表す前置詞は **to** と **into** だ。**to** は一般に結果を表し、**into** は變化又は製作物を表す。

- Five persons were burnt **to** death. (五人焼死した)
- The bottle broke **to** pieces. (瓶は粉微塵にこわれた)
- To** my joy, I found him alive and well. (嬉しかつた事には彼は健在だつた)
- Can you change water **into** wine? (水を葡萄酒に變化出来るか)
- Glass is made **into** cups. (ガラスはコップに作る)

XV. 主な前置詞の意義と用法

1. **about** の用法。 **about** は **on+by+out** から出来たもので「あちこち、あたり、邊、就いて」が原義。

- I walked **about** the streets. (私は町をあちこち歩いた) (あちこち)
- He lives somewhere **about** Ueno. (どこか上野邊に住んでゐる) (邊)
- He had a comforter **about** his neck. (頸に襟巻をしてゐた) (周圍)
- It is **about** ten o'clock. (もう十時だ) (約)
- He is **about** to go abroad. (彼は洋行する處だ) (將に)

2. **above** の用法。 **above** は **on+by+up** より約まつたもので「……の上に、より高い」が原義。

- The heaven is **above** us. (天は吾々の上にある) (上に)
- He is **above** twenty years of age. (彼は二十歳以上だ) (以上)
- Health is **above** wealth. (健康は富にまさる) (優越)
- He is **above** such meanness. (そんな卑怯な事をする男ではない) (超越)
- You should not be **above** asking questions. (人に物を尋ねる事を恥ぢてはならぬ) (超越)
- Above all**, avoid drinking. (就中 [殊に] 飲酒を避けよ) (就中)

3. **after** の用法。 **after** は「……の後に」が原義で、轉して追跡、模倣等の意味を生ず。

- I will enter **after** you. (お先へどうぞ) (君の後から入ります) (後)
- He ran **after** a thief. (泥棒を追掛けた) (追跡)
- He always is seeking **after** wealth. (常に富を求む) (追求)
- I must inquire **after** his health. (彼を見舞はねばならぬ) (探求)
- He takes **after** his father. (父に似てゐる) (酷似)
- He was named **after** his uncle. (叔父の名をつけた) (模倣)
- After all** the advice I gave he adopted a contrary course.

(私があんなに忠告したにも拘らず彼は全然別な方法を探つた)

4. **against** の用法。 **against** は on+going の約まつたもので「……に反対して」の意味を有し轉じて「衝突して、對して、に備へて、不利益な、もたれて、より掛つて」の意を有す。

① **against** my will (私の意志に反して、いやいやながら); **against** a wall (壁にもたれて); run **against** a wall (塀にぶつかる); as **against** (……に對して、比較して)(=as compared with); provide **against** a rainy day (萬一に備へる); **against** one (……に不利益な)(in favour of「に有利な」の反対)。

5. **across** の用法。 **across** は on+cross の約まつたもので、「横切つて、渡つて、此方から向まで、向ふ側に」の意。

② swim **across** a river (河を泳いで渡る); fly **across** the Pacific (太平洋の横断飛行をする); **across** the river (河の向ふに); **across** his shoulder (肩へかけて)。

6. **along** の用法。 **along** は on+long の約まつたもので細長い物に沿ふてとか縦にの意。

③ walk **along** the river's bank (河岸に沿ふて歩く); go **along** a highway (街道に沿ふて歩く)。

7. **amid** と **amidst** の用法。 **amid** も **amidst** (文語) も on+middle の約まつたもので「……の中に」「……を物ともせず」の意 (=in the midst of)。

④ **amid** (**amidst**) all dangers (あらゆる危険を物ともせず)

8. **at** の用法。 **at** は場所でも時間でもごく狭いもの即ち點を示す前置詞であつて、邦語のてにおはの「に」に相當す。然しながら同時に **at** は接近を表し、轉じて、目的、目標、原因、割合、従事、状態を表す(時・場所・原因を表す前置詞の **at** を参照第 50 頁と第 52 頁と第 55 頁)。

⑤ Stand up **at** the word of command. (命令一下起立せよ)
(原因)

The train ran **at** the rate of 60 miles an hour. (汽車は一時
間六十哩の割合で走つた) (割合)

At what price is this sold? It is sold **at** 5 yen a pound.

(これはいくらで賣るのか。それは一封につき五圓の割りで賣ります) (割合)

He was busily **at** work all day. (彼は終日忙しさを働いて
みた) (従事)

⑥ 目的を表す **at** のついた熟語は **at** home (在宅で、客に接する); **at** church (説教を聞いて); **at** school (授業中); **at** table (食事中); **at** sea (航海中)。従事を表す **at** のついた熟語は **at** play (遊んで); **at** baseball (野球をして); **at** leisure (ひまな); **at** one's ease (樂に、納まつて); **at** war (戦争中); **at** peace (平和に、媾和して); **at** rest (休んで)。

⑦ 尙 **at** のつく熟語は **at** best (精々、高が); **at** least (少くとも); **at** length (遂に); **at** last (遂に、結局); **at** most (精々、多くとも); **at** [the] worst (悪くとも、精々); **at** [the] latest (遅くとも); **at** one's wit's end (當惑して); **at** one's finger's end (熟達して); **at** one's tongue's end (暗記して); **at** an end (終つて); **at** pleasure (随意に); **at** stake (賭けられて、關して); **at** random (出鱈目に); **at** all hazards (萬難を排して、是非); **at** a moment's notice (すぐ、即席に); **at** command (命のまゝになる); **at** fault (悪い); **at** hand (手近かに); **at** large (縛につかない、普く); **at** will (心のまゝに); **at** a loss (困まつて); **at** a standstill (とまつて、停頓して); **at** any rate, **at** all events (兎も角); **at** any cost (是非とも); **at** any risk (どんな事があつても); **at** any price (是非とも); **at** one's disposal (使用にまかせて、自由になる); **at** one's choice (思ふままになる); **at** the expense of (に迷惑をかけて、を犠牲にして); **at** the risk of (を賭して); **at** the peril of (の危険を冒して、を賭して); **at** the mercy of (のまゝに、のまにまに)。

9. **before** の用法。 **before** は by+fore の約まつた

もので「前に」と言ふ意味で時・場所等の順序を示し、轉じて選擇の意を表す。behind の反對。

- before the door (玄関の前に); a little before ten o'clock (十時少し前); the evening before last (一昨晚); before long (遠からず)。

Death before dishonour. (恥をかくより死んだ方がよい)

(選擇)

John Bull is practical before everything. (英人は何事もりも先づ實際的だ) (熟語)

Before all the examination system must be abolished. (何よりも先づ試験制度を廢止せねばならぬ) (熟語)

10. behind の用法。behind は by+hind の約まつたもので、before の反對で「後に、蔭に、奥に、遅れて」の意味を表す。

- behind me (私の後ろに); behind a screen (屏風の蔭に)。
Do not speak ill of a man behind his back. (人の蔭口をきくな) (蔭れて)
I was behind time. (時間に遅れた) (おくれて)
I am behind the times. (時勢におくれてゐる) (おくれて)
I am behind him in English. (私は彼より英語がおくれてゐる) (おくれて)

11. below の用法。below は by+low の約まつたもので above の反對で物と離れて「下の方に、下に」の意味を表し轉じて「以下、劣つて、ふさわしくない」の意を有す。

- The thermometer stood at five degrees below freezing point this morning. (今朝寒暖計は氷點下五度だつた) (下)
A captain is below a colonel. (大尉は大佐の下だ) (下)
He can not be below thirty. (三十以下の筈はない) (以下)
Your English is below his. (君の英語は彼に劣る) (劣る)
That is below his dignity. (それは彼の體面にかゝる) (= unworthy of him) (ふさわしくない)
He was below (=neglected) his duty. (職務を怠つた)

(怠る)

12. beneath の用法。beneath は by+neath の約

まつたもので、below と同じく above の反對だ。即ち「下に、もとに、足許に」を表し轉じて「以下、するに足らぬ」の意味を表す。

- Let us rest beneath the shade. (木蔭で休みませう) (下に)
The ice gave way beneath our feet. (氷は吾々の足許で破れた) (足許で)

● beneath your notice (君が目をとめるに足らぬ); beneath contempt (輕蔑する値もない); beneath the dignity of a gentleman (紳士の體面にかゝる)

13. beside の用法。beside は by+side の約まつたもので、「傍に、わきに、そばに、並んで」より轉じて「外に、外の」の意味となる。

- beside his friend (彼の友と並んで、友のわきに); beside the question (問題外な); beside oneself with joy (嬉しさの餘り氣も狂はんばかりだ)

14. besides の用法。besides は by+sides の約まつたもので「外に、以外に、のみならず」の意味 (=in addition to)。

- Besides, I am not strong. (それに私は丈夫で無い)
Besides advising, I gave him money. (忠告したのみならず私は彼に金をやつた)。

15. beyond の用法。beyond は by+yonder の約まつたもので、「向ふに、を越えて彼方に」の意を有し轉じて「……以上の、……の及ばぬ」意となる。

- My house is not this side the bridge. It is a little way beyond it. (私の家は橋の手前で無い、橋を越えて少し向ふにある) (向ふに)

● beyond my expectations (豫想以上の); beyond measure (非常に); beyond question (疑もなく、無論); beyond all things (何よりも)。

16. but の用法。but は by+out の約まつたものである。「然し」の意味の時は接續詞であつて、前置詞に用ゐた but は「……を除けば、の外は」(=except; save) を

意味し、all; only; no; last; next 又は疑問代名詞の次に用ゐられる事が多い。

- anything but this (此の外なら何でも); anything but satisfactory (決して満足でない); all but one (一人を除いて全部); all but (=almost) dead (殆んど死んだ、死んだも同然); the last month but one (先々月); the next week but one (来々週)。

He left nothing but this note. (此の手紙だけ置いて行つた)

Who would do such a thing but a fool? (馬鹿で無くて誰がそんな事をするものか)

17. by の用法。by は「そばに、そばを」即ち位置の接近を表し次いで「よつて、……で」即ち行爲者、手段、標準、差違、誓、期限等を表す。行爲者を表す前置詞並に時を表す前置詞を見よ(第 51 頁 第 54 頁 参照)。

例 Come and sit by me. (来て私のそばに坐れ) (そばに)

He passed by me without noticing me. (彼は私に氣附かないで私のそばを通過した) (そばを)

It was translated by him. (それは彼が翻譯した) (行爲者)

Seize him by the neck. (彼の頸の所をつかまへろ) (手段)

注意 by train (汽車で); by steamer (汽船で); by telephone (電話で); by wireless (radio) (無電で); by sea (海路); by taxi (タクシーで); by letter (手紙で); by word of mouth (口上で) も此の類。

A man is known by the company he keeps. (人の人物はその交はる友によつて解る) (標準)

Time is measured by the hour. (時は一時間を單位にして計る) (標準)

注意 by birth (生れは); by nature (生れつき); by trade (商賣は); by the week (day) (週 [日] ぎめで); by thousands (何千となく) も此の類。

- I am taller than you by two inches, though you are older than I by two years. (君は私より二つ年上だが、私の方が君より二吋背が高い) (差違)

He swore by heaven. (彼は天に誓つた) (誓)

By God. (神かけて) (誓)

注意 尚 by のつく熟語は by accident (偶然); by turns (順番に); by sight (一見して、顔で); by heart (暗記して); by name (名前は); by way of (經て、經由して) (=via); by force (無理に、武力で); by fits and starts (不規則に、むらに); by day (晝は); by night (夜は)。

18. for の用法。for は「向つて、間、爲めに、として、代りに」等の意味を表す前置詞であるが、詳しく言へば目的、期間、距離、原因、理由、交換、比較、賛成、同情、探求、拘らず等の意味を表す。場所及び理由を表す前置詞を参照(第 53 頁と第 56 頁)

- for five years (五年間); for a mile or so (一哩ばかり); for life (終身、一生); for ever (永久に); for the time being (差當り)。

This stuff is not fit for food. (此物は食物に適しない)

(目的)

He could not do it for his life. (彼はどうしてもそれを出来ない) (目的)

He fought for his country. (國の爲めに戦つた) (同情)

I am for war. (私は戦争に賛成だ) (賛成)

She wept for joy. (嬉しさの餘り泣いた) (原因)

I will exchange this for the other one. (之を外のと交換しやう) (交換)

I bought it for ten yen. (それを十圓で買つた) (交換)

He speaks Japanese well for a foreigner. (外國人としてはよく日本語を話す) (比較)

The boy is tall for his age. (此子は年の割りに背が高い) (比較)

注意 look for a house to let (貸家を探す); cry for help (助を求めて叫ぶ); apply for (申込む); come for (取りに来る); send for (呼びにやる); call for (要求す) なぎの for は探求を表す。其他 for のつく熟語は for all his learning (あんなに學問があるにも拘らず); for certain

(確かには); as for (に關しては); for the most part (大部分); for the rest (其他は); for this once (今度きり); for good [and all] (永久に、すつかり、全く)。

19. from の用法。 from は「……から、より、の爲めに」の意味を有し、to に對する前置詞で元來出發點や出處を示し、次いで材料、原因、動機、推定、分離、區別、妨害、禁止、免除、保護等を意味す。材料・原因を表す前置詞 (第 55 頁) を参照。

- ① He has gone **from** home. (家から行つた) (出發點)
 You must begin **from** daybreak. (夜明から始めねばならぬ) (出發點)
 He is sprung **from** noble ancestors. (彼の祖先は身分のある人だ) (出處)
 I said so **from** kindness. (親切からさう言つたのだ) (動機)
From all I see, you are diligent. (私の見る處では君は勤勉だ) (推定)
 He has recovered **from** his illness. (病氣から恢復した) (分離)
 Can you tell a dog **from** a wolf? (君は犬と狼の區別が出来るか) (區別)
 We are prohibited **from** smoking. (吾々は喫煙を禁止されて居る) (禁止)
 We are safe **from** danger. (吾々は危険の心配が無い) (保護)
 Those goods are free **from** duties. (此等の品物は税金を免除されてゐる) (免除)

注意 from のつく熟語。from head to foot (徹頭徹尾、すつかり); from hand to mouth (其日暮らしの); from day to day (毎日); from time to time (時々); far from (……する處では無く); apart from (……は別として)。

20. in の用法。 in は「……の中に、……に、於て」の意味であつて at と反對に包含の意を有す。即ち in は場所 (廣い)、期間 (長い)、状態、着衣、天氣、材料、目

的、同一、信仰、程度、分量、點に就て、用語等を表す。
 場所及び時を表す前置詞 (第 50 頁第 52 頁、参照)。

- ② He is **in** a bad temper. (機嫌が悪い) (状態)
 I hope you are **in** good health. (御健勝の事と存じます) (同上)
 She is dressed **in** white. (白装束をしてみる) (着衣)
 I have no clothes to go **in**. (着て行く着物が無い) (同上)
 I can't stay at home **in** such fine weather. (こんな好い天氣に家にどつとして居られ無い) (天氣)
 You must not write it **in** red ink. (赤いインキで書いてはならぬ) (材料)
 A reception will be given **in** his honour to-morrow. (彼の爲めに歓迎會が明日催される) (目的)
 I found a true friend **in** him. (彼と言ふ眞友を見出した) (同一)
 Do you believe **in** God? (神を信ずるか) (信仰)
 This will relieve you **in** some measure. (これで幾分か楽になるでせう) (程度)
 He deals **in** rice. (米を商ふ) (點に就いて)
 Write it **in** English. (英語で書け) (用語)

注意 尚 in のつく熟語は in these circumstances (斯くの如き事情の下に在つては); in easy circumstances (樂で); in fashion (流行して); in good humour (上機嫌な); in bad humour (不機嫌な); in high spirits (元氣よい); in low spirits (元氣なく); in safety (無事に); in surprise (驚いて); in a rage (非常に怒つて); in fury (狂氣のやうになつて); in general (一般に); in particular (殊に); in full (十分に); in short (つまり); in a word (一言で言へば); in common (共通に); in vain (むだに); in earnest (眞面目に); in secret (秘密に); in torrents (瀧の如く); in fun (笑談に、面白半分に); in memory of (の、記念に); in appreciation (= recognition) of (を認めて、……により); in return (返禮に); in the least (少しも); in a great measure (大に、非常に); in truth (實に); in fact (實際、全く); in reality (實は); in length (長さ); in

the main (大體); in season (盛りの、時機を得た); in defiance of (……を無視して); in point of (の點で); in person (自ら、親しく)。

21. of の用法。of は「……の、……なる、と言ふ、の中の、……で、……に就いて、……を」などの意味を表す。即ち所有、同格、形容句、内容、部分、剝奪、材料、原因、起源等を示す。● 材料・原因・起源を表す前置詞 (第 55 頁) を参照。

● He lives in the house of his father. (彼は父の家に住んでゐる) (所有)

The legs of a table. (テーブルの脚) (同上)

The city of Tokyo. (東京市) (同格)

The virtue of temperance. (節制なる徳) (同上)

This is of great use (=very useful). (大層役に立つ)

(形容句)

That is of no use (=useless). (役に立たない) (同上)

I know some of them. (その中の數人を知つてゐる)

(部分)

He is not much of a scholar. (大した學者でない) (同上)

He is something of a pianist. (少しピアノが上手だ)

(同上)

I was robbed of my money. (金を取られた) (剝奪)

He was relieved of his post. (職を免ぜられた) (同上)

What became of him? (彼はどうなつたか) (關係)

It is very good of you to say so. (さう言つて下さるのは全く御親切です) (同上)

I know of such a man. (そんな男の居る事を知つてゐる)

(關係)

I know of his death. (死んだと言ふ事を知つてゐる)

(同上)

I heard of his departure. (出發したと言ふ事を聞いた)

(同上)

● the love of parents には二つの意味がある、即ち一は親の愛 (=the parents' love) で他は親を愛すること (=children's love for parents) である。● of のつく熟語

は of age (年とつた、……才の) (=old); of interest (面白い) (=interesting); of importance (重要な) (=important); of an evening (晩なき); of late (近頃); of a sudden (突然)。

22. off の用法。off は from の意味で「から、より」と離れる意味を有し、轉じて「沖合の、沖に」の意を表す。

● He fell off his horse. (馬から落ちた) (から)

He was taken off his guard. (油断を打たれた) (同上)

● He is off duty. (非番だ) (同上)

Leave off laughing. (笑ふのを止めろ) (同上)

off Boshu (房州沖で); off Formosa (臺灣沖で) (沖合)

23. on と upon の用法。on も upon (文語) も表面に接觸せる事を示し「……の上に、に、に依つて、に従つて、向つて、するや否や、に就いて、……中」の意味を表す。換言すれば接觸、基礎、根據、條件、方向、攻撃、樂器、完了、結果、狀態、最中、題目、目的、定まれる日等を示す。● 時及び場所を表す前置詞 (第 50 頁第 52 頁) を参照。

● A railway accident occurred on the Tokaido line this morning. (今朝東海道線で汽車の椿事があつた) (接觸)

Tokyo is on the Sumida. (東京は隅田川畔にある) (同上)

Don't rely on no other power than your own. (自分以外の力を頼むな) (基礎)

The company is based on a firm foundation. (會社の基礎は堅固だ) (同上)

We Japanese live on rice. (吾々日本人は米を常食とする) (同上)

Everything depends upon your determination. (萬事君の決心次第だ) (條件)

The prisoner was released on parole. (俘虜は宣誓の上釋放された) (同上)

He fell down upon the pavement. (歩道の上へ倒れた)

(方向)

Don't be hard on him. (彼につらく當たるな) (同上)

The enemy fired **upon** our right wing. (敵は吾々の右翼を砲撃した) (攻撃)

The lion sprang **on** the elephant. (獅子が象に跳びかゝつた) (同上)

He plays well **on** the piano. (ピアノを上手に弾く) (楽器)

Can you play **on** the violin? (ヴァイオリンが弾けるか) (同上)

On leaving school, he went into business. (學校を卒業すると實業についた) (完了)

On careful inquiry, I found that I was mistaken. (綿密に調べた結果僕の間違な事が判明した) (結果)

The house was **on** fire. (其家は燃えて居た) (最中)

He spoke **on** China. (支那に就いて演説した) (題目)

A lecture **on** the industrial condition in America. (米國の産業状態に関する講演) (同上)

● **注意** 其他 **on** のつく熟語は **on duty** (當番の); **on one's guard** (用心して); **on the alert** (= watch) (用心して、見張つて); **on an errand** (使に); **on purpose** (わざと); **on leave** (= furlough) (賜暇で); **Alps on Alps** (難關又難關); **effort on effort** (幾多の努力); **on the spot** (即座に); **on the whole** (大體); **on an average** (平均に)。

24. out of の用法。 **out of** は **in** や **into** の反對で「外に、外へ、から、……せぬやうに、……無い、失つた」の意味で、内から外への運動、起源、動機、材料、部分、缺乏、防止の意を有す。 **場所及び材料を表す前置詞** (第 52 頁第 55 頁) 参照。

● Repairs are **out of** the question. (修繕などは問題にならない) (外)

I paid it **out of** my own pocket. (それを自分の懐から拂つた) (起源)

He did it **out of** mischief (kindness). (いたづらから(親切心から)さうしたのだ) (動機)

Out of sight, out of mind. (去る者日に疎し) (外)

Nine **out of** ten of those people can neither read nor write. (あの人達の十中八九人までは読み書きも出来ない)

They are **out of** work. (失職してゐる) (缺乏)

● **注意** 其他 **out of** のつく熟語。 **out of spite** (意地悪から); **out of delicacy** (遠慮して); **out of pity** (可愛想だから); **out of fashion** (流行しない、すたれた); **out of breath** (息がきれた); **out of date** (舊式な); **out of proportion** (釣合のとれない); **keep out of debt** (借金しないやうにする); **out of one's mind** (= senses) (氣の違つた)。

25. over の用法。 **over** は「真上に」の意味から轉じて「上に、越えて、向ふに」なご被覆、跳越、以上、支配、優越、原因、就いて、しながらの意を表す。 **場所及び原因を表す前置詞** (第 52 頁第 55 頁) 参照。

Mosses are grown all **over** the gravestone. (苔が墓石の上一面に生へてゐる) (被覆)

● Jump **over** the ditch. (溝を跳び越せ) (越えて)

He fell **over** the precipice. (崖から落ちた) (同上)

His house is **over** the way. (道の向側にある) (同上)

He must be **over** forty. (四十以上に相違ない) (以上)

He has been promoted **over** my head. (私を飛越して昇進した) (優越)

● **注意** 外の **over** のつく熟語。 **over head and ears in debt** (借金で首の廻はらぬ); **over night** (一晚、其夜は); **over a bottle of wine** (葡萄酒を飲みながら); **sleep over one's work** (仕事をしながら眠る)。

26. through の用法。 **through** は「……の中を通過して、貫通して、貫いて、通つて、……を通じて、……中、面、……の爲めに、に依つて、のお蔭で」なご貫通、始から終まで及び原因を表す。 **時及び原因を表す前置詞** 参照 (第 50 頁第 55 頁)。

- Bore a hole **through** this plank. (此板に孔をあける)
 (貫通)
 He was shot **through** the heart. (心臓を射抜かれた)
 (同上)
 The rumour has spread **through** (=all through; through-
 out) the country. (其噂は國中に弘まつた) (……中)

注意 **through; all through; throughout** は共に「……中」の意。**through** thick and thin (飽まで、水火の中をも厭はずに)。

27. to の用法。 **to** は「……に、……へ、まで、だけ、程、……に取つては、つれて、合はせて、……な事には」等の意を有し、方向、繼續、附加、程度、比例、比較、關係、調和、一致、目的、結果等を表す。**場所・時及び結果・比較を表す前置詞** (第 50, 52, 54, 56 頁) 参照。

- Yokohama is situated **to** the south of Tokyo. (横濱は東京から南にある) (方向)
 I shall be at home from nine **to** ten. (私は九時から十時まで家にゐる) (繼續)
 He remembered it **to** his death. (死ぬまで其を覚えてみた) (同上)
 Add five **to** ten. (十に五を加へよ) (附加)
 The total amounted **to** a million yen. (總計百萬圓に上つた) (程度)
 He was tired **to** death. (死ぬほど疲れた) (同上)
 It may be pleasure **to** you, but it is death **to** me. (其は君にとつて愉快だらうが僕にとつては死ぬ程つらい) (關係)
 He is deaf **to** entreaty. (人の頼みなんか聞入れる男でない) (同上)
 He sang **to** the piano. (ピアノに合わせて歌つた) (調和)
 It was not **to** his taste. (其は彼の趣味に合はなかつた) (同上)
 It does not stand **to** reason. (理窟に合はない) (一致)
To my knowledge, he is a swindler. (私の知つてゐる處では彼は詐欺師だ) (同上)

注意 其他 **to** のつく熟語。ten **to** one (十中八九); **to** the full (十分に); **to** the backbone (飽くまで); **to** the point (要領を得て); **to** the purpose (目的に叶つた); **to** a man (一人残らず) (=to the last man); **to** my surprise (驚いた事には); **to** one's credit (名譽を高めて); **to** the best advantage (最も有利に); **to** all appearances (一見、見た處で); **to** the life (生きてゐるやうに); **to** the music (音樂に合はせて)。

28. toward と towards の用法。 **toward** も **towards** も同義で「……の方へ、向つて、に對して、の爲めに」の意味を表すが、漠然と方向を示すだけで到着の意味を含んで居ない。之れ **to** が方向と到着の意味を表すと異なる所以だ。**場所を表す前置詞** (第 52 頁) 参照。

- He was hastening **towards** the town. (町の方へ急いで居た) (方向)
 He was kind **towards** his neighbour. (隣人に對して親切だつた) (同上)
 He will come **towards** evening. (夕方頃来るだらう) (頃)
 They made a subscription **towards** building a hospital. (病院を建てる爲め募金した) (爲め)

29. under の用法。 **under** は **over** の反對で「真下に」ある事を示し次いで「……の下に、支配を受けて、を受けて、重荷を負ふて、假裝して、口實の下に、……中、最中、……以下」の意を表す。**場所を表す前置詞** (第 52 頁) 参照。

- He concealed himself **under** the bed. (寢臺の下に隠れた) (真下)
 We are **under** his command. (彼の指揮下にある) (配下)
 I learned English **under** a foreign teacher. (外國人の先生に就いて英語を習つた) (同上)

- I am **under** twenty. (二十歳未満だ) (以下)
 The old man bent **under** a heavy load. (老人は重荷を負
 ふて腰が曲がった) (負擔)
 He studied **under** great difficulties. (非常に苦學した)
 (同上)

注意 其他 **under** のつく熟語。 **under** the guise of (……
 の風をして); **under** the pretext (=excuse) of (と言ふ口
 實で); **under** repairs (修繕中); **under** trial (審理中);
under construction (建造中); **under** consideration (考慮
 中); **under** examination (試験中); **under** age (丁年未満
 の)。

30. with の用法。 **with** は「……を以て、……で、
 と共に、……と、……にも拘らず」の意味を有し、道具、
原因、比較、所有、携帶、同居、同時、同意、関係、様子、
反対、分離を表す。原因・比較・行爲者道具を表す前
 置詞 (第 54 頁第 55 頁) 参照。

- He is an oculist **with** a good practice. (よくはやる眼科
 だ) (所有)
 ● He came back **with** this letter. (此手紙を持って戻つて來
 た) (携帶)
 He lives **with** his uncle. (叔父の家に居る) (同居)
 I rise **with** the lark. (雲雀と同時に[早く]起きる) (同時)
 I don't agree **with** your opinion. (君の意見に同意しない)
 (同意)
 Don't keep company **with** such people. (あんな人達と交
 るな) (関係)
 Are you acquainted **with** him? (あの人と知合か) (同上)
 He looked upon them **with** anger. (怒つて彼等を睨みつ
 けた) (様子)
 He did it **with** ease. (樂々とやつた) (同上)
 I have quarrelled **with** him. (彼と喧嘩した) (反対)
 The tram-car collided **with** a waggon. (電車が荷馬車と
 突した) (同上)

- I parted **with** my friend yesterday. (昨日友と別れた)
 (分離)
 I cannot part **with** this article. (此品を手放す事は出來な
 い) (同上)

注意 其他 **with** のつく熟語。 **at one with** (……と一
 致する、同意見の); **familiar with** (よく知つてゐる);
popular with (……に人望ある); **sympathise with** (……
 に同情する); **with** eloquence (雄辯に); **with** might and
 main (全力を盡して); **with** all my heart (喜んで); **with**
 a will (熱心に); **with** all his wealth (あれほど金持にも
 拘らず); **with** all his talent (あれだけの才能があるにも
 拘らず); **dispense with** (……なしでやつて行く); **break**
with (……と絶交する)。

31. within と without の用法。 **within** は **with**
+in の約まつたもので、**without** の反対だ、意味は「……
 の内に、以内に、の範囲内で」。 **without** は **with+out** の
 約まつたもので、**with** の反対だ。意味は「……無しに、を
 持たずに、の外に (**within** の反対)」だ。

- Keep **within** doors for a day or so. (一兩日間家に引込ん
 で居なさい) (内に)
 ● I shall return **within** a week. (一週間以内に歸ります)
 (以内に)
 The school stands **within** a five minutes' walk of the sta-
 tion. (学校は停車場から歩いて五分もかゝらない)
 (同上)
 He stood **without** the gate. (門の外に立つてゐた)
 (within の反対)
 He came **without** any money. (金を持たずに來た)
 (with の反対)

注意 **in a week** は「一週間たてば」「一週間後」の意。
 其他 **without** のつく熟語は **without** delay (直ちに):
without hitch (故障なく、滞りなく); **without** doubt (疑
 なく); **do without** (……なしに済ます)。

練習問題

I. 文法

I. Correct errors, if any:—

1. The meeting will begin from seven o'clock to-morrow morning.
2. This letter is written by English.
3. Don't write a letter with red ink.
4. Our customs are different with yours.
5. Two men-of-war entered into the port.

II. Insert appropriate prepositions in the following sentences:—

1. He is generally at home () the morning except () Sunday mornings.
2. I have been suffering () influenza () two weeks.
3. How can you tell an Englishman () a German?
4. I have heard () him, but I do not know much () him.
5. He looks young () his age.

【解答】 I. 1. will begin at seven o'clock. 何日から始まるは on で何時から始まるは at. 2. written in English. 用語は in で表す. 3. in red ink. ペンは with、インクは in を用ゐる. 4. different from yours. 5. entered the port. 単に入る意味では enter とする. enter into は「開始する. 締結する」意.

II. 1. in the morning except on Sunday mornings. morning や night に形容詞がつけば前置詞は on. 2. suffering from influenza for two weeks. この from は原因を表す. 3. tell an Englishman from a German. 4. heard of him (聴いては聞えた事がある), but I do not know much about him (彼に就いては餘り知らない). 5. for his age (年齢の割には).

II. 英文和譯

- III. 1. There is no riches above a sound body, and no joy above the joy of the heart.
2. He was beloved by all and above all by the children.
3. If any one was in danger, they were ready, at the risk of their own lives, to go to the rescue. Nothing was too hard for them.
4. The little time one can afford for reading ought to settle the question once for all as to what shall be read.
5. There was nothing of the student about him, but very much of the miner.
6. Poor as he was, he was above selling his country at any price.
7. If a man gets wealth at the expense of health, he can scarcely be said to have succeeded in life.
8. The case is not as you represent; far from it,—it is almost the reverse.
9. He was determined to break himself of the bad habit of lying in bed late of a morning.
10. In point of learning, he is not to be compared

【解答】 III. 1. 健全なる身體にまさる財寶なく、心の喜にまさる喜なし. 2. 彼は凡ての人就中子供達に愛された. 3. 若し誰かが危険に陥れば彼等は自分の生命を賭してもすぐ救助に赴いた. 彼等にはどんな事でも困難過ぎると言ふ事は無かつた. 4. 讀書の爲めに費やし得る時間が少ないと言ふ事に依つて何を讀むべきかと言ふ問題は當然きつぱりと決定さるべきである. 5. 彼には少しも學者らしい處はなく却て鑛夫らしい所が多分にあつた. 6. 彼は貧乏こそして居たが如何なる價を以てするも金の爲めに國を賣るやうな人間ではなかつた. 7. 若し人が自分の健康を害して富を得るならば、其人は世の中で成功したものと殆ど言はれない. 8. 其事件は君の言ふ通りでは無く、それ處か殆ど正反對だ. 9. 彼は朝などよく遅くまで寝て居る悪癖を止めやうと決心した. 10. 學問の點で

with his rival candidate, though he is far superior to him in natural abilities.

III. 和文英譯

- IV. 1. 大正十二年九月一日關東に大震災が起り、東京では死者約十萬と稱せられ其七分五は火災の爲めであつた。
 2. 君は昨夜八時に東京驛へ着いたさうだね、もし知つて居たら迎へに行くのだつたのに。
 3. 人種問題を研究しやうと思ひますが、市の圖書館に何かよい参考書はありませんか。
 4. 本年は非常に暖くて、寒暖計が五度以下に降ることは滅多にありませんでした。
 5. 何卒感謝のしるし迄に此品御受納相成度候。
 6. 本月六日夜半學校々舎より出火せしも生徒の盡力により間もなく鎮火せり。
 7. 文語と口語とは全然違ふから日本語は外國人には至つて學びにくい。

譯文 は彼は相手の候補者と比べものにならないが、然し生れつきの才能に於ては相手より遙かにすぐれてゐる。

IV. 1. A big earthquake occurred in the Kanto District on the 1st of September in the 12th year of Taisho. The number of the killed (=dead) in Tokyo was roughly put at 100,000, five-sevenths of which were caused by the fire that followed. 2. You arrived at Tokyo Station at eight o'clock last evening, I hear. If I had known of it, I should have been there to meet you. 3. I want to study the racial problem. Is there any good reference book on it in the city library? 4. Last winter was so mild that the thermometer seldom fell below five degrees. 5. Please accept this article in token of my gratitude. 6. A fire broke out in the school-house at midnight on the 6th of this month, but it was immediately put out through the efforts of the students. 7. The Japanese language is very difficult for a foreigner to learn, because the written form is entirely different from the spoken one.

8. 何方の道を行つても停車場の前に出ます。
 9. 君の弟さんは僕より二つ年下だが年齢の割合には非常に丈が高く僕より一寸だけ高い。
 10. 電報によれば御地大地震の由、御家内御一統様御無事に候や右御見舞まで以上。

第五章 動詞

I. 動詞の種類

1. **動詞の定義。**動詞 (verb) とは動作 (action) や状態 (state) を表す語である。而して其動作や状態の主となる語が主語 (subject) である。

2. **動詞の種類。**動詞は自動詞 (intransitive verb) と他動詞 (transitive verb) とに分かれる。自動詞とは動作又は状態が主語だけに止まつて他に及ぼさない動詞であつて、他動詞とは其動作又は状態が主語だけに止まらないで他の物に及ぶ動詞を言ふ。邦語に譯して見て前にてにをはの「を」や「が」を伴へば其の動詞は大抵他動詞だ。動詞の區別はかく簡單であるが、餘程氣をつけて英語を讀まないといつ迄たつてもはつきりされが自動詞かされが他動詞か解らないから注意を要する。勿論英語の大抵の名詞は動詞となり、又同じ動詞で自動詞と他動詞と兩方に使用出来る物の多い事も考へねばならぬ。英語の動詞は一般に六ヶ敷いと言はれて居るが、實は無實の罪であつて、日本語の動詞の方がもつと六ヶ敷いのである。他の西洋語と比べても英語の動詞は一番簡單なのだから諸君はそのつもり

譯文 8. Whichever way you may take, you will find yourself in front of the station (=it will lead to the station). 9. Your brother is younger than I by two years, but he is very tall for his age and taller than I by an inch. 10. According to a telegram, a big earthquake occurred in your district. I write to inquire if you and your family were all safe. Yours truly.

で勉強せねばならぬ。

3. 動詞の目的語。動詞の表す動作又は状態の影響を蒙る人又は物を表す語を動詞の目的語 (object) と言ふ。

- (1) { Birds fly. (鳥が飛ぶ)
The baby sleeps. (嬰兒は眠る)
Cats kill mice. (猫は廿日鼠を殺す)
- (2) { I do not know whether he will come. (彼が来るか
如何か私は知らない)

【注意】 (1) の中 fly や sleeps は自動詞で、(2) の kill や know は他動詞である。而して mice が kill の目的語、whether he will come が know の目的語である。

II. 動詞を作る接尾語

生れつきの動詞は仕方がないが、明かに動詞で候と印のついて居るものがある。それは動詞を表す接尾語がついてゐるからだ。かゝる接尾語を知つて居れば一見之は動詞だとすぐわかる。次に動詞をつくる接尾語 (suffix) を掲げる。

- (1) -en (する、なる、化す) ● 形容詞を變じて動詞となす。
- blacken (黒くする、黒くなる); broaden (廣くする、廣くなる); darken (暗くする、暗くなる); redden (赤くする、赤くなる); quicken (早くする、早くなる); stiffen (固くする、固くなる)。
- (2) -er (……する)。● 形容詞又は動詞について動詞をつくる。
- hinder (妨げる); linger (ぐづぐづする); batter (打つ); chatter (べちやくちやしやべる); totter (よろめく); wander (彷徨ふ)。
- (3) -el; -le (……する)。● 動詞又は名詞について動詞をつくる。
- muddle (よごす、滅茶苦茶にする); hackle (値切る)。
- (4) -esce (……となる、する、化す)。● 羅典等の接尾語。

- convalesce (回復に向ふ); effervesce (沸騰す)。
- (5) -fy (作る、する、爲す、化す)。● 多く形容詞について動詞を作る。
- amplify (大きくす、敷衍す); magnify (擴大す); purify (清める); simplify (簡単にする); testify (證明す)。
- (6) -ise, -ize, -ish (……する、化す、作る、爲す)。
- 形容詞について動詞をつくる。
- Americanise (アメリカ化す); civilise (文明化す); establish (設立する); finish (終へる); sympathize (同情す)。
- -ise も -ize (米語) も同じ。
- (7) -ite, -ete, -ate (……する、爲す)。● 羅典形の接尾語。
- create (造る、創造す); delete (除く、消す); expedite (急ぐ); ignite (火をつける)。

III. 名詞より動詞を作る場合

英語の名詞は英語の特徴として動詞に兼用される事は前述の通りであるが、例へば book (書物) が book (書物に記入する、申込む、豫約す) のやうに。然し名詞より動詞を作る場合には名詞を少しく變更して動詞となす事が屢々ある。殊に普通なるは名詞の語尾を濁音とする事、名詞中の母音を他の母音に變へる事と語尾の -f を -ve とする事である。

- (a) 語尾を濁音 (dat) に變へる場合。

(名詞)	(動詞)
abuse (亂用)	abuse [əbju:z] (亂用する)
bath (風呂)	bathe [beɪð] (浴する)
breath (呼吸)	breathe [bri:ð] (呼吸する)
cloth (布)	clothe [klouð] (着せる)
glass (硝子)	glaze [gleiz] (硝子を入れる)
grass (草)	graze [greiz] (草を食はせる)
house (家)	house [hauz] (家に入れる)
mouth (口)	mouth [mauð] (口に入れる)
premise (前提)	premise [praɪmáiz] (前提する)
use (使用)	use [ju:z] (使用する)

(b) 語尾の -f を -ve に變ずる場合

calf (犢)	calve (犢を産む)
half (半分)	halve (半分にする)
shelf (棚)	shelve (棚に上げる)
wife (妻)	wive (妻にする)

(c) 母音を變へる場合。

bond (結)	bind (結ぶ)
brood (一孵の雛)	breed (産む)
drop (滴)	drip (滴る)
food (食物)	feed (食べさす)
knot (結)	knit (編む)
song (歌)	sing (歌ふ)
whole (全體)	heal (直る)

IV. 自動詞を變じて他動詞となす場合

自動詞の母音を變へて他動詞を作る事が往々ある。その中最も顯著なるもの次の如し。

(自動詞)	(他動詞)
fall (落つ)	fell (倒す、伐倒す)
lie (横はる)	lay (置く)
rise (起きる、上る)	raise (擧げる)
sit (坐す)	set (置く)
quail (畏縮す、すくむ)	quell (消す、鎮む)
wind (曲がる)	wend (向ける、進める)

V. 自動詞

1. 自動詞 (intransitive verb) には二種あつて、一はそれ自身で意味の完全なものと他は或語を補はないと意味が完全にならないものである。前者を完全自動詞 (complete intransitive verb)、後者を不完全自動詞 (incomplete intransitive verb) と言ふ。

● Birds fly (鳥が飛ぶ); Rivers flow (河が流れる); Winds blow (風が吹く)。

☞ 以上の fly, flow; blow 等は完全自動詞。

2. 不完全自動詞 (incomplete intransitive verb) は

それ自身では意味が完全で無い自動詞で其意味を完全にする爲めには他の語句を要する。斯る語句を補足語 (complement) と言ふ。自動詞と他動詞の簡單なる區別は他動詞は目的語を要し、自動詞は目的語を要しない事である。他動詞の目的語と自動詞の補足語とを混用してはならぬ。自動詞の補足語は常に主語を形容するものであるに反し、他動詞の目的語は其動詞の働きを受けるものである。

☞ 自動詞の補足語は凡て主語を形容するもの故、之を主語の補足語 (subjective complement) と言ふ。而して名詞や代名詞が主語の補足語となれば格は主格 (nominative case) である。尙自動詞の補足語となり得るものは名詞、代名詞、形容詞、分詞、不定詞、體用詞 (gerund)、句、節及び副詞の九つである。

● Gold is a metal (黄金は金属である) (補足語)

It was he. (それは彼だつた) (同上)

Seeing is believing. (百聞一見に如かず) (同上)

He is in tears. (泣いて居る) (同上)

VI. 他動詞

1. 他動詞 (transitive verb) とは其の表す動作又は状態が他の人又は物に及ぶ動詞を言ふ。邦語に譯しててにを、はのを又はかを伴ふ動詞は大抵他動詞だ。而して他動詞の表す動作又は状態の作用を受くる語を他動詞の目的語 (object) と言ふ。☞ 他動詞の目的には名詞、代名詞、不定詞、體用詞、句 (phrase)、節 (clause) の六つがなれる。目的語は他動詞の後へ来る。

● He killed a snake. (蛇を殺した) (名詞)

He helped me. (私を助けた) (代名詞)

I don't know who has come. (誰が来たのか知らない) (節)

2. 他動詞中には目的語を二つ取るものがある。其中一は大抵物の名で、他は人又は動物の名である。而して此等の二の目的語中物の名を直接目的語 (direct object) と言ひ、人又は動物の名を間接目的語 (indirect object) と言

ふ。

間接目的語は二つの目的語中初めに置かれ(他動詞の次へ)、直接目的語は終りに置かれるのが普通である。他動詞のすぐ後へ来てゐながら間接目的語と言はれ、終りへ来ながら直接目的語と言はれるのは少し變だが、書きかへると直接目的語は元來動詞のすぐ後へ来るのみならず、間接目的語は終りに来てその前に to 又は for なる前置詞がつくので此の直接・間接の區別が出来るのである。

- ⑩ I gave John a book. } (ジョンに本を與へた)
 I gave a book to John. }
 I bought him a book. } (彼に本を買つてやつた)
 I bought a book for him. }

注意 直接目的語は「……を、何々、ごんな」に当たり、間接目的語は「……に、誰に」に当たる。上例の John や him は間接目的語で、a book は直接目的語である。間接目的語が代名詞なれば、書き換へた場合に前置詞の to や for を略してもよい。

二重の目的語 (double object) 即ち間接目的語と直接目的語を取る主なる動詞は give (與へる); lend (貸す); bring (持つて来る); ask (尋ねる); tell (告げる); sell (賣る); buy (買ふ); answer (答へる); show (示す); do (爲す); make (爲す、造る); teach (教へる); send (送る); leave (残す); pay (拂ふ); cost (價す); owe (負ふてゐる); offer (提供する); refuse (拒絶す); deny (拒む); write (書く); cause (生ず); forgive (ゆるす); allow (許す); wish (願ふ); envy (羨む); fine (罰金を課す); play (する、行ふ); promise (約束す); bear (抱く); save (省く); spare (ゆるす) 等。

3. 以上述べた他動詞は完全他動詞 (complete transitive verb) である。何となれば目的語を取つただけで意味が完全になるからである。然るに他動詞の中には目的語を一つ取つても未だ意味が完全にならない爲め他の語句を以て意味を補はねばならぬものがある。斯かる他動詞を不完

全他動詞 (incomplete transitive verb) と言ふ。而して不完全他動詞の意味を補ふ語句を補足語 (complement) と稱す。尙ほ不完全他動詞の補足語は目的語を形容するもの故、目的語の補足語 (objective complement) と言つて、自動詞の補足語と區別してゐる。

目的語の補足語になる語句は名詞、形容詞、分詞 (participle)、不定詞 (infinitive)、副詞、句 (phrase) 及び節 (clause) の七つである。

- ⑪ They made him king. (彼を王にした) (名詞)
 He made me happy. (私を幸福にした) (形容詞)
 He has made me what I am. (彼は余をして今日あらしめた) (名詞節)

注意 made him (彼をして) 又は made me だけでは意味が完全でないので意味を補ふ爲めに king; happy; what I am 等が補足語として用ゐられてゐるのだ。

4. 再歸動詞 (reflexive verb)。他動詞の中には再歸動詞と言ふものがある。之は目的語として myself; yourself; himself; herself; itself; themselves の如き再歸代名詞 (reflexive pronoun) を取るもので、よく主語の意味を強めるに用ゐらる。

- ⑫ Take care not to overwork yourself. (働き過ぎないやうに注意せよ)
 He overate himself. (食べすぎた)
 He is preparing himself for an entrance examination. (入學試験の準備をしてゐる)

再歸動詞の主なるものは oversleep oneself (寝過す); enjoy oneself (楽しむ); absent oneself (缺席する); devote oneself (専心する); distinguish oneself (有名になる); pride oneself (誇る); amuse oneself (遊ぶ); avail oneself of (……を利用する)。

VII. 自動詞が他動詞に用ゐられる場合

自動詞が他動詞に用ゐられるのは次の三つの場合であ

る。

1. 自動詞が前置詞と合して一種の他動詞の意味に用いられる場合。かゝる動詞を前置詞動詞 (prepositional verb)と言ふ。自動詞の次へは決して名詞や代名詞が来るもので無い、必ず相當の前置詞を用ゐるのである。斯くして初めて自動詞が他動詞と同一の働をなす事が出来るのだ。

⑨ He sent in (=tendered) his resignation. (辭表を提出した)。

I shall start from (=leave) Tokyo for Kyoto to-morrow. (明日東京を出發京都へ向ふ)。

⑩ 斯く前置詞がついて他動詞と同一の働をなす自動詞の主なるものは see off (見送る); send for (呼びにやる); call for (誘ひに行く); laugh at (見て笑ふ、嘲笑する); look after (世話する); depart from (出發する) (=leave); arrive at (到着する) (=reach)。

2. 自動詞と同意義又は類似の名詞を目的とする場合。

⑪ 此場合の動詞を同語原動詞 (cognate verb)、其目的語を同語原目的語 (cognate object) と言ふ。但し斯かる目的語には大抵形容詞が附くものである。

He died a sad death. (悲惨な死に方をした)

He lived a long life. (長命した)

⑫ They ran a race. (競走した)

He struck a deadly blow. (致命的打撃を與へた)

He ran his fastest [run]. (全速力で走つた)

⑬ 其他の同語原動詞の主なるものは。sleep a sound sleep (熟睡する); dream a good dream (よい夢を見る); sigh a deep sigh (長大息する); laugh a hearty laugh (心から笑ふ); blow a regular gale (ほんものの嵐となる); go a long way (遠くへ行く); fight a good battle (善戦する); shout [a shout of] applause (喝采する); shout one's loudest [shout] (聲を張あげて叫ぶ); fight one's best [fight] (根限り戦ふ); sing one's sweetest [song] (非常に上手に歌ふ); breathe one's

last [breath] (絶息する); try one's hardest [trial] (全力を盡す); fight it (=the fight) out (飽まで戦ふ)。

3. 自動詞が「……させる」 (=cause) の意味に用ゐられると他動詞となる。

⑭ (自動詞)

Water boils.

(湯が煮立つ)

The kite flew into the sky.

(凧が空に上がった)

Wheat grows in the field.

(小麦は畑で出来る)

The boat floated.

(舟が浮んだ)

He talks hoarsely.

(しやがれ聲で話す)

A thorn ran into his hand.

(刺が手にさゝつた)

(他動詞)

He boils the water.

(湯を煮立たせる)

He flew the kite.

(凧を上げた)

He grows wheat in the field.

(小麦を畑で作る)

He floated the boat.

(舟を浮べた)

He talks himself hoarse.

(しやべつて聲をからす)

He ran a thorn into his hand.

(刺を手をさした)

VIII. 他動詞が自動詞に用ゐられる場合

他動詞が自動詞に用ゐられるのは次の四つの場合だ。

1. 他動詞を一般的の意味に用ゐる、目的語を省略した場合。

⑮ (他動詞)

What do you eat?

(何を食べますか)

I see a cat.

(猫が見える)

He can read English.

(英語が読める)

He is writing a letter.

(手紙を書いて居る)

(自動詞)

Men eat to preserve life.

(人間は生きる爲めに食ふ)

The cat sees in the dark.

(猫は暗がりでも眼が見える)

He cannot read.

(字が読めない)

He cannot write.

(字が書けない)

2. 他動詞が受働の意味 (passive sense) に用ゐられた場合。即ち「……される、されて居る」の意味の折。

⑯ (他動詞)

Have you read this novel?

(此小説を讀んだか)

(自動詞)

This novel reads very well.

(此小説はよく讀める)

Please **sell** it to me. It **sells** very well.

(それを賣つてくれ) (それはよく賣れる)

注意 **will wash** (洗濯がきく); **wears well** (持ちがよい); **is building** (建築中); **smell sweet** (匂がよい); **taste nice** (味がよい) も自動詞に用ゐられた例。

3. **再歸動詞 (reflexive verb)** が **再歸代名詞 (reflexive pronoun)** を省略した場合。

● He **drew** [himself] near me. (私に近寄つた)

Move [yourself] forward. (進め)

● **put** [itself] to sea (出帆する); **put** [itself] back to port (港へ引返す); **put** [itself] in at port (入港する); **set** [oneself] out (出發する) も此類。

4. **他動詞が副詞と合して自動詞となる場合。**

● He **got off** safe. (無事にのがれた)

He **made off** with 1000 yen. (千圓持つて逃げた)

He **turned out** a swindler. (詐欺師な事が解つた)

● **give in** (へこたれる、切れる); **cave in** (くづれる); **break out** (發生す); **pull out** (發車す、出る); **pull in** (到着す); **push on** (前進する) も此類。

IX. 動詞の慣用的用法

(Idiomatic Uses of Verbs)

1. **英語の癖。抽象名詞や無生物を主語として動詞に他動詞を使ふのが英語の癖である。**斯かる場合には、其抽象名詞を以て理由を表はすものと見て「……の爲めに、……で」と譯すがよい。又動詞は邦語に譯す場合には**自動詞のやうに譯すのが穩當である。**無生物が主語の場合にも英語の他動詞の動詞は邦語には自動詞に譯すが宜い。

● **Illness prevented me** from accepting your kind invitation.

(病氣の爲め折角の御招待に應ずる事が出来なかつた)

Urgent business calls me to Kobe to-morrow. (急用がある

ので明日神戸へ行かねばならぬ)

His ignorance surprises me. (彼の無學なのに驚いた)

His wealth enables him to do what he pleases. (彼は

金があるから自分で好きな事が出来る)

The bare idea shudders me. (其事を考へたばかりでぞつとする)

A good night's rest will set you right. (一晩休めば直るでせう)

What brought you here? (何用で来たか)

This place reminds me of my native place. (此處を見ると郷里を思ひ出す)

His haughtiness makes him unpopular. (彼は高慢なので人氣が悪い)

The fire killed no less than 100 people. (火事で百人も死んだ)。

2. 「……させる、される」を表す動詞。「……させる、される」と言ふ意味では **make; let; cause; suffer; allow; have; get** 等を用ゐる。茲に注意すべきは **make; let; have** の次には**不定詞 (infinitive)** の **to** を略す事である。

● **I made him go.** (彼を行かせた) (命令して)

Let him go. (彼をやれ) (命令)

I let him sleep. (眠るまゝにした) (意の儘に)

I allowed him to go. (行く事を許した)

The rain **caused** the river to overflow. (雨で河が溢れた)

I will not suffer myself to be ill-treated. (虐待されて黙つて居らぬ)

make は命令で「……させる」、無理にも「……せしむ」で、**let** は第三人稱に對する命令法の場合は「……せしむ」と言ふ事になるが、**其の外は「……するに任かせる」**で **allow** (許す) に同じ。**suffer** も **allow** に同じく「許す、……するに任かせる」。

have にも「……させる、される」の意味がある。原則として **have** の前に**意志を表す動詞**や**助動詞**があれば「…させる」と譯し、**無意志動詞**や**助動詞**の後の **have** は「……される」と譯すべきである。而して **have** をかゝる意味に用ゐる形は次の二つである。

(a) **have + object + root.**

(b) have + object + past participle.

root は不定詞の to を省いた形で、past participle は過去分詞。

- I will have some one come. (誰かに来て貰ふ) (=I will get some one to come).
- ① I had my father buy me a fountain-pen. (父に万年筆を買って貰った) (=I got my father to buy me a fountain-pen).
- I must have (=get) a new suit made. (洋服を新調せねばならぬ)
- I had (got) my watch stolen. (時計を盗まれた)

3. take 取る)の用法。take と言ふ動詞は種々の意味に用ゐられる。

- (a) eat (食ふ) や drink (飲む) の代りに用ゐらる。
- ② take breakfast (lunch; supper) [朝食(昼食、晩食)を食ふ]; take tea (coffee; medicine) [茶(珈琲、薬)をのむ]
- (b) 散歩・旅行・運動・晝寝をすると言ふ場合のするには take を用ゐる。
- ③ take a walk (stroll; ramble) (散歩をする); take a drive (馬車・自動車などに乗る); take a journey (旅行する); take an excursion (旅行する); take a nap (晝寝する); take exercise (運動をする); take one's leave (暇乞する)。
- (c) その他、
- take [in] a newspaper (新聞をとる); take a photograph (寫眞をとる); take a bath (風呂に入る); take a cold bath (冷水浴をする); take— for (……と間違へる); take one by the hand (の手を握る)。

4. do の用法。do には「爲す、する」の外に種々の慣用的意味がある。

- ④ That will do. (それで宜しい)
- Ten yen will do. (十圓で宜しい)
- I have done Kyoto already. (京都はもう見物した)
- ⑤ 其他 do のつく慣用例は。do the sights of (見物する); do the meat thoroughly (肉をよく焼く); is overdone (underdone) [煮え過ぎる(生煮えだ)]; have done

with (……が済む); have nothing to do with (と関係がない)。

5. do; make; take; keep のつく句 (phrase)。do; make; take; keep なぎが附く成句の主なるもの次の如し。

- ⑥ do right (正しい事をする); do wrong (間違つた事をする); do good to the health (身體によい); do harm to the health (身體に悪い); do justice to the meal (御馳走を十分食べる); do justice to one (……に公平にする)。
- make much of (重んずる); make light of (輕んずる); make fun of (馬鹿にする); make room for (席を譲る); make way for (通してやる); make faces at (しかめつらする); make haste (急ぐ); make progress (進歩する); make a soldier of (……を軍人にする)。
- take place (起る、生ず); take cold (風をひく); take fire (火がつく); take root (根がつく); take aim (狙ふ); take effect (利く); take care of (注意する、世話する); take notice of (注意する); take advantage of (利用す、乗ず); take interest in (熱心になる); take part in (加はる); take offence (怒る); take orders (僧籍に入る)。
- give way (くづれる、きれる); give place to (……に取つて代らる); give countenance to (奨励する); bear fruit (實を結ぶ); bear date (日附が……である); keep house (世帯を持つ); keep shop (store) (店を持つ); keep company with (……と交る); keep pace with (並行する); lay claim to (請求する); lay siege to (包圍する); lay stress on (力を入れる); lay hold of (捕へる)。

X. 助動詞 (Auxiliary Verbs)

1. 助動詞の定義。他の動詞を助けて其意義を補ふ動詞を助動詞 (auxiliary verb) と稱し、之に對し本當の動詞を本動詞 (principal verb) と言ふ。助動詞の主なるものは do; be (am, are, is, was, were); have (has); shall (should); will (would); may (might); can

(could); must; ought; dare である。

2. do の用法。助動詞の do は次の三つの場合に用ゐられる。

- (a) 疑問文及び否定文の場合。
 (b) 動詞の意味を強める場合。
 (c) 動詞の反覆を避くる場合。代動詞 (pro-verb; substitute-verb) として用ゐらる。

- Do you take [in] any foreign newspaper? (何か外国新聞を御とりですか) (疑問文)
 ● I do not take any foreign newspaper. (外国新聞は何も取りません) (否定文)
 ● Do come with me. (是非一緒に行つて下さい) (強勢)
 ● I do hope so. (全くさうしたいものです) (同上)
 ● Do you know who he is? Yes, I do (=I know). (彼は誰だか知つて居ますか。はい、知つてます) (代動詞)

注意 同じ否定文でも no; none; nothing 等の否定語があれば助動詞の do は用ゐない。又動詞が have; be の折には疑問文でも否定文でも do を用ゐない。且つ疑問文に於て疑問詞 (interrogatives) が主語になつて居れば助動詞の do を用ゐない。

- I take no foreign paper. (外国新聞は何も取つてゐない)
 ● I want nothing. (何もいない)
 ● Have you any dictionary? (字書を持つてるか) (疑問)
 ● No, I have no dictionary. (字書は一つもない) (否定)
 ● Is he our teacher? (吾々の先生でせうか) (疑問)
 ● No, he is not our teacher. (吾々の先生でない) (否定)
 ● Who goes there? (あそこへ行くのは誰だ) (疑問詞)
 ● What happened then? (それから如何した) (同上)

3. have 及び be の用法。完了形 (perfect tense) の have 及び受働態 (passive voice) や進行形 (progressive form) の be は凡て助動詞として用ゐられるものだ。

- God is (=exists). (神は存在す) (本動詞)
 ● He has (=possesses) a gold watch. (金時計を持つてゐる) (同上)

- He is taking a walk. (進行形) (助動詞)
 ● They are respected by all. (凡から尊敬される) (受動態) (同上)
 ● He has bought a gold watch. (金時計を買つた) (完了) (同上)

4. shall と will の用法。未來を表す助動詞は shall と will であるが、尙 shall は未來のみならず義務 (……すべきである) と命令 (……してやる、せよ) の意を表し、will は未來の外に意思 (……する) と習慣 (よく……する) との意を表す。詳しい事は次の tense (時) の條を参照 (第115頁)。

5. may の用法。may は四つの場合に用ゐらる。
 (a) は許可 (permission) を表し「……しても宜しい、しても差支ない」の意味を有し、意志動詞即ち do; go; ask; try; play; leave 等と用ゐられる場合。(b) は可能 (possibility) を表し「……かも知れない」を意味し、無意志動詞の be; succeed; fail; rain 等と用ゐられる場合。(c) は祈願 (wish; prayer) を表し「……を祈る、望む」を意味する場合。(d) 目的 (purpose) を表し「……する爲め」を表す場合。

- You may leave the room. (室を出ても宜しい) (許可)
 ● May I ask a favour of you? (一つ御願をしてもよいか) (同上)
 ● You may succeed. (成功するかも知れない) (可能)
 ● It may be true. (本當かも知れない) (同上)
 ● May you succeed! (君の成功を祈る) (祈願)
 ● May Heaven protect thee! (願くば天君を守らん事を) (同上)
 ● I work hard [so] that I may succeed. (成功せんが爲めに勉強する) (目的)
 ● I work hard for fear I may fall. (落第を恐れて勉強する)

注意 may I……? (しても宜しいか) に対して「いけない」は must not であつて、may not ではない。may

not は「……で無いかも知れない」意。

② May I go? No, you **must not** go. (行つても宜しいか。いや、行つてはいけない)。

③ 其他 **may** を用ゐる成句は。It **may** be so (左様かも知れない); He **may** have said so (左様言つたかも知れない) (過去の事); **may** be (多分、或は); **may well** be proud (自慢するのも尤もだ); **may well** be called…… (…と叫ばれるのも當然だ); **may as well**…… (……した方がよい) (=had better); **may (might) as well**……as —— (——よりは……の方がまだ、——するは……も同然だ)。

6. **can** の用法。 **can** には三つの用法がある。(a) 能力 (ability) を表し、「出来る、能ふ、される」の意味を有し意志動詞の do; go; run; play; try 等に用ゐる。(b) 許可 (permission) を表し「宜しい、差支ない」との意味を有す。(c) 強勢 (emphatic use) の場合で、「筈がない」(打消の場合)及び「一體……だらうか、一體……するか知らん」(疑問の場合)を表し、無意志動詞の be; succeed; fail 等と用ゐらる。

- ④ { It **cannot** be true. (本當の筈がない) (打消)
- ⑤ { He **cannot** have arrived yet. (まだ着いた筈がない) (同上)
- ⑥ { Who **can** it be? (一體誰だらうか) (疑問)
- ⑦ { Can it be true? (一體本當だらうか) (同上)

⑧ 其他 **can** のつく成句は。 **cannot but** (……せざるを得ない); do that (=what) I **can** (きんなにしても); **cannot+too**…… (いくら……しても……し過ぎる事はない); **can never**……without—— (……すればきつと——する)。

7. **must** の用法。 **must** の用法は五つある。(a) は必要又は強制 (necessity or compulsion) を表す場合で「……せねばならぬ、するを要す、止むを得ず……する」を意味す。(b) は義務 (duty) を表す場合で、「……せねばならぬ、當然……すべきである」を意味す。(c) は強き意志

志 (strong intention) を表す場合で、「是非……せねばならぬ、是非……と言つて聴かない」意を表す。(d) は確實又は強き推量 (certainty or strong inference) を表す場合で、「……に相違ない、さぞ……でせう、必ず……する」意味を有し無意志動詞の be; succeed; fail; lose; recover 等と用ゐらる。(e) は皮肉 (perverse destiny) を表す場合で、「……とはひざい、とは情ない」と運命の皮肉即ち泣面に蜂の意を示す。

- ① One **must** pay what one owes. (借りた物は返さねばならぬ) (必要・義務)
- ② { You **must** pay the money, but you **need not** do so at once. (金を拂はねばならぬ、然し今すぐに及ばぬ) (必要・義務)
- ③ { We **must** obey our parents. (親の命に従はねばならぬ)
- ④ { I **must** finish this before I go. (行く前に是非之を仕上げねばならぬ) (強き意志)
- ⑤ { I **must** know your reason. (是非君の理由を聞かねばならぬ) (同上)
- ⑥ { You **must** lose, whichever happens. (どの道損をするに違ひない) (確實)
- ⑦ { It **must** be false.—Surely it **cannot** be true. (それは嘘に違ひない。どうしたつて本當の筈がない) (推量)
- ⑧ { You **must** be tired. (さぞ御疲れでせう) (同上)
- ⑨ { Just as I was busiest, he **must** come worrying me. (こんなに忙しい最中に彼が邪魔しに来るとは情ない) (運命の皮肉)

⑩ **Must I?** (せねばならぬか) に対する打消の返事は **need not** (するに及ばぬ) である。 **must not** は禁止を表して「してはならぬ」の意。

其他 **must** のつく熟語は。 **must have been** (……だつたに相違ない); **must have arrived by this time** (今時分は着いたに相違ない)。 **must** は **have to** に同じく **must** の過去には **had to** を用ゐる。 **must** をその儘過去に用ゐれば強き意志を表し「是非……せねばならぬ」。

8. **ought** の用法。 **ought** は元來 owe (負ふ、借りる) の過去であるが今では義務 (duty) を表し「……す

べきである、の筈である」の意味を有し、現在・過去同形である。且つ助動詞で次へ来る不定詞 (infinitive) の to を略さないのは ought だけである。ought には二つの用法があつて (a) は「……すべきである、の筈である、ねばならぬ、するのが當然の義務である」の意を表し意志動詞の do; write; pay; consult; obey 等と用ゐる。(b) は「當然である、当たり前である、するも不思議で無い、……筈」を表し、無意志動詞の be; succeed; fail; know 等と用ゐる。

- You ought to consult your father. (父上に相談すべきである)
He ought to be here. (来て居る筈なのに)
Such a man ought to succeed. (かゝる人は成功するのが當然だ)

注意 ought を以て過去の出来事を表すには次に完了不定詞 (perfect infinitive) を用ゐる。而して肯定の場合には或事を行はざりし罪を責め「……しないのが悪い」と言ふ意味を表し、打消と共に用ゐれば或事を行つた罪を責め「……! たのが悪い」との意味となる。

- You ought to have done it yesterday. (昨日爲すべきであつた) (しないのが悪い)
You ought not to have done such a thing. (そんな事をすべきでは無かつた) (したのが悪い)

9. need の用法。need は助動詞として用ゐれば必ず打消の語 (not; scarcely; hardly) 又は限定語 (only = nothing but) 等を伴ひ「……するに及ばぬ」の意味となる。且つ助動詞の場合には need は第三人稱單數でも決して s を附けないし又次に来る不定詞 (infinitive) の to を略す。need を本動詞として用ゐれば一般の動詞の規則に従ふ事は勿論である。

- He need not work. (働くに及ばぬ) (助動詞)
He needs no money. (金はいらない) (本動詞)

注意 本動詞としての need の第三人稱單數 needs と副詞の needs (是非、必ず) とを混用してはならぬ。又助動詞の need not は現在のみ用ゐる、過去は had not to

(……に及ばなかつた) とする。但し need not の次へ完了不定詞 (perfect infinitive) の to を略したものをを用ゐれば過去の事に用ゐる、「餘計な事をした」との意を表す。

- He must needs do this. (是非之をせねばならぬ) (副詞)
He had not to do so. (さうするに及ばなかつた)
He need not have done so. (そんな事はするに及ばなかつたのに) (餘計な事をした)

10. dare の用法。dare は否定文及び疑問文に用ゐられた場合には概して助動詞として取扱はれ次に来る不定詞 (infinitive) の to を略し且つ三人稱現在單數に s を附けない。dare は「敢てする、憚らずにする、思切つてする、冒す」の意。肯定文では dare は本動詞として取扱はれ次に来る不定詞の to を略さないのみならず三人稱現在單數に s を附ける。

- He dare not leave the room. (思切つて室を出る勇気が無い) (助動詞)
How dare you do such a thing? (よくもそんな事が出来るな) (助動詞)
He dares to leave the room. (思切つて室を出る) (本動詞)

注意 I dare say は一の熟語で「多分、左様かも知れません」 (= I should say; perhaps)。dare の過去及び過去分詞は dared; dared 又は durst; durst で dared の方が主として本動詞として用ゐられた場合に使はる。

XI. 人稱と數 (Person and Number)

1. 動詞の人稱と數。凡ての動詞の人稱と數とは其主語の人稱と數とに一致する形を使はねばならぬ。即ち主語が單數ならば動詞も單數の形を用ゐる、主語が複數ならば動詞も複數の形を取る。又主語が二人稱ならば動詞も二人稱の形を用ゐる、主語が三人稱ならば動詞も三人稱を用ゐる。

注意 be (am; is; are; was; were) 以外の動詞に於ては唯だ三人稱現在單數の場合にのみ其語尾に s を附けるだけで其他の動詞には人稱や數の變化はない。而して語

尾に **s** を付けて三人稱現在單數を表すには名詞を複數にする時の規則に従ふ(名詞の數の部参照)。

☞ 凡ての名詞並に名詞に相當する語(noun-equivalent)は三人稱の動詞を取り、凡ての代名詞(一人稱と二人稱の代名詞を除く)は三人稱の動詞を取る。

☞ 助動詞を用いた場合には人稱・數・時の變化は凡て助動詞だけに限るので本動詞は何等の變化も受けない。

● Rain is falling. (雨が降つてゐる) (單數)

Raindrops are falling. (雨が降つてゐる) (複數)

He starts for Osaka to-morrow. (明日彼は大阪へ立つ) (單數)

A dog is a useful animal. (犬は有用な動物だ) (單數)

2. 動詞の數は主語の意味に依つて決定さる。(a) 複數の名詞が一の距離・期限・金額等の單位を表す場合には動詞は單數とす。(b) 複數の名詞が總計・總額を表せば動詞は複數となる。(c) 二つ以上の單數の主語が **and** で結び付けられた場合には動詞は複數となる。(d) 二つ以上の主語が **and** で結び付けられてあつても、全體として一つの纏まつた物を表す場合には動詞は單數だ。(e) 二つ以上の主語が **or; nor; either.....or; neither.....nor** で結合された場合には動詞は **or** や **nor** の次に來る主語と數に於て一致する。(f) 二つ以上の主語が **and** で結び付けられてあつても各語の前に **each; every; no** があれば動詞は單數だ。(g) 二つの主語が **as well as; and also; and too; and not; and alone; but not; if not** 等で結び付けられた場合には動詞は初の主語の數に一致する。(h) 二つの主語が **not only.....but [also]** や **not merely.....but [too]** で結び付けられた場合には、動詞は最後の主語の數に一致する。(i) 主語が單數の名詞でも、それに全然別個の物を指す二つの形容詞が附けば動詞は複數である。(j) 主語が群集名詞(noun of multitude) の場合は、形は單數でも意味が複數故、動詞は複數となる。群集名詞とは集合名詞が團體を指さずに、團體中の各個人を指す場合を言ふ。

A hundred miles is not a long distance. (百哩は長距離では無い) (單位)

Six months is too short a time to learn a foreign language. (六ヶ月位では外國語は覚えられない) (單位)

Six months have elapsed since then. (其後六ヶ月経つた) (總計)

Five hundred dollars are gone since the enterprise was started. (事業を開始してから五百弗無くなつた) (總計)

The horse and the cow are domestic animals. (馬と牛は家畜である) (and)

Bread and butter is good food. (バター付きのパンはよい食物だ) (一つ物)

You or he is in the wrong. (君か彼かが間違つてゐる) (or)

Either you or I am to go. (君か僕かが行く事になつてゐる) (either—or)

Each book and each paper was in its proper place. (本も紙もそれぞれ整理されてあつた) (each)

Every tempest and every dewdrop has its mission to perform. (暴風雨も雨滴もそれぞれ爲すべき使命を持つてゐる) (every)

No sound and no voice was heard. (音も聲も聞えなかつた) (no)

The children as well as their father were present. (父親のみならず子供等も出席して居た) (as well as)

Wisdom, and not wealth, procures esteem. (人の尊敬を得るは智慧にして富にあらず) (and not)

Not only the stars, but the moon was shining bright. (星のみならず月も亦あかるく輝いて居た) (not only—but)

Moral and physical education are necessary. (徳育と體育とが必要だ) (二つの形容詞)

The Western and the Eastern civilisation are different. (西洋文明と東洋文明とは異なる) (同上)

My family is large. (私の家族は大勢だ)
 (集合名詞) (団体)
 My family are all well. (私の家族は皆丈夫だ)
 (群集名詞) (個人)

XII. 規則動詞と不規則動詞 (Regular and Irregular Verbs)

1. 動詞の變化 (Conjugation)。英語の動詞の變化を非常に面倒な六ヶ敷いものやうに考へるのは非常な間違である。日本語の動詞の使用よりも容易であるのみならず、他の西洋諸國語の動詞の變化よりも遙かに易しいのである。要はなるべく早く不規則動詞の變化を暗記するのが捷徑だ。

邦語の動詞は將然、連用、終止、連體、已然、命令の六段活用をするが、英語の動詞は原形 (root)、過去 (past)、過去分詞 (past participle) の三段活用をするに過ぎない。英語の動詞の其他の形は此三つから作られるもの故、動詞の root, past 及び past participle を動詞の三要素 (three principal parts of the verb) と言ふ。

2. 規則動詞と不規則動詞 (regular and irregular verbs)。規則動詞 (regular verb) とは原形 (root) に -ed を付けて過去及び過去分詞を作る動詞を言ふ。

不規則動詞 (irregular verb) とは root に -ed をつけて過去及び過去分詞を作らざるもの、即ち其の活用 (conjugation) が不規則なものを言ふ。

3. 規則動詞の活用。規則動詞の活用は原形 (root) に -ed をつけて過去及び過去分詞を作るのであるが、此の -ed の付け方には次の規則がある。(a) 原形 (root) の語尾が e で終るものには單に d を付けて過去及び過去分詞を作る。(b) 單音節で語尾の前に短母音がある場合には語尾を重ねて -ed を付ける。(c) 二音節の語でも accent が終節にあり且つ終節の語尾が子音の場合には語尾を重ね

-ed を付ける。(d) 語尾が y で其前が子音の場合には y を i に變じて -ed を加へる。但し y の前が母音の折には單に -ed を付ける。

(原形)	(過去)	(過去分詞)
like (好む)	liked	liked
love (愛す)	loved	loved
beg (乞ふ)	begged	begged
stop (とまる)	stopped	stopped
admit (入れる)	admitted	admitted
prefer (好む)	preferred	preferred
cry (叫ぶ)	cried	cried
study (學ぶ)	studied	studied
delay (おくらす)	delayed	delayed
stay (留まる)	stayed	stayed

注意 但し次の規則動詞は例外である

picnic (遊山す)	picnicked	picnicked
traffic (取引する)	trafficked	trafficked
mimic (真似る)	mimicked	mimicked

4. 不規則動詞の活用。不規則動詞 (irregular verb) の活用は其名の示す如く不規則であるが、其間に自ら整然たる規則的の處があるから其共通の點に依つて不規則動詞を分類して見る。

(a) 原形・過去・過去分詞の同形なもの、

(原形)	(過去)	(過去分詞)
bet* (賭く)	bet	bet
bid (命ず)	bid	bid
burst (破裂す)	burst	burst
cast (投ぐ)	cast	cast
cost (かゝる)	cost	cost
cut (切る)	cut	cut
hit (あたる)	hit	hit
split* (裂く)	split	split
hurt (傷つく)	hurt	hurt
knit (編む)	knit	knit
let (許す)	let	let

rid (除く)	rid	rid
put (置く)	put	put
quit* (去る)	quit	quit
set (据える)	set	set
shred* (切る)	shred	shred
spread (ひろげる)	spread	spread
shut (閉づ)	shut	shut
slit* (裂く)	slit	slit
thrust (突込む)	thrust	thrust
read [ri:d] (読む)	read [red]	read [red]
wet* (濡らす)	wet	wet

(b) 過去と過去分詞と同形のもの。

(1) 過去と過去分詞が **d** にて終るもの。

(原形)	(過去)	(過去分詞)
abide* (従ふ)	abode	abode
flee (逃ぐ)	fled	fled
feed (養ふ)	fed	fed
have (持つ)	had	had
clothe* (着る)	clad	clad
hear (聞く)	heard	heard
lay (置く)	laid	laid
make (作る)	made	made
speed* (急ぐ)	sped	sped
pay (拂ふ)	paid	paid
sell (賣る)	sold	sold
shoe (靴はく)	shod	shod
say (言ふ)	said	said
tell (告ぐ)	told	told

(2) 過去と過去分詞が **t** にて終るもの。

(原形)	(過去)	(過去分詞)
bend (曲ぐ)	bent	bent
bereave* (奪ふ)	bereft	bereft
build (建つ)	built	built
dwell* (住む)	dwelt	dwelt
dream* (夢む)	dreamt	dreamt
cleave (裂く)	cleft	cleft

creep (這ふ)	crept	crept
dare* (敢てする)	durst	durst
deal (商ふ)	dealt	dealt
feel (感ず)	felt	felt
gild* (鍍金す)	gilt	gilt
gird* (巻く)	girt	girt
keep (保つ)	kept	kept
kneel (跪く)	knelt	knelt
lean* (凭る)	leant	leant
learn (習ふ)	learnt	learnt
leave (去る)	left	left
lend (貸す)	lent	lent
lose (失ふ)	lost	lost
mean (意味す)	meant	meant
pen* (圍む)	pent	pent
rend* (裂く)	rent	rent
send (送る)	sent	sent
sleep (眠る)	slept	slept
spend (費す)	spent	spent
spell* (綴る)	spelt	spelt
sweep (掃く)	swept	swept
spill* (こぼす)	spilt	spilt
weep (泣く)	wept	wept
light* (輝らす)	lit	lit
rap* (叩く)	rapt	rapt

(3) 母音變化に依つて過去及び過去分詞をつくるもの。

(原形)	(過去)	(過去分詞)
bind (縛る)	bound	bound
find (見出す)	found	found
found (創立す)	founded	founded
grind (挽く)	ground	ground
wind (巻く)	wound	wound
wound (傷つく)	wounded	wounded
bleed (出血す)	bled	bled
breed (育てる)	bred	bred
feed (養ふ)	fed	fed

lead (導く)	led	led
meet (會ふ)	met	met
shoot (射つ)	shot	shot
fling (投ぐ)	flung	flung
cling (すがる)	clung	clung
hang (掛く)	hung	hung
hang (絞殺す)	hanged	hanged
sling (投ぐ)	slung	slung
spin (紡ぐ)	spun	spun
sting (刺す)	stung	stung
string (糸を通す)	strung	strung
swing (揺る)	swung	swung
wring (絞る)	wrung	wrung
strike (打つ)	struck	{ struck stricken }
stick (くつつく)	stuck	stuck
awake*(醒む)	awoke	awoke
dig*(掘る)	dug	dug
get (得る)	got	got
heave*(擧ぐ)	hove	hove
hold (保つ)	held	held
behold (見る)	beheld	beheld
sit (坐す)	sat	sat
shine (輝く)	shone	shone
spit (唾す)	spat	spat
stand (立つ)	stood	stood
understand (了解す)	understood	understood
win (勝つ)	won	won

(4) 過去及び過去分詞が -ught にて終るもの。

(原形)	(過去)	(過去分詞)
beseech (願ふ)	besought	besought
bring (持來る)	brought	brought
buy (買ふ)	bought	bought
catch (捕へる)	caught	caught
fight (戦ふ)	fought	fought
seek (求む)	sought	sought

teach (教へる)	taught	taught
work*(作る)	wrought	wrought

(c) 原形・過去・過去分詞が皆形の違ふもの。

(原形)	(過去)	(過去分詞)
arise (起る)	arose	arisen
be (在る)	{ was were }	been
bear (生む)	bore	born
bear (運ぶ)	bore	borne
beat (打つ)	beat	{ beaten beat }
become (なる)	became	become
begin (始む)	began	begun
bespeak (願ふ)	bespoke	bespoken
bid (命ず)	bade	bidden
bite (咬む)	bit	{ bitten bit }
blow (吹く)	blew	blown
break (破る)	broke	broken
chide (叱る)	chid	{ chidden chid }
choose (選ぶ)	chose	chosen
cleave	cleve	cleven
come (來る)	came	come
crow*(鳴く)	crew	crowed
dive*(もぐる)	dove	dived
do (爲す)	did	done
draw (引く)	drew	drawn
drink (飲む)	drank	drunk
drive (運ぶ)	drove	driven
eat (食)	ate	eaten
fall (落)	fell	fallen
fly (飛)	flew	flown
forget (忘れる)	forgot	forgotten
forgive (赦す)	forgave	forgiven
forsake (見棄つ)	forsook	forsaken
freeze (凍る)	froze	frozen

give (與へる)	gave	given
go (行く)	went	gone
grow (育つ)	grew	grown
hew* (切る)	hewed	hewn
hide (隠る)	hid	{ hidden hid }
know (知る)	knew	known
lade* (積む)	laden	laden
prove (証明す)	proved	proven
ride (乗る)	rode	ridden
ring (鳴る)	{ rang rung }	rung
rise (起きる)	rose	risen
run (走る)	ran	run
saw* (挽く)	sawed	sawn
see (見る)	saw	seen
seethe* (煮る)	sod	sodden
shake (振る)	shook	shaken
shape* (作る)	shaped	shapen
shave* (剃る)	shaved	shaven
shear* (刈る)	shore	shorn
show* (示す)	showed	shown
shrink (縮む)	{ shrank shrank }	{ shrunken shrank }
sing (歌ふ)	sang	sung
sink (沈む)	sank	sunk
slay (殺す)	slew	slain
slide (滑る)	slid	{ slid slid }
slink (逃げる)	{ slunk slunk }	slunk
smite (打つ)	smote	{ smitten smote }
sow (蒔く)	sowed	sown
speak (話す)	spoke	spoken
spit (唾す)	{ spit spat }	{ spit spat }
spring (跳ぶ)	{ sprang sprang }	sprung

stave* (孔あく)	stove	stove
stay* (留まる)	staid	staid
steal (盗む)	stole	stolen
stink (臭ふ)	{ stank stunk }	stunk
stride (跨がる)	strode	stridden
strive* (努む)	strove	striven
strew* (蒔く)	strewed	strewn
strow* (蒔く)	strowed	strown
swear (誓ふ)	swore	sworn
sweat* (汗かく)	sweat	sweat
swell* (ふくれる)	swelled	swollen
swim (泳ぐ)	{ swam swum }	swum
take (取る)	took	taken
tear (裂く)	tore	torn
thrive* (榮ゆ)	throve	thriven
throw (投げる)	threw	thrown
tread (踏む)	trod	{ trodden trod }
wake* (醒む)	woke	woke
wax (なる)	waxed	waxen
wear (着る)	wore	worn
weave (織る)	wove	woven
write (書く)	wrote	written

以上總計百九十五の不規則動詞は實に英語の根幹をなす動詞だと言ふ事が出来る、殊に原形・過去・過去分詞とも形の異なる最後の八十三の不規則動詞は最も普通に使はれ最も重要なものである。此等の不規則動詞は英語元來の言葉即ち Anglo-Saxon 系の語で日本語ならば大和言葉即ち行く・取る・買ふ・打つ の如く漢語を知らない女子供でも必ず知つて居る言葉に相當する動詞であるから必ず全部暗記するやうに心掛けねばならぬ。

以上の表中 *印のある動詞は規則動詞としても用ゐられるものだ。尙 stay (留まる) は規則動詞であつて staid の形は古語である。又母音變化で過去と過去分詞を

作る場合過去には多く a を用ゐる、例へば swim—swam—swum のやうに。swum は過去には普通使はれない。

5. **原形 (root) の用法。** 動詞の原形 (root) には次の七つの用法がある。(1) 原形 (root) は其儘にて現在 (present tense) を表す。但し be のみは例外。(2) 原形は命令法に用ゐる。(3) 助動詞 即ち will; shall; can; must; need 等の次に原形を其儘用ゐる。但 ought には不定詞として用ゐる即ち ought+to+root とする。(4) to の次へ附いて不定詞 (infinitive) を作る。(5) let; make; see; hear; feel; find; bid 等の動詞の後には infinitive の to を略して原形 (root) を用ゐる。(6) 原形 (root) の語尾に -ing をつけて現在分詞 (present participle) をつくる。(7) 原形 (root) の語尾に -ed を附けて規則動詞の過去及び過去分詞を作る。

- Dogs run fast. (犬は早く走る) (現在)
- A dog is a domestic animal. (犬は家畜だ) (例外)
- I shall start to-morrow. (明日出発する) (助動詞)
- It cannot be true. (同上)
- He is said to be rich. (金持だと言ふ事だ) (不定詞)
- I let him go. (彼を行かせた) (let)
- I saw him go home. (彼が家に歸るのを見た) (make) (see)
- He is going home. (家に歸る處だ) (現在分詞)
- He worked hard. (勉強した) (過去)

6. **過去分詞 (past participle) の用法。** 過去分詞には三つの用法がある。一は have+past participle で完了形 (perfect tense) を作り、二は be+past participle で受身 (passive voice) を作り、三は過去分詞が形容詞となる。

- I have studied English for the past four years. (四年間英語を習ひました) (完了形)
- It is already done. (それはもう済んだ) (受身)
- He is respected by all. (皆から尊敬される) (同上)
- He is a learned man. (學者だ) (形容詞)
- It is a newly built house. (新築の家だ) (同上)

XIII. 態 (voice)

1. **態 (voice) の定義。** 態 (voice) とは主語が他に動作を及ぼすや又は他より動作を受くるや否やを示す他動詞の變化を言ふ。而して主語が他に動作を及ぼす場合には動詞は能働態 (active voice) で、之に反し主語が他より動作を受くる場合には動詞は受働態 (passive voice) 又は受身である。

- (a) The baker sells bread. (パン屋はパンを賣る) (能働)
- (b) Bread is sold by the baker. (パンはパン屋で賣られる) (受身)

(a) では baker が sell なる動作を bread に及ぼす故能働態であり、(b) では bread が baker から動作 (即ち is sold) を受くるから受身即ち受働態である。

2. **Passive voice の作り方。** passive voice を作るには be に過去分詞 (past participle) を加へて作る。且 active voice の目的語を主語となし、active の主語に by を加へて之を passive voice の目的語とする。斯る場合 by は行爲者 (agent) (……に依つて) を示し、with は其行爲を爲す道具 (……を持つて、……で) を示す。

- The butcher sells meat. (肉屋が肉を賣る) (能働)
- Meat is sold by the butcher. (肉は肉屋で賣らる) (受働)

passive を作るには次の十の點に注意するを要す。(1) 前置詞動詞 (prepositional verb) (自動詞に前置詞がついて他動詞の働をなすもの) の passive を作るには be+past participle+preposition とする。決して前置詞を省略してはならぬ。(2) 他動詞と目的語と前置詞より成る動詞は成句動詞 (phrase verb) と言ふので、之を passive にする場合には必ず其前置詞を省略してはならぬ。(3) 目的語を二つ有する動詞 (dative verb) は passive に變へれば二通りになる。(4) people 又は人稱名詞の they; we; you 等が主語になつて居て漠然たる意味を表

す場合には passive に變へる折 people や they; we; you 等を略す。(5) by の附いて居ない passive の文を active に直す折には (4) と反對の理由で適當な主語を補はねばならぬ。(6) active の動詞に助動詞が附いて居る場合に之を passive voice に變へるには、其本動詞の過去分詞の前に be (又は been) を置き、其前に助動詞を置けば宜しい、而して助動詞は大抵 active voice のまゝを使用して差支ないのであるが、will や shall は人稱によつて變化し、have と has も亦人稱と數によつて變化する事を注意せねばならぬ。(7) 原形 (root) を目的補足語 (objective complement) にして居る文を passive voice に直す場合には、其の root の前に to を附けて普通の不定詞 (infinitive) とせねばならぬ。(8) 命令法 を passive にする場合には let を用ゐる。(9) 知る (know) の passive は to be known であるが、行爲者 (agent) (誰々に) を表すには by を用ゐずに to を用ゐる。known by と言へば「……で解かる」との意味で判斷を表す。(10) passive voice にした場合、行爲者 (agent) (誰々によつて) には by を用ゐる、道具 (何々を持つて) には with を用ゐるのであるが、動詞 によると 生物 の前に by、無生物 の前に with を用ゐるものがある。

- ① { They laughed at me. (私を嘲笑した)
 (1) { I was laughed at [by them]. (嘲笑された) (前置詞動詞)
- (2) { They took care of us. (吾々を世話した)
 { We were taken care of [by them]. (世話された)
 (成句動詞)
- (3) { We told him a story. (彼に話をした)
 { A story was told him by us. } (dative verb)
 { He was told a story by us. }
- (4) { People say that he is rich. (金持だと言ふ事だ)
 { It is said [by them] that he is rich. (by them を略す)
 { They speak well of him. (世間では彼の事をよく言ふ)
 { He is well spoken of [by them]. (by them を略す)

- { It was found that he had a broken arm. (彼は腕が折れて居た事が解つた)
 (5) { They found that he had a broken arm. (主語を補ふ)
 { He has not been heard of since. (其後彼の消息が無い)
 { We have not heard of him since. (主語を補ふ)
- (6) { You need not do it. (君は其をするに及ばぬ)
 { It need not be done by you. (助動詞)
 { We shall soon know it. (すぐ解かるだらう)
 { It will soon be known. (助動詞)
- (7) { We heard her sing. (彼女の歌ふのを聞いた)
 { She was heard to sing. (目的補足語)
 { We made him confess it. (彼に其を自白させた)
 { He was made to confess it. (目的補足語)
- (8) { Do it at once. (それを直ぐせよ)
 { Let it be done at once. (命令法)
 { Learn this poem by heart. (此詩を暗記せよ)
 { Let this poem be learnt by heart. (命令法)
- (9) { Everybody knows him. (誰でも彼を知つてゐる)
 { He is known to everybody. (know の受身)
- (10) { He was struck by the ruffian. (悪漢に打たれた)
 { He was struck with terror at the sight. (恐れた)
 { It was seized by the authorities. (官憲に押収された)
 { He was seized with a bad cold. (悪い風に罹つた)

3. passive voice の用法。無生物を主語として passive voice を作る事は英語の癖の中でも最も著しいものであるが、然しいくら英語でも何の理由もなしに passive voice を使用するのでは無い。生物を主語とした場合は兎も角として無生物を主語とした passive voice には次の二つの用法がある。(1) 行爲者 (agent) を記さないで其行爲と行爲を受くる物を記す場合に passive を用ゐる。即ち多く一般的の事を述ぶ場合とか物の用途や目的を述ぶ場合。(2) 正確を期する爲め 又は 違つた言ひ方をする爲め passive を用ゐる場合。

- English **is spoken** here. (英語で辨じます) (一般的)
- English **must be spoken** in class. (教場では英語で話さねばならぬ) (一般的)
- This book **is designed for** students. (此本は學生用です) (目的)
- Heat **expands** metals. (熱は金屬を膨脹させる)
- Metals **are expanded by** heat. (正確)

● **be + past participle** は **passive** であるが、次に時日が記されて無ければ單に「……されて居る、……になつて居る」の意味となり、この **past participle** は形容詞の働きを爲す。次に動詞によると **active** の形で **passive** の意味を有するものがある。例へば **is building = is being built** (建築中) に用ゐるが如きである。

- The gate **is shut at six**. (門は六時にしめられる)
- The gate **is shut**. (門はしまつてゐる) (=has been shut).
- This book **sells well**. (此本はよく賣れる) (=is sold well).
- This book **reads well**. (此本はよく讀める) (=is read well).
- The book **is printing**. (其本は印刷中) (=is being printed).
- The house **is now building**. (其家は建築中) (=is being built)

● **get (become) + past participle** も一種の **passive** と見るべきだ。

- I **have got tired of** it. (あきた) (=I am tired of it)
- They **became excited**. (大騒ぎをした)

XIV. 時 (Tense)

1. 時制 (tense)。動作や状態の時を表す動詞の變化を時 (tense) と言ふ。英語には十二の時 (又は時制) があるが大別として現在・過去・未來の基本時制 (principal tenses) と 現在完了・過去完了・未來完了・進行形の副時制 (secondary tenses) とに分かつ事が出来る。

2. 現在 (present tense) の作り方。現在 (present tense) は動詞の原形 (root) を用ゐる、三人稱單數の時にも **root** に **s** 又は **es** を附ける。● **be** のみは例

外であつて現在の形は人數と數によつて變化し、**I am; we are; you are; he is; it is; she is; they are** となる。

3. 現在 (present tense) の用法。現在 (present tense) には七つの用法がある。(1) 一般の眞理 (general truth) を表すに現在を用ゐる。(2) 習慣的動作 (habitual action) を表すに現在を用ゐる。● 人の性格・才能・職業 を表すにも現在を用ゐる。(3) 現在の動作 (present action) を表すに現在を用ゐる。● 但大多數の動詞は單なる現在の動作を表すには現在進行形を取る。(4) 過去の代りに現在を用ゐる。之れ 歴史的現在 (historical present) と稱するものであつて過去の出來事を眼前に彷彿たらしむる爲めに使用するのだ。(5) 現在完了の代りに現在を用ゐる。● 但し **hear; read; say; tell; see; write; prophesy** 等に限り。(6) 發着往來等の動作を表す動詞即ち **go; come; leave; start; depart; set out; sail; hop off** (飛出す) 等は現在形を以て未來の代りに用ゐる。● 但此場合次に時を表す副詞を伴ふ。(7) 時又は條件を表す副詞節 (adverbial clause) には未來の代りに現在を用ゐる。而して斯る adverbial clause の初めには **when; while; before; till; after; as soon as; if** 等の接續詞が来る。

- The sun **shines** by day and the moon by night. (太陽は晝間輝き月は夜間輝く) (一般眞理)
- (1) Eight times seven **is** fifty-six. (七の八倍は五十六) (同上)
- I **get up at six every morning**. (毎朝六時に起きる) (習慣)
- (2) He always **keeps** his promise. (約束を常に守る) (性格)
- She **plays** on the violin well. (ヴァイオリンが上手) (才能)
- He **deals in** rice. (米を商ふ) (商賣)
- (3) He **speaks** English very well. (英語を上手に話す) (現在)
- He **is ill**. (病氣だ) (同上)
- (4) Caesar **leaves** Gaul, **crosses** the Rubicon, and **enters** Italy. (シーザーはゴールを發し、ルビコン河を渡り、伊太利に入つた) (歴史的現在)

- (5) { I hear (= have heard) he will resign. (彼が退職すると言ふ事だ) (現在完了代用)
He says (= has said) he is coming this evening. (今晚来ると彼は言つた) (同上)
- (6) { When do you start? I start to-morrow. (いつ出発しますか。明日出発します) (未来代用)
He graduates next year. (来年卒業する) (同上)
- (7) { I will buy a book when I have money. (金が出来たら本を買ふ) (副詞節)
I shall wait till he comes back. (彼が戻つて来るまで待ちませう) (同上)
I shall not start, if it rains to-morrow. (明日雨が降つたら出発しない) (同上)

4. 現在進行形 (progressive present tense).

「今……して居る」と言ふ現に動作の進行中なる事を示すには **be + 現在分詞 (present participle)** で表す。此形を **現在進行形 (progressive present tense)** と言ふ。

- ⑨ { He teaches English in that school. (あの学校で英語を教へる) (現在) (職業)
He is teaching English in class. (教室で英語を教へてゐる) (現在進行形)

5. 現在分詞の作り方。 現在分詞 (present participle) は動詞の原形 (root) に **-ing** をつけて作る。

(1) 語尾が **e** で終るものは **e** を略して **-ing** をつける。
(2) **単音節の動詞** で語尾の前が短母音の折には語尾を重ねて **-ing** を附ける。(3) **二音節の語** でも **accent** が終節にあつて語尾の前に短母音があれば語尾を重ねて **-ing** をつける。

- ⑩ { admire (歎稱す) — admiring; come (来る) — coming;
(1) { desire (願ふ) — desiring; hope (望む) — hoping.
(2) { drop (落す) — dropping; stop (とまる) — stopping;
cut (切る) — cutting; swim (泳ぐ) — swimming.
(3) { admit (入るを許す) — admitting; begin (始まる) —
beginning; occur (起る) — occurring.

⑪ 次の現在分詞は不規則な作り方をする。

- (a) { lie (横はる) — lying; die (死ぬ) — dying; tie (結ぶ) — tying; vie (競ふ) — vying
(b) { picnic (遊山す) — picnicking; traffic (賣買す) — trafficking; mimic (真似する) — mimicking

6. 現在進行形の用法。 現在進行形の用法に就いては次の五つの場合に注意する必要がある。(1) 原則として現在進行形を作り得る動詞は努力を表す動詞に多い。(2) see; hear; know; understand; remember; resemble; like; have; possess; belong; need 等の動詞には進行形が無い、之れ以上の動詞はそれ自身継続の意味が含まれて居るからだ。又 know (知る) や resemble (類似す) や have (所有す) や see (見える、見る) や hear (聞える、聞く) の如きは無意志動詞で努力を表はさないからだ。(3) open (開く); start (出発す); die (死ぬ) なきの瞬間の行爲を表し継続を表し得ない動詞の進行形は動作の開始即ち「將に……せんとする、……する處である」の意味を有す。(4) go の進行形には三つの用法がある。一は普通の進行形の形で「今……へ行く處である」の意を表し、二は單獨で未来を表し「行きます、行くつもりである」となり三は不定詞 (infinitive) を伴ひ「將に……せんとする」「……するつもりである」の意を表す。(5) 發着往來を表す come; start; leave; return 等の動詞の現在進行形も未来の意を表すに用ゐらる。但し斯る場合には未来を表す副詞を伴ふを常とする。

- ⑫ { What do you see? (何が見えるか) (無努力)
What are you looking at? (何を見て居るか) (努力)
Do you hear him? (彼の言ふ事が聞えるか) (無努力)
Are you listening to him? (彼の言ふ事を謹聴してるか) (努力)
I know him very well. (彼をよく知つてる) (継続)
He closely resembles his brother. (兄弟によく似てゐる) (同上)

- The train **is starting**. (汽車が出る處だ) (動作開始)
 He **is dying**. (死にかけて居る) (同上)
 The flower **is opening**. (花が咲きかけてゐる) (同上)
 I **am going** to school. (學校へ行く處だ) (進行形)
 I **am going** to Osaka to-morrow. (明日大阪へ行くつもり
 です) (未來)
 I **am going** to write a letter. (手紙を書く處だ) (同上)
Is he coming this evening? (今晚來るか) (未來)
 He **is leaving** to-morrow. (明日出發する) (同上)

7. 過去 (past tense) の用法。過去に於ける動作又は状態を表すのが過去 (past tense) である。過ぎ去つた事に就いて述べるのであるから、果して現在も其通りであるや否やは past tense の關知しない事である。

- He **entered** this school four years ago. (四年前に此學校に入學した)

He soon **stood** at the head of his class. (間もなく級の首席になつた)

上の文では今でも在學して居るや又今でも級の首席であるやは一切不明である。尚 現在 (present tense) は平常の習慣を表すに用ゐられるが、過去 (past tense) は過去に於ける習慣を表はす事は出来ない。過去の習慣を表すには、即ち「よく……した」とか「……するを常とした」との意味を表すには would; used to; was in the habit of を用ゐる。尚 would には often (屢々、よく); sometimes (時に); from time to time (ちよいちよい) 等の副詞を伴ふ事が多い。

- He **would often** come to see me. (よく僕の處へ來たものだ)
 He **used to** drink when young. (若い時にはよく飲んだものだ)
 He **was in the habit of** doing so. (常にさうしたものだ)

8. 過去進行形 (progressive past tense)。過去の或定まれる時に進行中の動作を表す形が過去進行形 (progressive past tense) であつて was 又は were に -ing を附けて作る。

- I **was reading** when you came yesterday. (昨日君が來た時には本を讀んで居た)

9. 未來 (future tense)。未來 (future) の事を表す主なる助動詞は shall と will である。然し shall と will を使はないでも未來を表す事が出来る。其の方法は次の七通りである。(1) 現在で未來を代表する。(2) about に不定詞 (infinitive) をつける。(3) be+現在進行形。(4) going+不定詞 (infinitive)。(5) be+infinitive を用ゐる。(6) be+due (筈である) を用ゐる。(7) intend (=propose; mean)+infinitive (……するつもりである) を用ゐる。

The steamer **leaves** here to-morrow. (汽船は明日當地を出帆する) (現在を代用)

He **is about to start** on a journey. (旅行に出掛けやうとしてゐる) (be+infinitive)

When **are you going** to Osaka? (いつ大阪へ行くか)

(現在進行形)

I **am going to write** a letter. (手紙を書く處である)

(going+infinitive)

He **is to go** to Kyoto to-morrow. (明日京都へ行く筈だ)

(be+infinitive)

The steamer **is due** [to arrive] here to-morrow noon. (汽船は明日正午當地に到着する筈) (be+due)

I **intend** (=propose; mean) to spend the coming vacation at the seaside. (今度の休みを海岸で暮らすつもりだ)

(intend+infinitive)

10. shall と will の用法。shall と will とは未來を表す助動詞である事は誰でも知つて居るが、扱て實際の場合に當つて shall を使ふべきか又は will を用ふ可きかに就いては學習者が随分迷ふものである。然しながら shall と will とは次の四つの場合にしか用ゐられない事を知つて居れば此兩語の使用法を誤る筈が無い。(1) 單に未來を表す場合 (future time only)。(2) 話し手 (speaker) の意志・命令・約束を表す場合 (determination,

command or promise)、(3) 主語 (subject) の意思を表す場合 (will or intention)。 (4) 習慣を表す場合 (habit)。

● (1) 単に未来 (simple futurity) を表す場合には一人稱に shall、二人稱及び三人稱に will を用ゐる。

I shall; You will; He will.

We shall all die. (吾々は皆死ぬものです) (一人稱)

I am afraid you will get sick. (君は病気になるかも知れませんよ) (二人稱)

He will probably pass the examination. (彼は試験に多分及第するでせう) (三人稱)

● (2) 話し手 (speaker) の意志・命令・約束・威嚇を表す場合には一人稱に will、二人稱及び三人稱に shall を用ゐる。

I will; You shall; He shall.

I will do my duty, come what may. (どんな事があつても僕は自分の本分を盡す) (一人稱)

You shall not steal. (盗む可らず) (二人稱)

You shall be saved. (助けてやるぞ) (二人稱)

He shall be rewarded. (彼に褒美をやる) (三人稱)

● (3) 主語 (subject) の意志 (will or intention)を表す場合には各人稱を通じて will を用ゐる。

I will; You will; He will.

I will do my duty. (自分の爲すべき事をします) (一人稱)

I hope you will do your duty. (君は君の爲すべき事を爲されん事を望む) (二人稱)

He says he will do his duty. (彼は自分の爲すべき事はすると言つてゐる) (三人稱)

● (4) 習慣的行爲 (habitual action)を表す爲めには will を用ゐる。但此用法は大抵第三人稱に限り、且 often とか sometimes などの副詞を伴ふ事が多い。

● He will; They will.

He will sit and read for hours. (よく數時間も腰をかけて本を讀む) (三人稱)

The camel will often travel for days without taking a drop of water. (駱駝は一滴の水も飲まないでよく曠々數日間歩

く)

11. shall と will の意義。shall は元來義務 (duty) 又は必要 (necessity) [すべきである、する事になつてゐる] の意味を有し、will には意志 (volition) [……するつもりだ、……する] の意義を有する事を忘れてはならぬ。従つて同じく單純未來を表すとは言ふものゝ shall は need; succeed; fail など言ふ無意志動詞と共に用ゐられる事が多く、will は意志動詞の give; tell; lend; break; open; try など共に用ゐられる事が多い。尚ほ感情 (feelings)・能力 (ability); 必要 (necessity); 都合 (convenience); 豫期 (expectation)・結果 (result) を表す動詞には人の意志が含まれて居ないから單純未來の形を用ゐて未來を表はさねばならぬ。

● I shall be very glad to see you. (君に會へれば全く嬉しい) (感情) (單純未來) (一人稱)

I shall feel much obliged to you. (どうも有難う座います) (同上)

You will be very glad to see him. (君は彼に會へれば全く嬉しいだらう) (感情) (單純未來) (二人稱)

You will feel much obliged to him. (君は彼を有難く思ふだらう) (同上)

He will be very glad to see you. (彼は君に會へれば全く嬉しいだらう) (感情) (單純未來) (三人稱)

He will feel much obliged to you. (彼は君を有難く思ふだらう) (同上)

I shall be able

{ You will be able } to read it next year. (來年はそれを

He will be able

讀めるだらう) (能力) (單純未來)

I shall need

{ You will need } two hundred yen. (二百圓いるだらう)

He will need (必要) (單純未來)

I shall go

{ You will go } to Hojo this summer. (此夏は北條へ行く

He will go

事になつてゐる) (都合) (單純未來)

{ I shall go
You will go } to school to-morrow. (明日は學校だ)
He will go (義務) (單純未來)

I hope I shall succeed this time. (今度は成功したいもの
です) (豫期) (單純未來) (一人稱)

I am afraid you will ruin your health. (君は身體をこわ
しやしないかと心配だ) (同上) (二人稱)

I hope things will go all right. (萬事皆く行かしたいも
のです) (同上) (三人稱)

【注意】 I will は勿論意志を表すが、更に之を細く分ければ承諾 (acceptance)、拒絶 (refusal)、約束 (promise)、提供 (proposal)、決心 (determination)、選擇 (choice)、主張 (contention)、脅迫 (threat) の入つの場合になる。

You will 及び He will 即ち第二人稱及び第三人稱に will を用ゐると主語 (subject) の意志を示し願望 (request) 又は歎願 (entreaty) を表す。即ち「どうぞ……して下さい」の意味となる。

但し場合によつては命令を丁寧な形で表したものとなる事がある。You shall 及び He shall 即ち第二人稱及び第三人稱に shall を用ゐると話し手 (speaker) の意志を表し、約束又は威嚇の場合に用ゐる。即ち「……してやる、……する」と言ふ意味となる。

邦語には第二人稱及び第三人稱で第一人稱の命令を表す形がないから、You shall 及び He shall の形を日本文に譯す際には I will [即ち私が……してやる、……する] のやうに譯さねばならぬ。

Will you please post this letter? Certainly. I will. (此
手紙を郵便に出して呉れないか。はい承知しました)
(承諾)

No, I will not. (いえ、いやです) (拒絶)

I will let you know the result over the telephone. (電話
で結果を御知らせする) (約束)

I will lend you the money, if you like. (お望みでしたら
御金をお貸します) (提供)

I will do everything in my power for the purpose. (其爲
めには全力を盡します) (決心)

{ I will take this one, if you don't mind. (君が構はないな
ら僕は之を取らう) (選擇)

{ I will not allow him to do so. (彼にそんな事をさせて置
かない) (主張)

{ I will tell your teacher. (先生に言ひつけてやるぞ)
(脅迫)

I beg you will please understand my position. (私の立場
を何卒御諒解下さい) (願望)

If you will do so, I shall feel much obliged. (さうして
下さると誠に有難い) (歎願)

You will please understand you are now under arrest. (君
は逮捕されたものと御承知下さい) (命令)

You shall die. (君を殺してやる) (=I will kill you)
(威嚇)

You shall have it. (君にそれを上げる) (=I will let you
have it) (約束)

He shall not die. (彼を死なせぬ) (=I will save him)
(約束)

He shall go. (彼をやる事にする) (=I will send him)

12. 疑問文に於ける will と shall の用法。疑問文及び其答に於ける will と shall の用法に就いて注意すべき事は單純未來 (simple futurity) と意志未來 (volitive futurity) の二つの場合である。

(1) 單純未來の疑問形及び其の答の形。

Shall you? — I shall.

Shall I? — You will.

Will he? — He will.

(2) 意志未來の疑問形及び其の答の形。

Will you? — I will.

Shall I? — { 命令法
You shall.

Shall he? — { 間接命令法
He shall.

【注意】 (1) の形は單純未來故何等の意志を表示してゐない、故に

單に未來を表すに過ぎないので「斯々の都合になつてゐる」「……するだらう」と言ふやうな事を表すのだ。

(2) の意志未來 (volitive futurity) の疑問文とは話相手即ち第二人稱の意志又は意嚮を問ふ場合であつて、依頼 (request)、誘引 (invitation)、約束 (promise) 又は命令 (command) を表す時に用ゐる。尚間接命令法とは第一人稱及び第三人稱、殊に第三人稱に對し用ゐる命令法で Let him do (彼にさせろ) の形である。

- Shall you be at home this evening? Yes, I shall be at home. (今晚お宅ですか。はい宅に居ります) (單純未來)
- Shall I be in time, if I go now? Yes, you will be in time. (今行けば間に合ひませうか。はい、間に會ひます) (同上)

When will he leave for Osaka? He will leave by the 9.30 train to-morrow morning. (いつ彼は大阪へたちますか。明朝九時三十分の汽車で立ちます) (同上)

Will you please lend me your paper when you have done with it? Certainly, I will. (新聞が濟みましたら貸して下さいませんか。承知致しました) (意志未來、依頼)

Won't you go out for a walk? Yes, I will. (散歩に行きませんか。はい、参りませう) (同上、誘引)

Will you be at the station by six o'clock to-morrow morning? Yes, I will. (明朝六時までに停車場へ来てくれませんか。はい、参ります) (同上、約束)

Shall I remain here till five o'clock? Yes, you shall. (此處に五時まで残るのですか。はい、残らねばなりません) (意志未來、意嚮)

What shall I do? Study your lessons. (何を致しませうか。學課を勉強なさい) (同上、命令)

What shall he do? Let him go on my errand. (彼に何をさせませうか。私の使にやつてくれ) (同上、命令)

Who shall? は「誰に出来るものか」の意味で Who can? に同じ、即ち no one can (誰にも出来ない) との意味を言外に含んでゐる。

- When things have come to such a pass, who shall save the situation? (事態がこんな羽目になつては誰に時局の拾收

が出来るものか)

13. 從屬節 (dependent clause) に於ける will と shall の用法。從屬節 (dependent clause) に於ける will と shall の用法に就いては次の二つの場合に注意せねばならぬ。(1) 主節 (principal clause) と從屬節との主語が同一なる場合には、

(單純未來)

He shall
She shall
It shall
They shall

(意志未來)

He will
She will
It will
They will

となり、(2) 主節と從屬節の主語が異なる場合は、

(單純未來)

He will
She will
It will
They will

(意志未來)

He shall
She shall
It shall
They shall

となる。

- He says that he shall be successful this time. (彼は今度は皆行くだらうと言つてゐる) (單純未來)
- (1) He says that he will buy a radio set. (彼はラヂオの機械を買ふと言つてゐる) (意志未來)

- (2) He says that his father will return to-morrow. (彼は父が明日歸ると言つてゐる) (單純未來)
- He says that it shall be done at once. (彼はそれをすぐ仕上げなければならぬと言つてゐる) (意志未來)

14. 副詞節 (adverbial clause) の未來。副詞節 (adverbial clause) に於ては單純未來の代りに現在を用ゐる。但しこれは副詞節だけの事で名詞節 (noun clause) や形容節 (adjective clause) では未來は will や shall を用ゐる。且副詞節でも意志や願望を表はし單純未來を表はさない場合には will を用ゐる。

- I shall not go, if it rains to-morrow. (明日雨ならば行きません) (副詞節、單純未來)
- (1) I shall stay here till the rain stops. (雨が止むまでここに留まる) (同上)
- I shall start as soon as it clears up. (晴れ次第出發しやう) (同上)
- (2) I doubt if it will clear up to-morrow. (明日晴れるか如何か怪しい) (名詞節)
- I will let you know [the time] when I shall start. (出發の時間を御知らせ致します) (名詞・形容節)
- If you will only work hard, you will certainly succeed. (勉強さへすればきつと成功する) (副詞節、意志未來)
- (3) I shall be glad, if you will call and see me this afternoon. (本日午後御出で下さると喜ばしいと思ひます) (同上、願望)

注意 (1) に於ては全部單純未來を表す副詞節故 if it will rain; till the rain will stop; as soon as it will clear up と未來を用ゐる代りに現在を用ゐて居るのだ。

15. 未來進行形 (progressive future tense)。

未來の或定まれる時に進行中の動作を表す形を未來進行形 (progressive future tense) と言ふ。未來進行形を作るには shall be 又は will be に現在分詞 (即ち -ing) を附ける。

- I shall be doing my exercises, if my father comes back to-morrow morning. (明朝父が歸れば私は課題をやつてる最中だらう)
- You will be playing tennis if I come to see you this afternoon. (今日午後君の處へ行つたら君はテニスをやつてる最中だらう)
- He will be studying English, if you go now. (今君が行けば彼は英語を勉強してる最中だらう)

練習問題

I. 文法

I. Conjugate the following verbs:—

1. Set, lie, wear, light, pay, freeze, cost, omit.
2. Seek, mistake, offer, refer, conquer, bring, undergo.
3. Fly, hurt, stay, begin, win, throw, ride, try.
4. Be, slay, become, spring, sit, fight, sink.
5. Write, catch, sing, hear, choose, lose, see.

II. 次の文中に will 又は shall を填充せよ。

1. One who —not work—eat.
2. I hope he—be in time to catch the first train.
3. I—be glad to do it for you.
4. We—be late.
5. —you start at noon?
6. William says that he—be glad to see you.

注意 I. 1. set—set—set; lie—lay—lain; wear—wore—worn; fight—lighted(lit)—lighted(lit); pay—paid—paid; freeze—froze—frozen; cost—cost—cost; omit—omitted—omitted. 2. seek—sought—sought; mistake—mistook—mistaken; offer—offered—offered; refer—referred—referred; conquer—conquered—conquered; bring—brought—brought; undergo—underwent—undergone. 3. fly—flew—flown; hurt—hurt—hurt; stay—stayed—stayed; begin—began—began; win—won—won; throw—threw—thrown; ride—rode—ridden; try—tried—tried. 4. be—was(were)—been; slay—slew—slain; become—became—become; spring—sprang—sprung; sit—sat—sat; fight—fought—fought; sink—sank—sunk. 5. write—wrote—written; catch—caught—caught; sing—sang—sung; hear—heard—heard; choose—chose—chosen; lose—lost—lost; see—saw—seen.

II. 1. One who will not work shall not eat (働かざるもの食ふ可らず)。will は意志、shall は話し手の意志を表す。2. will (單純未來)。3. shall (單純未來・感情)。4. shall (單純未來)。5. shall (單純未來)。6. shall (主節と從屬節の主語同一なる時は shall は單純未來)。

III. Correct errors, if any:—

1. I think we will have no more snow this year.
2. Will you be able to finish it by next Monday?
3. I will be glad, if you shall call and see me this afternoon.
4. I do not know when he is here next time.
5. If it will rain to-morrow, I shall put off my departure.

II. 英文和譯

- IV. 1. In my mind, one may as well not know a thing at all as know it but imperfectly.
2. You might as well advise me to give up my fortune as my argument.
3. You might as well let him eat your dinner as “do your sums” for you.
4. The works of an author must sometimes await the sentence of impartial posterity before their value can be duly appreciated.
5. If your plough is broken, I will pay for the mending of it; but I cannot make a great man of you.
6. You will easily discover every man's prevailing

解答 III. 1. we shall (單純未來)。2. shall you (單純未來)。
3. I shall—if you will (こゝで shall は單純未來・感情、will は意志未來・願望を表す)。4. when he will be here (名詞節)。
5. if it rains (副詞節故現在で未來を表す)。

IV. 1. 私の考では物事を全然不十分に知つて居るよりはちつとも知らない方がましだと思ふ。2. 私に私の議論を止めよと忠告するのは丁度私に財産を捨てよと忠告するのも同然である。3. 自分の算術を人にやつて貰ふのは自分の御馳走を人に食べさせるのと同様だ。4. 作家の作品は往々公平なる後世の判決を待つて始めて其眞價を充分に認められる事がある。5. 若しお前の犁がこわれたら其修繕に金を出してあげる、然しお前を大人物にしてあげる事は出来ない。6. どんな人の主な虚榮心でも其人の好んで話す話

- vanity by observing his favourite topic of conversation; for every man talks most of what he has most a mind to be thought to excel in.
7. The wisest thing we can do is cheerfully to make the most of our situation, for struggle as we may, we can never be completely satisfied.
 8. Some steps will have to be taken, in case there should be any accident.
 9. Not only must the student store up knowledge for future use, but also classify and arrange it, that it may be ready at his call.
 10. The best thing education can do is to make moral character efficient through mental training.

III. 和文英譯

- V. 1. 本月三日に手紙を書かれて午前十一時迄に郵便局に御出しになれば、五日私は受取る事が出来ます。
2. 君は本を読みたいなら幾冊でも貸して上げませう。
3. 何事も御不在中の出来事は御報知致します。
4. 明日は家に居ませんから明後日来て下さいませ

解答 題を観察すればすぐ発見出来るものだ、何となれば誰でも自分がすぐれて居ると思はれたく一番願ふ事を最も多く話すからだ。7. 吾々の出来る最善の策は吾々の地位を飽まで利用する事だ、何となればいくらもがいた處で吾々は完全に満足出来ないからだ。8. 萬一椿事が起れば何か手段を講ぜねばならぬ。9. 學生は將來使ふ爲めに知識を貯へねばならないのみならず、何時でも用に應じて使へる爲めに之を分類整理せねばならぬ。10. 教育の爲し得る最良の事は知育によつて品性を最も有効ならしむるにある。

V. 1. If you write a letter on the 3rd of this month and post it by 11 o'clock on the same morning, I shall be able to receive it on the 5th. 2. If you wish to read books, I will lend you as many as you like. 3. I will let you know anything that may happen in your absence. 4. I shall not be at home to-morrow,

- か。
5. 若し明日天氣ならば御一緒に参りませう。
 6. 明日御返事致しませう。
 7. 試験が済んだら海水浴へ行かうかと思ひます。
 8. 自分の思ふ所を人に解らせるだけの英語を知りさへすれば私は満足です。
 9. 汽車で行けば今晚八時までに着きます。
 10. 先達御話致しました僕の友人を連れて明日の午後三時と四時との間に御伺ひ致します。

16. 現在完了 (present perfect)。現在完了 (present perfect) は have + past participle の形を用ゐて作る。現在完了は決して過去の一形式では無く必ず現在と何等かの関係をする動作又は状態を表すものである。邦語では英語の past も present perfect も同様に過去の形を用ゐて譯すので、和文英譯の際によく present perfect の用法を間違ふ人が多いから氣を付けねばならぬ。解かり易く言へば邦語の過去の文章で時日を明示して居ないもの即ち「……してしまつた」とか「……した事がある」は present perfect を用ゐて英譯するがよい。

現在完了には完了・經驗・繼續・原因を表す次の四つの用法がある。(1) 動作の完了を表す、即ち「終つた、……してしまつた」意を表す。(2) 今迄の經驗を表す、即ち「……した事がある」を表す。(3) 状態又は動作が現在まで繼續せる事を表す、即ち「……して居る、ずっと……だ」の意を示す。(4) 結果が現在まで残つて居る動作を表す、換言すれば現在の状態の原因を示す。

現在完了は現在と何等かの関係を有する事を示す tense

so I beg you will come the day after to-morrow. 5. I will go with you, if it is fine to-morrow. 6. I will give you my answer to-morrow. 7. I will go to the seaside for bathing as soon as the examination is over. 8. I shall be satisfied, if only I know English well enough to make myself understood. 9. If I go by train, I shall reach there by eight o'clock this evening. 10. I will come to see you between three and four o'clock to-morrow afternoon with my friend whom I spoke of the other day.

(時制) 故、過去を表す副詞は現在完了に使用出来ない。過去の副詞を使つたら tense は過去にせねばならぬ。又現在完了は just now や when と共に用ゐてはならぬ。just now や when を用ゐたら tense は必ず過去にする。邦語の「今」とか「此の」に相當する副詞即ち now; just; to-day; this day; this week; this month; this year; the present year; lately; recently; of late は現在完了と共に用ゐらる。動作の完了を示すには大抵 just; now; already; yet; not yet; by this time 等の副詞を用ゐる。今迄の經驗を表すには ever; never; before; once; twice; often; very often; sometimes; seldom; hardly; scarcely; in my life 等の副詞を用ゐる。動作又は状態の繼續を表す現在完了には since; always; from; for; these; how long; how often 等の副詞がつく。

- Have you finished the work yet? Yes, I have already finished it. (其仕事をもう終へましたか。はい、もう終へました) (完了)
- The doctor has just gone home. (現在完了)
- The doctor went home just now. (過去) (醫者はたつた今歸つて行つた)。
- I have seen him before. (以前にあの人に會つた事がある) (經驗)
- I have been there once. (彼處へ一度行つた事がある) (同上)
- Have you ever been in England? (英國へ行つた事があるか) (同上)
- I have lived these five years in Tokyo. (東京には此の五年間住んでゐます) (繼續)
- He has been ill since last Sunday. (前の日曜から病氣です) (同上)
- How long have you been here? (君はいつから此處に居るのか) (同上)
- The lamp has gone out. (ランプが消えた) (故に暗いのだ) (原因)
- Have you your fountain-pen with you? No, I have lost it. (君の萬年筆を持つて居るか。いや無くしてしまつた) (故に持つて居ない) (同上)

17. 現在完了進行形 (progressive present perfect tense)。現在完了中「状態又は動作が現在まで継続する事を表す」形は be; know; live; love; like の如き動詞、即ちそれ自身に継続の意味ある動詞に限り用られるものである。而して継続の意味を含まぬ動詞、即ち「……最中、……中」と譯し得る動詞、例へば take; write; read; do; run; fly の如き動詞で動作が過去から現在まで継続しつゝある事を示すには現在完了進行形 (progressive present perfect tense) を用ゐる。即ち have been + present participle の形を用ゐる。

● I have been reading newspapers for two hours. (二時間新聞を讀んでみた)
 ● What have you been doing? I have been writing a letter. (今迄何をして居たのか。手紙を書いてみました)。

● have been は継続も進行も経験も表す。

● Where have you been till now? (今迄何處に居たのか) (継続)
 ● Have you been in America? (アメリカに居つた事があるか) (経験)
 ● Have you been to Tokyo? (東京へ行つて来たのか) (継続)
 ● He has been dead two years. (死んでから二年になる) (継続)
 ● She has been married three years. (結婚してから三年になる) (継続)

18. 副詞節 (adverbial clause) と現在完了。

副詞節にあつては未來完了の代りに現在完了を用ゐる。而して此副詞節には when; as soon as; after; before; till; if 等の接續詞がつく。

● Please let me look at your paper when you have done with it. (新聞があいたら見せてくれ)
 ● Let us start as soon as we have finished tea. (お茶が済んだら出掛けやう)
 ● Let us talk it over again after he has returned. (彼が歸つた後で又相談しやう)

19. 過去完了 (past perfect)。過去完了は had + past participle として作る。現在完了は現在を標準として現在までの完了・経験・継続・原因を表すものであるが、過去完了 (past perfect) は或定まれる過去の時を標準として其時までの動作又は状態の完了・経験・継続・原因を表すのである。

● 過去完了は或定まれる過去の時を標準として其時までの動作又は状態の完了・経験・継続・原因を表す故其用法は四つある。(1) 動作の完了を表す場合、即ち「……してしまつた、……した」の意を表す。(2) 経験を表す場合、即ち「……した事があつた」の意を表す。(3) 継続を表す場合。(4) 原因又は理由を表す場合、即ち過去の事實の原因又は理由を表すのである。

● no sooner……than (……するや否や)、not……before (……せぬ内に)、hardly (=scarcely)……before (……せぬ内に)、scarcely (=hardly)……when (……せぬ内に) の等の節は過去完了を用ゐる。次に直接叙法 (direct narration) の現在完了も過去も間接叙法 (indirect narration) では過去完了にする。尙 before の前の節 (clause) 及び after の後の clause は元來過去完了を用ゐて書くのが規則であるし、又其方が意義を明確にするが前後の事情明白の場合は必ずしも過去完了にせずともよい、然しながら完了の意義を明かにする爲めには是非 past perfect を使はねばならぬ。又歴史的事實を述ぶる場合には過去完了の代りに過去を用ゐる。

● The train had left before I got to the station. (停車場へ着かぬ内に汽車が出てしまつた) (完了)
 ● I had never seen him before that time. (其前には彼に會つた事が無かつた) (経験)
 ● He had been here only a week, when he was taken ill. (彼は此處へ来て一週間にならぬうちに病氣になつた) (継続)
 ● I knew him: I had seen him before. (彼に以前會つた事があるから彼を知つて居た) (理由)
 ● No sooner had he begun to speak than every one was silent. (彼が話出すや否や誰も彼も黙つてしまつた)
 ● Scarcely had I opened the door when the lamp went out. (戸を開けるや開けぬうちにランプが消えてしまつた)

{ He told me, "She has come (or came) to Tokyo." (直接)

{ He told me that she had come to Tokyo. (間接)

{ Ten houses had been burnt down before the fire was put out. (十戸焼失して漸く鎮火した)

{ I arrived after he had already left. (彼がたつた後で私がついた)。

{ I learned that Hideyoshi built the castle of Osaka. (秀吉が大阪城を築いたんださうだ) (歴史的事實)

20. 進行形過去完了 (progressive past perfect tense)。進行形過去完了は had been + present participle (現在分詞) として作る。進行形過去完了は動作又は状態が過去の或時まで継続せる事を示す。

● I had been waiting about an hour when he came. (約一時間も待つて居たら彼が来た)

21. 未来完了 (future perfect)。未来完了は

(1) I shall have + past participle (過去分詞)

(2) You will have + past participle

(3) He (She ; It ; They) will have + past participle.

の形を用ゐる。未来完了は或未来の時を標準として其時迄に動作又は状態の完了・経験・継続を表す。

● { The train will have already left by the time you get to the station. (停車場へ御着きになる迄には汽車はもう出て仕舞ふでせう) (完了)

{ I shall have seen much of life by that time. (其迄には餘程世間が解かるでせう) (経験)

{ If it is fine to-morrow too, the fair weather will have lasted fully a week. (若し明日も亦天気なら晴天がまる一週間続く事になる) (継続)

22. 進行形未来完了 (progressive future perfect tense)。進行形未来完了を作るには、

(1) I shall + have been + present participle

(現在分詞)

(2) You will + have been + present participle.

(3) He (She ; It ; They) will + have been + present participle.

の形を用ゐる。進行形未来完了は未来の或時まで動作又は状態の継続する事を示す。

● { I shall have been studying English just four years by February next. (來年二月で私は丁度四年英語を學んだ事になる)

23. should と would の用法。should は shall の過去形で、would は will の過去形である。should は (1) 本分・義務を表し、「……すべきである」とか「當然……せねばならぬ」意を有す、(2) 判断を表す形容詞を用ゐる節 (clause) の次に用ゐる、(3) 感情即ち遺憾や驚愕の情を表す。would には六つの用法がある、即ち (1) would は過去の習慣を表し、「よく……した」とか「屢々……した」「……するを常とした」の意味を表す。此際 often や sometimes なぎの副詞を伴ふ事が多い、尙此場合の would は used to に同じ。(2) would は丁寧なる願を表すに用ゐらる (will よりも一層丁寧)。(3) would rather は選擇の意を表し「……する位なら——する」「……するよりは——の方がまだ」との意。(4) would は「欲す」 (= wish to) の意を表す。(5) would は又 I wish の意味に用ゐられ、「……だとよい、……したいものだ」を意味す。(6) would は又強き意志を表し殊に「さうしても……しなかつた」との拒絶の意を表す事が多い。

● We should keep faith. (吾々は信義を守らねばならぬ)

(義務)

{ It is natural (當然)
It is proper (適當)
It is necessary (必要)
It is just (正當) } that one should…… (判断)
(……するのが——)

{ It is a pity
What a pity } that he should miss such an excellent opportunity. (彼が斯る好機會を逸するなんて誠に惜しい事だ) (感情)

練習 **should have + past participle** は過去に於て當然爲すべき事を爲さざりし事を表す。又 **why should……?** は「……せねばならぬ理由が無いじや無いかの意」。次に **who should……but?** は驚愕の意を表し、**should (=would) like + infinitive** は「……したいものだ」「……したい」意。

He **should have flatly refused** such a request. (そんな要求は断然拒絶すべきだつた) (拒絶しなかつたのがいけない)

Why should he resign? (彼が辭職せねばならぬ理由はないではないか)

Who should write it but himself? (誰がそれを書いたと思ふ、驚くじや無いか、彼自身やつたんだよ)

I **should like to go.** (私が行きたいものだ)

In his old age he **would often** tell his children the story of his life. (彼は老年にはよく自分の子供等に自分の傳記を話して聞かせたものだ) (習慣)

Would you kindly show me the way to the Post Office? (郵便局への道を教へて呉れませんか) (願)

I have much to say that I **would rather** not, and much to have unsaid that I **would rather** say. (私は寧ろ言ひ度くない事を言ひ、寧ろ言ひたい事で言はずに置く事が多い) (選擇)

He who **would** catch fish, must not mind getting wet. (魚を捕らうとする人は濡れる事をいとらね) (欲す) (=wish to)

Would that I were young again. (もう一度若くなるとよいがな) (=I wish I were young again).

He **would** eat nothing. (彼はどうしても物を食べやうとしなかつた) (強き意志)

練習問題

I. 文法

I. Correct errors, if any:—

1. I was ill all this week.

2. I have never seen him to yesterday.
3. No sooner she entered into the room than her father dead.
4. I just received a telegram from my father.
5. The boy is sick for a week now.
6. A month passed since I came here.
7. It rained since Monday last.
8. They were forty days at sea when they were overtaken by a storm.
9. He already finished it before I had time to begin.
10. I wrote for the last two hours.

II. 英文和譯

- II. 1. His reason, powerful as it was, was reduced to be the slave of feelings which it **should have controlled.**
2. You **should** always take the utmost care to improve your time so as not to be driven by your work.
3. **It is most right that** in the great republic of letters there **should** be freedom of intercourse and a spirit of equality.
4. He had his right leg pierced by a shot, but said he **would rather** have lost both his legs than have seen

解答 I. 1. I **have been** ill all this week. 2. I **had never** seen him **till** yesterday. 3. No sooner **had** she **entered** the room than her father **died.** 4. I **have just** received a telegram from my father. 5. The boy **has been** sick for a week. 6. A month **has passed** since I came here. 7. It **has been** raining since Monday last. 8. They **had been** forty days at sea when they were overtaken by a storm. 9. He **had already** finished it before I had time to begin. 10. I **have been** writing for the last two hours.

II. 1. 彼の理性は強かつたけれども理性で抑へるべき筈であつた感情の奴隷となつてしまつた。2. 自分の仕事に追はれないやうにする爲めに常に自分の時を利用するやうに飽まで注意せねばならぬ。3. 偉大なる文學界に於ては交際の自由と平等の精神とがあるべきは當然至極である。4. 彼は右脚に貫通銃創を負ふたが然

dishonour brought upon the English nation.

5. I would not accept an office for any salary, however high.
6. If you would have friends, first learn to do without them.
7. He would not allow the doctor to leave his sailors in order to attend to him till it came to his turn.
8. The road into learning is alike free to all who will give the labour and the study requisite to gather it.
9. If any man will not work, neither shall he eat.
10. He shall know that I am not to be trifled with.

III. 和文英譯

- III. 1. 一年餘も便がないが、彼はさうしたか知らん。
2. 僕は今日停車場まで友人を見送りに行つて来た。
3. あゝ久振りですね。今日君が御出で下すつたのは全く意外でした。
4. 東京附近では本年一月二月中雨が降らなかつたので農産物は非常な損害を蒙りました。
5. 昨日久しぶりで上野の動物園へ行つて見たら種々の珍しい動物が居つた。

譯語 し英國民が不名譽を蒙るを見んよりは寧ろ自分の兩脚を失つた方がよいと言つた。5. どんなに高い俸給でも私は官職には就かないつもりだ。 6. 若し友人を得んと欲するならば先づ友人なしにやつて行く事を學べ。 7. 彼は自分の番になる迄は醫者が自分に手當する爲めに部下の水兵を捨て置く事をどうしても許さなかつた。 8. 學問の道は學問するに必要な勞力と勉強を與ふる人には等しく凡てに開放されてる。 9. 働かざる者は食ふ可からず。 10. 私は馬鹿にされる男でない事を彼に知らしてやらねばならぬ。

III. 1. Nothing has been heard of him for more than a year. I wonder what has become of him. 2. I have been to the station to-day to see a friend off. 3. I have missed you long. It is quite unexpected that you should call on me to-day. 4. The farming crops in Tokyo and district have greatly suffered from want of rain in January and February. 5. When I

6. 停車場に着くか着かない中に汽車は出てしまつた。
7. 昨日吉野へ櫻見に行きましたが、前夜雨が降つたので、道が大層悪う御座いました。
8. 來年の今頃には此家は落成して居りませう。
9. もう拾圓を得れば私は百圓溜る。
10. 貴君には何處かで御目にかゝつたやうに思はれます。

XV. 法 (Mood)

1. **法 (mood) の定義。** 動詞が動作又は状態を表すに種々の方法がある、其表し方を法 (mood) と言ふ。法 (mood) には直説法・假定法・命令法の三種ある。 直説法 (indicative mood) は事實の過去・現在・未來を問はず之を事實として述べるものである。 假定法 (subjunctive mood) は假定・條件・疑問・願望又は目的を表すものである。 命令法 (imperative mood) は命令・依頼又は歎願を表す言ひ方で現在にのみ用ゐらる。

- I go to school. (學校へ行く) (直説法、現在)
- I went to school. (學校へ行つた) (同上、過去)
- I shall go to school. (學校へ行きます) (同上、未來)
- If I were you, I would act otherwise. (僕が若し君だつたら別な遣り方をする) (假定法)
- Do not smoke. (煙草をのむな) (命令法)
- Do your duty, come what may. (どんな事があつても自分の本分を盡せ) (同上)

went yesterday to the Zoological Gardens in Tokyo where I had not been for a long time, I found many curious animals there. 6. No sooner had I got to the station than the train left. 7. I went to Yoshino to see the cherry-blossoms yesterday. But as it had rained the night before, the roads were very muddy. 8. This house will have been completed by this time next year. 9. If I get another ten yen, I shall have saved one hundred yen. 10. I think I have seen you before somewhere.

2. **假定法 (subjunctive mood)**。假定法には現在・過去・過去完了・未来の四つの時制がある。

(1) **假定法現在 (subjunctive present)** は動詞の原形 (root) を用いて表すものであるが、之は現在及び未来に関する不確實なる想像を表す。

☞ 但し假定法現在でも此頃は root を用ゐないで普通の現在即ち直説法現在 (indicative present) を用ゐる事が多い、殊に日常の會話に於て然り。

(2) **假定法過去 (subjunctive past)** は現在の事實に反する假定を表す。

☞ 動詞は過去の複数形を用ゐる、即ち was の代りに were を用ゐる。而してそれを受くる文は would, should, could, might の如き過去形の助動詞に root を附けた形を用ゐる。かく subjunctive past は形は過去だが意味は過去と何等の關係が無い。

(3) **假定法過去完了 (subjunctive past perfect)** は過去の事實に反する假定を表す形である。之を受くる文は would, should, could, might 等に present perfect を附けた形を用ゐる。

(4) **假定法未来 (subjunctive future)** は現在又は未来に關し強き疑を表し「萬一……なら」の意味を有す。

☞ 而して subjunctive future の形は凡ての人稱に於て should + root の形を用ゐ、之を受くる文は should, would, could, might 等の過去形の助動詞に root を附けた形を用ゐるを常とす。

- ① If he be honest, he will pay me. (彼が正直な男なら僕に金を拂ふだらう) (假定法) (現在)
- ② If he is honest, he is an idle fellow. (彼は正直でも怠け者だ) (直説法)
- If he were honest, he would pay me. (彼が正直なら僕に金を拂ふんだらうか) (假定法過去)
- If he had been honest, he would have paid me. (彼が正直だつたら僕に金を拂つただらうか) (假定法過去完了)
- If I should fail, I would try again. (萬一失敗しても又やつて見るつもりだ) (假定法未来)

☞ 到底將來に於て有り得べからざる假定を表すには人稱に拘らず if + were to の形を用ゐ、之を受くる文は would, should,

could, might 等に root を附け加へる。尙 subjunctive mood の用法に就いては次の諸點に注意するを要す。(1) subjunctive mood の初めには if, even if, provided (但し……ならば), though, although, lest (……せぬやうに), unless (……に非ざれば), suppose (……とせば) 等の接續詞がつくのが普通である。☞ if を略せば were, had, should 等を主語の前へ置く事になつてゐる。(2) if you would は大抵丁寧な願即ち「……して下されば」の意を表す。(3) subjunctive mood は目的 (purpose) を表す、而して此場合には lest……should (……せぬやうに); that……may (might) (……する爲に); so that……may (might) (……する爲めに); in order that……may (might) (……する爲めに) の形を用ゐる。(4) subjunctive mood は願望又は命令を表す。(5) I wish の次に subjunctive past を用ゐれば現在の事實に反する到底達し難き願望を表し「……ならよいに」となり、subjunctive past perfect を用ゐると過去の事實に反する願望を表し「……だつたらよかつたのに」の意味となる。(6) as if 又は as though で始まる clause は subjunctive past を用ゐる。而して此 clause が直説法 (indicative mood) の場合に present tense で書けるものなら subjunctive past を用ゐ、perfect tense (完了形) 即ち「……してしまつた」と言ふ形を用ゐて書かねばならぬものなら主節 (principal clause) に關係なく subjunctive past perfect を用ゐて書く。

- ① If the sun were to rise in the west, he would not give up his principle. (よしや太陽が西から出る事があつても彼は其主義を捨てまい) (有り得ぬ假定)
- ② Should he meet me, he would know me at once. (彼が私に會へさへすれば私をわかるだらう) (if 省略)
- ③ Were I in his place, I would pay the money. (私が彼だつたら金を拂ふんだが) (同上)
- ④ Had he met me, he would have known me. (彼が私に會つたなら私を解かつたらうに) (同上)
- ⑤ If you would do so, I should be much obliged. (さうして下されると大層有難いです) (丁寧な願)
- ⑥ I shall keep your book { lest you should lose it.
that you may not lose it.
(君が無くするといけないから君の本を預つて置かう) (目的)

The students adopted a resolution that the examination system **be** abolished. (生徒等は試験制度を廢止すべしとの決議を可決した) (過去) (=should be)

The sentence is that the prisoner **be** hanged. (宣告は囚人を絞刑に處すべしと言ふのだ) (未來)

I wish I **were** a bird. (鳥ならよいのにな) (現在)

I wish I **had been** a bird. (鳥だつたらよかつたのだ) (過去)

I wish I **could** read it. (それが讀めるとよいのに) (現在)

I wish I **could have read** it. (それが讀めたつたらよかつたのに) (過去)

He talks **as if** he **were** rich. (彼は恰も金持であるかのやうな口をきく)

He acts **as though** he **were** drunk. (彼は恰も酔拂ひなやうなしぐさをする)

He looks **as if** nothing **had happened**. (何事もなかつたやうな風をしてゐる) (完了形)

He looks **as if** he **had seen** a ghost. (彼は幽霊を見たやうな風をしてゐる)

But for his idleness

If it were not for his idleness, he would be a good boy.

Were it not for his idleness (あの子は怠けさへしなければよい子だ) (現在)

But for

If it had not been for the results of the useful labour.

Had it not been for of these who preceded them, men would have remained barbarians forever. (人間と言ふ者も前の人達の有益な努力が無かつたならいつまでも野蠻人のまゝで居たのだらう)

(過去)

but for は **subjunctive past** にも **subjunctive past perfect** にも用ゐられ、「……なかりせば、……で無かつたら」の意。接續詞で条件を表す事がある、かゝる条件を表す接續詞は **and** (さうすれば、然らば) と **or; otherwise; else** (然らずんば、さもなくば) 等である。

⑩ Work hard, **and** you **will** certainly succeed. (勉強せよ、さうすればきつと成功する)

Run, ^{or} **otherwise** you **will** be late. (走らないと遅れるぞ) _{else}

形容詞や前置詞や不定詞が条件を表す事がある。

A wise man **would** not do such a thing. (賢い人ならそんな事はしないだらう)

⑪ Without air, no living thing could exist. (空気が無ければ生物は存在出来ぬ)

I **should** be happy to be of service to you. (君のお役に立てば幸いです)

3. 命令法 (imperative mood). 命令法 (imperative mood) は命令 (command)、依頼 (request) 又は祈願 (prayer) を表す動詞の形である。普通は第二人称即ち **you** に對してのみ用ゐるから **you** を略し、且常に現在の **tense** を用ゐる。尙動詞には常に原形 (root) を用ゐる、否定には **do not** 又は **don't** を附す。

命令法には直接命令法 (direct imperative mood) と間接命令法 (indirect imperative mood) の二種類がある。普通の命令法即ち第二人称 (**you**) に對する命令法は直接命令法である。第一人稱 (**I**) 及び第三人稱 (**he; she; it; they**) に對する命令法は間接命令法と言つて **let** を用ゐて表す。命令を受身 (passive) にすれば主語は必ず第一人稱か第三人稱となるから當然 **let** を用ゐた間接命令法になる。

命令文の次に **and** (さうすれば)、**or; otherwise; else** (然らずんば、さうしないと) 又は **suppose** (と假定せよ、若し……としたら) 等の接續詞を置くと命令文は一種の假定法となる。

命令法は「たとへ……であらうとも」とか「よしや……にもせよ」の意味に用ゐられる事があるし又肯定の命令文で意味を強める爲めによく **do** を附け加へる事がある、かゝる **do** は「是非、どうか」と譯せばよい。

Boys, **be** ambitious! (諸君志を大にせよ) (命令)

⑫ Show me some pencils, please. (鉛筆を少し見せて下さい) (依頼)

- Give us this day our daily bread. (吾々に日々の糧を與へ給へ) (祈願)
- Do not talk. (口をきくな) (否定) (以上直接命令)
- Let us make haste. (急がうよ) (間接命令)
- Let him do what he likes. (彼に好きな事をさせろ) (同上)
- Hear me. (直接) } (私の言ふ事を聞け) (間接命令)
- Let me be heard } (彼の言ふ事を聞け) (間接命令)
- Obey him. (直接) } (彼の言ふ事を聞け) (間接命令)
- Let him be obeyed } (彼の言ふ事を聞け) (間接命令)
- Work hard, and you will succeed. (勉強すれば成功する) (假定)
- Make haste, or (=otherwise; else) you will be late. (急がないと遅れるぞ) (同上)
- Suppose you were the richest man in Japan, what would you do? (若し君が日本一の金持だとしたら何をしますか)
- Be that as it may, it is not a pleasant affair. (其は兎も角として其事件は氣持のよい事でない)
- Come what will, I am prepared for the worst. (どんな事にならうとも僕は萬一の覺悟をしてる)
- Do what I can, I can not please everybody. (どんな風にしたら誰でも彼でもの氣に入るやうには出来ない)
- Do take me with you. (是非連れて行つてくれ)
- Do leave off making that noise. (どうかそんな音をさせないでくれ)

練習問題

I. 文法

I. Correct errors, if any:—

- If you come a little earlier, you would have seen him.
- If I did not go yesterday, I should not have seen it.

解答 I. 1. If you had come a little earlier, you would have seen him. 過去の事實に反する假定故 **subjunctive past perfect** を用ゐる。 2. If I had not gone yesterday, I should

- If it has not been for you, he should have failed in the examinations.
- If there are no fires in Tokyo, it shall be a pleasant place to live in.
- I will not go there again, if I was you.
- If I have wings, I will fly to the moon.
- I wish that I am as wise as him.
- The boy looks as if he was discouraged.
- Work as he could, he could not earn enough to support his family.
- Help me and I shall be drowned.

II. 英文和譯

- II. 1. Let a man learn as early as possible honestly to confess his ignorance, and he will be a gainer in the long run.
2. Our breeze was good, and our progress would have been excellent, but for the unfortunate current.
3. Were virtues unknown among men, order and happiness would be strangers to human life.
4. It would have done him much good, had he had

not have seen it. 3. If it had not been for you, he would have failed in the examinations. 4. If there were no fires in Tokyo, it would be a pleasant place to live in. 5. I would not go there again, if I were you. 6. If I had wings, I would fly to the moon. 7. I wish that I were as wise as he. 8. The boy looks as if he were discouraged. 9. Work as he might, he could not earn enough to support his family. 10. Help me, or I shall be drowned.

II. 1. 人は出来るだけ早く自分の無智を卒直に告白する事を學ぶべきである。さうすれば結局得をする事になる。 2. 吾々の風の具合もよかつたし不幸な潮流さへ無かつたら吾々の進行は申分なかつたのだが。この but for = if it had not been for; had it not been for (無かりせば)。 3. 道德と言ふ事が人間の間に知られて無いものとすれば秩序や幸福と言ふ事はまるで人生には解らないものとなるだらう。 4. 彼が田舎へ行く餘暇があつたら

- spare time to go out into the country.
5. What he might have done, had his life been spared and had his health progressively improved, it is of course impossible to say.
 6. I should have taken the poet, had I not known what he was, for a sagacious country-farmer.
 7. We are always complaining our days are few, and acting as though there would be no end of them.
 8. Wellington would have been defeated, if it had not been for the failure of one of Napoleon's marshals to appear on the field.
 9. You might as well erect a house without bricks and mortar as try to get on in life without education.
 10. I wish I could say that I could do so; but unfortunately next Friday is quite filled up with engagements I can not put off.

III. 和文英譯

- III. 1. 手を觸る可からず。
2. 此字を字引で引いて御覽。
3. 惡小なるを以て之を爲す事勿れ、善小なるを以て

解答 身體の爲めに非常によかつたであらうが。5. 若し彼が助かつて其健康がずんずん回復して居つたなら彼がどんな事業を爲し得たかは勿論斷言する事は出来ない。6. 彼が何物であるかを知らなかつたならば私も彼を賢い田舎の農夫位に思つたであらう。7. 吾々は常に壽命が短くて困まるところをばしてゐるが其癖いつまでも生きて居られるものゝやうな振舞をしてゐる。8. 若しナポレオン部下の元帥の一人が出陣の時機を誤たなかつたならウェリントンは敗北して居たかも知れない。9. 教育なしに出世せんとするのは煉瓦や漆喰なしに家を建てやうとするのと同然だ。10. 私は左様出来ますと言ふ事が出来ればよいのですがあいにくな事には次の金曜日は延期出来ない先約で一杯なのです。

- III. 1. Hands off! **Keep your hands off** も可。
2. Look up this word in the dictionary. 3. Don't commit a sin,

- 爲さざること勿れ。
4. 若君が五十萬圓を自由にする事が出来ましたら君は之を何に御使用になりますか。
 5. 此缺點さへ無ければ直ちに彼を雇ひ入れるのだが。
 6. 丁度よい時に御出になりました。今十分も遅くなれば、私は居ないのでした。
 7. 金があるなら行きたいものですがね。
 8. 昨日雨が降らなかつたら私は飛鳥山へ花見に行つただらう。
 9. 洋傘を持つて行つたらあんなにづぶ濡れにならなかつたらうに。
 10. 君が其時に左様言つたならば僕は君の請求に應ずる事が出来るのでした。

XVI 兼務動詞 (Verbals)

1. 定動詞と不定動詞 (finite and infinite verbs)。動詞は定動詞 (finite verb) 又は不定動詞 (infinite verb) のいづれかに入るものである。定動詞 (finite verb) は主語に關して或事柄を述べる述語 (predicate) となり得るもの、即ち predicate verb となり得るものであつて従つて主語の人稱と數に一致せねばならぬ。今迄説明して來た動詞は皆此の定動詞 (finite verb) である。

解答 nor omit a virtue, however small it may be. 4. If you had half a million yen at your disposal, what would you do with it? 5. Were it not for (=But for) this fault, I would employ him at once. 6. You have come just in time. If you were ten minutes later, I should be away. 7. If I had money, I should like to go. 8. If it had not rained yesterday, I should have gone to Asukayama to see the cherry-blossoms. 9. If I had taken an umbrella with me, I should not have been so drenched with rain. 10. I could have complied with your request if you had told me so at that time.

不定動詞 (infinite verb) は又兼務動詞 (verbals) とも呼ばれ、元來動詞でありながら名詞・形容詞・副詞なみの働をなし、述語動詞 (predicate verb) としては用ゐられず従つて文法上主語と關係を有せず故に主語の人稱や數によつて何等制限を受けないのである。

不定動詞又は兼務動詞には (1) 不定詞 (infinitive)、(2) 分詞 (participle)、(3) 體用詞 (gerund) の三種ある。

① { I have a pen.
You are a boy. } (定動詞)

{ To tell a lie is wrong. (嘘を言ふ事は悪い) (不定詞)
I see a man standing in the garden. (庭に人が立つて居るのが見える) (分詞)
He gave up smoking. (喫煙を止めた) (體用詞)

2. 不定詞 (infinitive)。不定詞 (infinitive) とは to be; to have; to go の如く 原形 (root) の前に to を附けた形で 名詞・形容詞・副詞 の役目を爲す。

注意 不定詞が名詞として用ゐられれば 主語・目的語・補足語 となるのみならず how; when; what の如き 關係副詞 (relative adverb) の次に來て 名詞句 (noun phrase) を作る。

不定詞が形容詞として用ゐられると 目的 (purpose)・原因 (cause)・理由 (reason) を表す。

不定詞が副詞として用ゐられた場合には 動詞・形容詞・副詞 を修飾する時である。不定詞が動詞を修飾する場合には 目的 (purpose)・原因 (cause)・結果 (result) を表す。

不定詞が文法上本文のどの語にも關係なく 獨立的に用ゐられる事 がある、かゝる不定詞を 絶對不定詞 (absolute infinitive) と言ふ。

{ To err is human; to forgive is divine. (誤るは人の常、宥すは神業) (名詞・主語)
They expect to succeed. (彼等は成功するつもりだ) (同上・目的語)
He appears to be a wise man. (彼は賢人のやうだ) (同上・補足語)

{ He did not know how to write. (彼は書き方を知らなかつた) (名詞句)

{ He was not told when to come. (彼はいつ来いとも言はれなかつた) (同上)

{ A house to let. (貸家) (形容詞・目的)

{ I have nothing to eat. (食べる物がない) (同上)

{ English is hard to learn. (英語は覚えるのに六ヶ敷い)

(副詞・理由)

{ I am sorry to hear it. (其を聞いてお氣毒に存じます)

(同上・原因)

{ He is old enough to go to school. (彼はもう學校へ行つてもよい年だ) (副詞)

{ He is too young to go to school. (年が未だ少なくて學校へ行けない) (同上)

{ He came to see me. (彼は私に會ひに來た)

(動詞修飾・副詞・目的)

{ She wept to see the sight. (其光景を見て彼女は泣いた)

(同上・原因)

{ He worked hard only to fail in the examination. (彼は勉強したが結局試験に失敗した) (同上・結果)

{ To tell the truth, I am tired of this work. (實を言ふと、僕は此仕事にあきた) (絶對不定詞)

{ To speak plainly (=To be frank with you), he is dishonest. (卒直に言へば彼は不正直な男だ) (同上)

{ He is, so to speak (=as it were), a walking dictionary. (彼は謂はば生字引だ) (同上)

{ To make matters worse, he lost his health. (困まつた事には彼は健康を害した) (同上)

注意 不定詞を主語に用ゐる事は稀であつて普通は it を主語とする。かゝる場合 it は文法上の主語で、不定詞は意義上の主語となる。又不定詞が factitive verb (作爲動詞又は補足動詞即ち make; find; think の如く補足語を要する他動詞) の目的語となれる場合には it を文法上の目的語として不定詞を其次へ置く。

{ It is human to err. (誤るは人の常)

{ It is very difficult to master a foreign language (外國語に熟達する事は非常に六ヶ敷い)

I make it a rule to get up at six every morning. (僕は毎朝六時に起きる事にして居る)
 You will find it very difficult to master a foreign language. (外国語に熟達する事は非常に六ヶ敷いのが解るだらう)

不定詞が節 (clause) 全體を修飾する事がある、かゝる場合の不定詞は副詞であつて、原因又は理由を表す。次に不定詞には元來 tense のあらゆる筈が無いが其形から分類して單純不定詞 (simple infinitive) と完了形不定詞 (perfect infinitive) とに分ける事が出来る。單純不定詞は to + root の普通の形で、完了形不定詞は to + have + past participle の形である。後者即 perfect infinitive は一段前の事か又は其時迄の動作或は状態の完了・經驗或は繼續を表す。

He must be a fool to say so. (そんな事を言ふとは彼は馬鹿に違ひない) (節全體修飾)

He must be a scholar to know that. (それを知つて居るとは彼は學者に違ひない) (同上)

He seems to have been rich. (彼は金持であつたらしい) (過去)

He intended to have gone abroad. (洋行するつもりだつたが出来なかつた)

He was to have come. (来る筈だつたが來なかつた)。

不定詞 (infinitive) の符號 (sign) たる to は次の場合に省略される。(1) 不定詞が see; hear; feel; please; make; let; watch; bid; have (させる) 等の動詞の次に用ゐられたる場合には to を略す。(2) had better (……した方がよい), had best (……した方が一番よい), had sooner, had as soon……as (むしろ……した方がました) の次の不定詞は to を略す。(3) cannot but (……せざるを得ない), do nothing but (……許りする), than 及び as の次には不定詞の to を略す。(4) will; shall; can; must; may 等の助動詞の次には不定詞の to を略す事は既に説いた (89-95頁参照)。

I saw him go out of the room. (私は彼が室から出て行くのを見た)

I have never heard her sing. (彼女の歌ふのを聞いて事が無い)

I felt the house shake. (家の揺れるのを感じた)

Please do this. (どうぞ之をして下さい)

I made him study harder. (彼に一層勉強させた)

You had better not go. (君は行かない方がよい)

You had best go. (君は行つた方が一番よい)

I had sooner run than walk. (歩くより寧ろ走つた方が

I had as soon run as walk. (がました)

I can not but go. (行く外に致し方が無い)

He does nothing but laugh. (彼は笑つて許りみる)

I would rather die than be disgraced. (屈辱を受けるより死んだ方がました)

You may as well go as stay. (留まつてゐるより寧ろ行つた方がよい)

不定詞の慣用語句に就いては次の諸項に注意するを要す。

(1) be + infinitive は「……の筈である、になつてゐる」の意。

(2) be + passive infinitive は「……さる可きである、せねばならぬ、……し得べき」の意。(3) be going + infinitive は「……せんとする、するつもりだ」。

(4) be about + infinitive は「將に……する處だ、……しかける處だ」。(5) have + infinitive は「……せねばならぬ」 (= must)。(6) have only + infinitive は「唯だ……さへすればよい」。

(7) I am to go. (私は行く筈になつてゐる)

He was to come. (彼は來る筈であつた)

His condition is to be pitied (= is pitiable). (彼の状態は憫むべきだ)

The interest is to be paid (= payable) every six months. (利子は六ヶ月毎に支拂ふ事になつてゐる)

Not a single soul was to be seen (= could be seen) in the street. (通りには人つ子一人見られなかつた)

I am going to start to-morrow. (明日出發するつもりだ)

He is about to start. (出發する處だ)

I regret to have to decline your cordial invitation. (御親切なる御招待を御断りせねばならぬ事を残念に思ふ)

You have not to come (= need not come). (來るに及ばぬ)

You have only to say a word. (一言言ひさへすればよいのだ)

練習問題

I. 文法

I. Change the voice of the finite verbs in the following:—

1. I made him finish it in an hour.
2. They were heard to cry most piteously.
3. We saw them slowly climb up the narrow path.
4. The house was felt to shake slightly.
5. I had my sister copy the picture.

II. 英文和譯

- II. 1. It is a grander thing to be nobly remembered than to be nobly born.
2. It is a great deal better to economize in other things than to be too saving in your clothes.
3. It is difficult for us, in these days of steam and electricity, to realize how long it took to despatch a message in the seventeenth century, even when the occasion was most pressing.
4. Undertake not what you can not perform, but be

解答 I. 1. He was made to finish it in an hour. ~~原~~ active voice で不定詞の to が省略されてあつても (107 頁参照)、之を受身 (passive voice) に變へる時は其不定詞に to を附ければならぬ。2. We heard them cry most piteously. ~~原~~ 之は (1) の逆だ (108 頁参照)。3. They were seen slowly to climb up the narrow path. ~~原~~ (1) の場合に同じ。4. We felt the house shake slightly. ~~原~~ (2) の場合に同じ。5. My sister was made to copy the picture 又は I had the picture copied by my sister.

II. 1. 名門に生れるよりは名を後世に残す方が遙かに立派な事だ。2. 服装で餘り節約するよりは他の事で儉約した方がずつとました。3. 蒸氣や電氣の現代に住む吾々に取つては十七世紀時代に如何に火急を要する手紙でも之を送るにどれだけの時間を要したかを了解する事は困難だ。4. とても實行不可能な事は請合ふ

careful to keep your promise.

5. Many a father has learned to his sorrow what it is to have his son idle.
6. It is natural to derive happiness from following out a design, — from seeing, hour by hour, day by day, how results come about, in conformity to our intentions.
7. He did not live to enjoy the fruits of what he had done.
8. It is sometimes discouraging to tell the truth only to discover that you are not believed. But time reveals truth as well as falsehood.
9. To speak the truth, if I thought I had a chance to better myself where I am going, I would go with a will.
10. It is easy for a man to get himself a reputation. He has only to practise upon the imagination and credulity of the public.

III. 和文英譯

- III. 1. 彼はさうした事を後悔して居る。
2. 私はあの少女の歌ふのを聞いた事が無い。
3. 外套を御持参なさつた方が良ういませう、夕景

な、然し自分が請合つた約束は必ず守るやうにせよ。5. 自分の息子を怠けさして置くと言ふ事は如何なるものかを経験して悲しい思をした父親は世間にいくらかもある。6. 一の計畫を立て、之を實行するに當たり此計畫に従つて毎時毎日如何なる結果が生ずるかを見て愉快を得るは當然の事である。7. 彼は自分の成した事業の成果を楽しむまで生きて居なかつた。8. 眞實の事を言つても結局信じて貰はれないと張合の無い事が往々あるが、然し時のたつにつれて虚偽は勿論の事眞實も明白になるものだ。9. 實を申しますと今私の参ります處で立身出来る見込がありますなら喜んで行くのですかね。10. 人が自ら名聲を得る事は譯のないことだ、公衆の想像や信じ易い事を利用すればよいのだ。

III. 1. He is sorry to have done so. 2. I have never

には寒くなりませうから。

4. 此椅子は見た所は立派でも掛け心地が悪い。
5. 今の下宿が学校へもう少し近いが電車の便さへよかつたら、他へ移るにも及ばぬのだが。
6. 郊外へ引越したいと思ひますが御宅の近くに貸家はありませんか。
7. 日本から倫敦へ船では約四十五日かゝりますが陸では約十七日で行けます。
8. 外國語に熟達するには其國語の話さるゝ國へ行つて修業するのが一番です。
9. 金を儲けることは六ヶ敷い事であるが金を有効に使ふ事は猶更六ヶ敷い。
10. 早起と早寢は人生に於ける成功の秘訣なり。

3. 分詞 (participle)。分詞は動詞と形容詞の性質を一語に兼ねるものである、故に分詞は一名動詞形容詞 (verbal adjective) とも言ふ。

分詞には現在分詞 (present participle) と過去分詞 (past participle) との二種類ある。現在分詞は原形 (root) に -ing を附し、過去分詞は原形に -ed, -t 又は -en を附して作る (不規則のものは動詞の變化の部「第 98 頁参照」)。

分詞の用法に就いては次の諸點に注意するを要す。(1)

heard the girl sing. 3. You had better take your overcoat with you, for I am afraid it may get colder towards evening. 4. This chair is fine to look at, but not comfortable to sit in. 5. If my present boarding-house were a little nearer to the school or were handy to the street-car, I should not have to remove to any other house. 6. I want to remove to the suburbs. Is there any house to let in your neighbourhood? 7. It takes about forty-five days to go by sea from Japan to London, but about seventeen days by land. 8. The best way to master a foreign language is to study it in the country where it is spoken. 9. It is difficult to make money, but it is still more difficult to make good use of it. 10. To keep early hours is the secret of success in life.

現在分詞 (present participle) は進行形 (progressive form) を作るに用ゐ、過去分詞 (past participle) が受身 (passive voice) 及び完了形 (perfect tense) を作るに用ゐらる (第 106, 107, 126, 129 頁参照)。(2) 分詞が形容詞として用ゐられた場合には、現在分詞は active の意味を有し「……する、……なる」の意を表し、過去分詞は passive で「……された、……されたる」の意味を有す。(3) 分詞は動詞としての性質を有するを以て、目的語・補足語・副詞を伴ふ事を得。(4) 分詞は又形容詞の性質を有するを以て名詞を修飾し、副詞を伴ひ、又形容詞の變化 (comparison) をなす。(5) 分詞は主語を形容する補足語、即ち主語補足語 (subjective complement) にも又目的語を形容する補足語、即ち目的補足語 (objective complement) にも用ゐらる。但し前者の場合には自動詞の次に來り、後者の場合には他動詞の次に來る。(6) 分詞構文 (participial construction) で主文の主語と分詞の意味の主語と異なる場合がある。或は分詞の意味上の主語が全然省略されて居る場合もある。斯る分詞を絶対分詞 (absolute participle) と言ひ、又かゝる構文を絶対構文 (absolute construction) と言ふ。

- I am going to school. (現在進行形)
- It is made in Japan. (受身)
- I have just finished. (現在完了)
- Men living in town. (都會に住んでゐる人々) (形容詞)
- The persons wounded in the accident. (棒事で負傷した人々) (同上)
- Writing something on a card, he gave it to me. (名刺に何か書いて私に渡した) (動詞・目的語)
- Being poor, he could not send his son to school. (貧乏な爲め子供を學校へやれなかつた) (同上・補足語)
- The boy, working hard, tried to make up for the lost time. (其子は勉強して無駄にした時間を取りかへさうと努めた) (同上・副詞)
- Being tired with work, the men went home. (仕事に疲れて人々は家に歸つた) (名詞修飾)
- The man was picked up in an almost dying condition. (其人は殆んど瀕死の状態で收容された) (副詞を伴ふ)
- This flower is more faded than that. (此花は其花より色があせて居る) (比較級)

He sat **thinking**. (考へ込んで腰かけて居た)

(主語補足語)

I found him **reading** a newspaper. (私は彼が新聞を讀んでるのを發見した) (目的補足語)

The teacher **absenting** himself, there was no school. (先生が休んだので學校が休みだつた) (=As the teacher absented himself, there was no school) (絶對分詞)

Our dinner **being** over, we went out for a walk. (食事が済んでから吾々は散歩へ出かけた) (=When our dinner was over, we went out for a walk) (同上)

Strictly speaking, this is not correct. (嚴密に言へば此は正確で無い) (=If we speak strictly, this is not correct) (同上)

Talking of (=Now that we are talking of) newspapers, which is the best English newspaper in Japan? (新聞の話の序ですが日本で一番よい英語の新聞は何ですか)

Setting it aside (=If we set it aside), there are two more important points. (其は別としてもまだ二つの重大な點がある)

注意 現在分詞 (present participle) は主文の動詞と同一の時を表す、故に邦語に譯す時は凡て現在に譯して差支ない、過去分詞 (past participle) は主文の動詞と同一の時を表すか又は主文の動詞の表す時迄に完了せる動作又は状態を表す。完了形分詞 (perfect participle) は主文の動詞の表す時まで完了した動作又は状態を表す。尚分詞は二文を短縮して一文となすに用ゐらる、かゝる構文を分詞構文 (participial construction) と言ふ。即ち接續詞の *as*; *since*; *if*; *though*; *when*; *while*; *after*; *because*; *and* 等を略し、代りに分詞を用ゐるのであるが、其省略する接續詞の種類に應じて分詞は時間 (time)・原因 (cause)・理由 (reason)・條件 (condition)・讓歩 (concession)・對照 (contrast)・連絡 (connection) を表す。

① **Saying** this (=When I said this), I departed. (かう言つて私は去つた) (現在分詞)

The Emperor reigns, **respected** by all. (皇帝は萬民に尊敬されて國を治められてゐる) (現在)

The Emperor died, **mourned** by all. (皇帝は死んで凡ての人々に悲しまれた) (過去)

Having said that (=When I had said that), I departed. (さう言ひ終つて私は去つた) (完了)

Walking along the street (=While I was walking along the street), I met a friend. (通りを歩いて居る間に友達に會つた) (分詞構文・時間)

Being tired with the work (=As he was tired with the work), he sat down to rest. (彼は仕事に疲れたので休む爲めに腰かけた) (同上・原因)

Living so far from town (=As I live so far from town), I seldom have visitors. (私は町から遠く離れた處に住んでゐるので滅多に客がない) (同上・理由)

Turning to the left (=If you turn to the left), you will find the house you want. (左へ廻ればお尋ねの家が見つかります) (同上・條件)

Admitting (=Though I admit) what you say, I still think that you made a mistake. (たとへ君の言ふ通りだとしても私は尙君が間違へたと思ふ) (同上・讓歩)

Drawing his sword (=He drew his sword and), he threatened to kill me. (彼は劍を抜いて私を殺すぞと威嚇した) (同上・關係)

練習問題

I. 文法

I. Correct errors, if any:—

1. Being too difficult and bulky, I have not yet finished the book.
2. Mention the chief events happened in the 19th century.
3. Mr. Sato was the only member spoken on that

解答 I. 1. **The book** being too difficult and bulky, I have not yet finished it. 絶對構文故主語は **the book** とする。2. Mention the chief events **which** happened in the 19th century. 3. Mr. Sato was the only member who **spoke** on that occasion.

occasion.

4. Having read the book, it was thrown aside.
 5. I don't know the man done this mischief.
- II. Contract the following sentences with participles:—
1. As the sun has set, we had better start for home.
 2. As the main point has been gained, success is certain.
 3. If a man puts on the appearance of honesty, he can sometimes pass for honest.
 4. He failed in the examination, because he was unable to answer more than a quarter of the questions.
 5. He fell sound asleep, because he was very tired.

II. 英文和譯

- III. 1. **Returning** home in 1875, he started the manufacture of matches, as this industry had not then been attempted in Japan.
2. **Other things being equal**, a married man is a better and more efficient schoolmaster than a bachelor.
3. The daily sacrifice of a single hour during a year comes at its end to thirty-six working days, **allowing ten hours** a day.

解答 4. Having read the book, I **threw** it aside. 5. I don't know the man who **has done** this mischief.

II. 1. **The sun having set**, we had better start for home. 2. **The main point having been gained**, success is certain. 3. **Putting on** the appearance of honesty, a man can sometimes pass for honest. 4. **Being unable** to answer more than a quarter of the questions, he failed in the examination. 5. **Being tired**, he fell sound asleep.

III. 1. 彼は一八七五年に歸朝して、マッチの製造を始めました。之れ其時までマッチ工業は日本でまだ企てられてなかつたからである。2. 他の事情が同様だとすれば、結婚した人の方が獨身者よりも一層よい且つ一層能率のあがる學校教師である。3. 毎日一時間宛一ケ年間犠牲に供すとすれば一日十時間働くものとする

4. **Strictly speaking**, the north American Indians were not aboriginal inhabitants, for there are proofs of an earlier race in the land.
5. **Setting aside** the perfect gentleman, who is a gentleman everywhere, a man out of his own country is more or less a fish out of water.
6. He that holds to his appointment and does not keep you **waiting**, shows that he has regard for your time as well as his own.
7. We see the character of Nelson **displayed** in his actions. He was ardent and fearless in the line of his duty to an extraordinary extent.
8. There never was a time in the history of the world when education was worth so much as to-day, when **added** knowledge adds so much power.
9. It is not by leaps or bounds, but by steady, persistent growth that strong characters are **made**.
10. As fathers commonly go, it is seldom a misfortune to be fatherless; and, **considering** the general run of sons, as seldom a misfortune to be childless.

解答 一年の終りには三十六日の作業日数となる。4. 厳密に言へば北米印度人は土着民では無かつた、何となれば北米には其以前に別な人種が居つた證據があるからだ。5. 何處へ行つても紳士で通る申分のない紳士は別として、自國を離れた人は多少水から出た魚の觀がある。6. 自分の約束を守りあなたを待たせない人は自分の時間のみならずあなたの時間をも重んじて居る事を示してゐる。7. ネルソンの性格は其行動に現はれて居るのが解かる、彼は自分の職務を遂行するに當たるや非常に熱烈で且大膽だつた。8. 世界史上今日の如く教育が價値を有し知識を増加すればそれだけ力を増加すると言ふやうな時代は無かつた。9. 強固な性格は一躍して作らるゝものにあらずして着々粘り強き發達によるものである。10. 世間一般の父親のやうなら父の無いと言ふ事は滅多に不幸ではない。又普通の子供を考へれば、子供のないと言ふ事も亦同様に滅多に不幸ではない。

III. 和文英譯

- IV. 1. 水道給水料を期日迄に納めないと給水を停止されます。
 2. 先日寫眞を撮りましたから出來ましたら一枚差上げませう。
 3. 彼は材料を東京に居る息子の許に送りそれを専門家に検査して貰つた。
 4. 此靴を直して貰つたらまだ穿けるでせうか。
 5. 此仕事を間違なく月末までに仕上げて貰ひたい。
 6. 散髪に行つて来い。
 7. 此手紙を書留にして貰ひたい、料金はいくらですか。
 8. 此文章は誰に直して貰ひましたか。
 9. 彼は翌日午後再び會ひたいと言つて私に別れた。
 10. 急用が出來たので長らく御待たせして誠に済みませんでした。

4. 體用詞 (gerund)。體用詞 (gerund) は動詞でありながら名詞の性質を帯びるものである。體用詞は原形 (root) + ing の形故、分詞 (participle) と同一の形式を具へて居るが、分詞は動詞で形容詞の性質を有するに反し、體用詞は動詞で名詞の性質を有するのだ。

IV. 1. If you do not pay the water-rate by the fixed date, you will get the water supply cut off. 2. I had my photograph taken the other day. When it is ready, I will give you a copy of it. 3. He sent the material to his son in Tokyo and had it examined by an expert. 4. If I have (=get) this pair of shoes mended, can I wear them any more? 5. I want to have this work done by the end of this month without fail. 6. Go and get your hair cut. 7. I want to have this letter registered. What is the fee? 8. By whom have you got this composition corrected? 9. He parted from me, saying that he would like to see me again on the afternoon of the following day. 10. I am very sorry that I have kept you waiting so long owing to urgent business.

註 (1) 體用詞 (gerund) は名詞の働きをなす故、動詞の主語・目的語・補足語になり且つ前置詞の目的語となる事が出来る。(2) 體用詞は一種の動詞故自ら目的語を取る。(3) 體用詞には tense は無いが、前後の關係で之を知る事が出来るのみならず、體用詞の perfect (完了形) の形は普通動詞の past, present perfect 又は past perfect に該當するものである。(4) 體用詞は勿論文法上の主語を持つ事は出来ないが、意義上の主語は持つ事が出来る。體用詞の意義上の主語が主文の主語又は目的語と同一の場合には別に之を書き表はさない。然しながら體用詞の意義上の主語が主文の主語又は目的語以外の語ならば其語の所有格を體用詞の前に置かねばならぬ。(5) 體用詞を用いて名詞節 (noun clause) を縮める場合には、其の clause の主語は所有格とせねばならぬ。而して其主語が名詞であつて文の冒頭に来る時には 's をつける、但し前置詞の後に来る折には 's を附ければ其動作が既に完了せるか又は現在ある事を示し、's を省略すれば其動作がこれから起る事即ち未來の事を示す。代名詞の場合には常に所有格の形を用ゐる。

He gets his living by writing novels. (彼は小説を書いて生計を立てゝ居る) (目的語)
 Sleeping is necessary to health. (睡眠は健康に必要だ) (主語)

Seeing is believing. (百聞一見に如かず) (主語と補足語)

I like reading in the open air. (私は戸外で讀書する事が好きだ) (目的語)

He is good at teaching English. (彼は英語を教へる事が上手だ) (目的語をとる)

by; for; after; above; against; without; instead of; far from; next to; in spite of 等の次には gerund (體用詞) が来る。

I am sure of his having arrived. (彼がもう到着した事は確實だ) (=I am sure that he has arrived).

I was not aware of his being a scholar. (私は彼が學者な事を知らなかつた) (=I was not aware that he was a scholar).

He denied his having been there. (彼は其處へ來た事を否認した) (=He denied that he had been there).

I regret having said so. (私は左様言つた事を後悔してゐる) (主語同一)

I regret his having said so. (私は彼が左様言つた事を後悔してゐる) (主語不同)

The teacher scolded him for being late. (先生は彼が遅刻したので叱つた) (目的語と同一)

The teacher scolded him for my being late. (私が遅刻したと言つて先生は彼を叱つた) (目的語と不同)

That the teacher is weak is known to all = The teacher's being weak is known to all. (先生が弱い事は皆が知つてゐる)

What do you think of my horse's running to-day? (今日私の馬の走り具合をどう思ひますか) (完了)

What do you think of my horse running to-day? (今日私の馬を走らさうと思ふか如何でせう) (未来)

He is proud of his father's being rich. (彼は自分の父が金持な事を自慢してゐる) (現在)

He never dreamed of his father getting rich. (彼は自分の父が金持にならうとは夢想だにしなかつた) (未来)

注意 體用詞 (gerund) には次の慣用法がある。

I cannot help laughing. (笑ふまいとしても笑はざるを得ない) (=I cannot but laugh).

There is no accounting for tastes. (蓼喰ふ蟲も好き好きだ) (=It is impossible to account for tastes).

It is no use crying over spilt milk. (過ぎた事は悔いても詮ない) (=It is of no use to cry over spilt milk).

It is no good (=use) trying. (やつて見ても駄目だ)

On receiving a telegram, he went home. (電報を受取るや否や彼は國へ歸つた) (=As soon as he received a telegram, he went home).

This is the picture of his own drawing. 此繪は彼が自ら書いたものだ (=This is the picture drawn by himself).

I felt like crying. (泣出したいやうな気がした) (=I felt inclined to cry).

He came near falling. (彼は危く倒れる處だつた) (=He nearly fell).

He came near being drowned. (彼は危く溺死する處であつた) (=He was nearly drowned).

The exhibition is worth visiting. (博覽會は見て置く値がある) (It is worth while to visit the exhibition).

Let us go fishing (hunting). [釣り(狩)に行かう] (=Let us go to fish (hunt))

Let us go gathering berries. (木實を取りに行かう) (=Let us go to gather berries)

練習問題

I. 英文和譯

1. There was no fighting against such odds.
2. The sea raged so fiercely that there was no getting on board the ships.
3. There is no living without trusting to somebody or other in some cases.
4. Usually that which a man calls fate is a web of his own weaving, from threads of his own spinning.
5. There is no standing still in this life; one must either advance or fall behind.
6. There are fish so plentiful that it may be had for the asking.
7. All would like to succeed, but this is not enough. Who would be satisfied with the success which may be

譯答 I. 1. 多勢に無勢到底敵はなかつた。2. 海が非常に荒れて居たので到底船に乗れなかつた。3. 時によると誰かしらに頼らぬでは生きて行かれない場合がある。4. 通例人が運命と呼ぶものは自ら紡いだ絲で自ら織つた蜘蛛の巣に過ぎない。5. 此世の中では静止すると言ふ事は出来ない、進歩するか退歩するかどつちかである。6. 魚は非常に豊富であつて頼めばいくらでも手に入る。7. 皆成功したいと思つてゐる。然し之れだけでは十分でない。望みさへすれば得られるやうな成功には誰だつて満足するものは無か

had for the wishing?

8. Nothing worth having can be had without labour.
9. Whatever is worth doing at all, is worth doing well.
10. If we cultivate will power, decision, positive instead of negative thinking, we can not help making an impression of masterfulness, and everybody knows that this is the qualification that does things.

II. 和文英譯

- II. 1. 大阪東京間を馬で遠乗りしようと言ふ企があるが君はこれに加はつては如何ですか。
2. 今年は春の來やうが遅い。梅はやつと咲いた許りだ。
3. 止むを得ざる用事有之御招待に應じ難く遺憾至極に存候。
4. 博覽會見物に御誘ひ下さいまして誠に有がたふ、明日はあいにく用事があるので残念ながら御供が出來ませぬ。
5. 予は冬には午前六時に起床し午後十時に就寢するを例とす。

【譯】らう。8. 得るだけの價值のあるもので骨折らずに手に入るものは無い。9. 苟くも成すだけの價值のあるものは十分によくする價值のあるものだ。10. 若し吾々が意志の力、決斷力、並に消極的にあらずして積極的に思考する力を養へば吾々は人の上に立てると言ふ印象を人に與へざるを得ない、而して之は事を爲す資格である事は萬人の知つて居る事である。

II. 1. We intend to go on a riding excursion from Tokyo to Osaka. What do you say to joining it? 2. Spring is slow in coming this year. The plum-trees have only just blossomed. 3. I am very sorry to have to say that unavoidable business prevents me from accepting your cordial invitation. 4. Many thanks for your kind invitation to visit the exhibition, but I regret to say that unfortunately previous engagement prevents me from accompanying you tomorrow. 5. In winter I make a point of getting up at six in

6. あの男は如何なる寒い冬でも毎朝屹度冷水浴をやります。
7. 何事をするにも鞏固な意志がとりわけ肝要なのは言ふ迄もない事です。
8. 君は間違ふのを氣遣つて英語を話さないから會話が上達しないよ。
9. 君が勉強して注意を怠らざれば極めて短期で英語を學び得る事は請合ひです。
10. 君はもつと英語を勉強しなさい、そして日本の小説や雑誌を除き讀まないやうにし給へ。

第六章 名 詞 (Nouns)

I. 名詞の作り方

元來の名詞は別として、動詞又は名詞に附いて名詞をつくる接尾語がある。此の接尾語 (suffix) を知つて居ればすぐ如何なる名詞か解かる。

1. 「……する人」「……する者」なる意味を表す接尾語は次の通りである。

(1) -er. 殆んど凡ての動詞に附いて名詞をつくる。
 (例) baker (パン屋); labourer (労働者); writer (書く人、作家); worker (労働者)。

(2) -ar. beggar (乞食); liar (嘘つき); scholar (學者)。

(3) -ard, -art. 「……な人」「……する人」の意味でも多く悪い意味を有す。

the morning and going to bed at ten in the evening. 6. However severe the winter may be, he makes a point of taking a cold bath every morning. 7. It goes without saying that a strong will is especially necessary in doing anything. 8. You do not speak English for fear of making mistakes. That is why you do not make progress in conversation. 9. If you study hard without relaxing your attention, I can assure you that you can master English in a very short time. 10. Be more diligent in studying English instead of reading too many Japanese novels or magazines.

- ⑨ coward (卑怯者); drunkard (酔漢); braggart (ほら吹き); dullard (愚人); dotard (馬鹿)。
- (4) -ier, -eer. 「……する人」と言ふ意味を表す事は同じだが、多く佛蘭西語から入つて来た語につく。
- ⑩ engineer (機関手); financier (財政家); cashier (會計); mountaineer (登山家); courtier (廷臣); muntineer (叛徒)。
- (5) -ee. 「……される人」「受……者」「被……人」の意を表す。
- ⑪ examinee (受験者)、employee (使はれる人)、referee (refer される人、即、審判官)、payee (被支拂人)、trustee (受託人)、committee (委員)。
- (6) -ian, -ist. 「……主義者」「……家、……屋」を表す。
- ⑫ nationalist (國家主義者)、communist (共產主義者)、militarist (軍國主義者)、journalist (新聞記者)、novelist (小説家)、tobacconist (煙草屋)。
- (7) -ant, -ent. 「……する人」の意。
- ⑬ applicant (申込人)、servant (召使)、student (學生)、client (依頼人)。
- (8) -ary. 「……する人」を表すが、殊に或職業又は職務に従事する人を意味す。
- ⑭ adversary (敵手)、apothecary (藥劑師)、dignitary (役人)、emissary (密使)、secretary (秘書)。
- (9) -or, -our. 「……する人」の意。
- ⑮ saviour (救主)、warrior (戰士)。
- (10) -yer. 「……する人」の意。
- ⑯ lawyer (辯護士、法律家)、sawyer (木挽き)、bowyer (弓師、射手)。
- (11) -ain, -an, -en, -on. 「……する人、……の人」を表す。
- ⑰ captain (頭、隊長)、librarian (司書官)、surgeon (外科醫)、sexton (寺男)、warden (看守)。
- (12) -ate. 「……する人、委ねられた人」の意。
- ⑱ advocate (主張者、辯護士)、candidate (候補者)、profligate (放蕩者)。
- (13) -ic. 「……の人、……する人」の意。
- ⑳ critic (批評家)、cynic (皮肉家)、fanatic (熱狂者)、mechanic (職工)。

- (14) -ite, -it. 「黨員、一員」の意。
- ㉑ Jacobite (ジャコピン黨員)、Israelite (イズラエル人)、Jesuit (ジエズエト教徒)。
- (15) -ster. 「……する人」。もとは女にのみ用ゐられた。
- ㉒ spinster (獨身女)、youngster (若者)、songster (歌ふ人)。
- (16) -monger. 「商人、……屋」の意。
- ㉓ fishmonger (魚屋)、ironmonger (金物屋)。
- (17) -crat. 「支配者、支持者、一員」の意。
- ㉔ autocrat (獨裁者)、democrat (民主主義者)。
- (18) -man. 「……する人」「或商賣をする人」の意。
- ㉕ woodman (樵夫)、seaman (水夫)、boatman (船頭)、footman (馬丁)、shopman (店員)、watchman (番人)、workman (労働者)。
- (19) -wright. 元來労働者の意味で「大工」又は「……を作る人」の意。
- ㉖ cartwright (車大工)、shipwright (船大工)、wheelwright (車大工)、playwright (脚本作家)。
- (20) -arch. 「支配者」の意。
- ㉗ monarch (君主)、hierarchy (教主)。
2. 抽象名詞及び集合名詞を作る接尾語 (suffix) は次の通りである。
- (1) -age. 状態・結果・行爲を表す、即ち「……なる事、する事」及び税金、並に全體・總體 (此場合には集合名詞となる) 及び場所・所 (此場合普通名詞となる) を表す。
- ㉘ courage (勇氣)、bondage (奴隷たる事)、coinage (鑄造)、marriage (結婚)、postage (郵税)、cartage (運賃)、portage (運賃)、brokerage (仲介、口銭)、pilotage (水先案内料)、wharfage (埠頭税)。以下集合名詞、peccage (華族全體)、coinage (貨幣全體)、fruitage (果實全體)、leafage (葉全體)、plumage (羽毛全體)。次は普通名詞 orphanage (孤兒院)、hermitage (隱者の庵)。
- (2) -al. 動詞より名詞を作るに用ゐる、「……する事」の意。
- ㉙ avowal (公言、斷言)、arrival (到着)、dismissal (解雇)、disposal (處分)、espousal (婚約、加擔)、perusal (熟讀)、removal (除去)。

- (3) **-ance, -ancy, -ence, -ency.** 状態・行爲を表し、「…なる事、する事」の意。
- abundance (豊富)、brilliance, brilliancy (光輝)、buoyancy (浮く事、陽氣)、decency (行儀正しき事、體裁)、defiance (挑戦、無視)、constancy (終始變らぬこと)、elegance (優美)、excellence (優越)、innocence (潔白)、remembrance (記憶)。
- (4) **-acy, -cy.** 状態・行爲・位階を表し「……なる事、する事、位・職」を表す。
- accuracy (正確)、bankruptcy (破産)、idiocy (白痴)、infancy (幼稚)。
- (5) **-cracy.** 政治・支配を意味す。
- autoeracy (獨裁政治)、democracy (民主政治、民主主義)。
- (6) **-craft.** 技術・藝を意味す。
- handeraft, handieraft (手藝)、statecraft (經世策、政治家たるの道)、wooderaft (狩獵術)。
- (7) **-dom.** 状態及び領分を意味し、「……たる事、なる事、國」を表す。
- freedom (自由)、wisdom (智慧)、earldom (伯爵の位)、martyrdom (殉教)。以下普通名詞、及び固有名詞、kingdom (王國)、Christendom (基督教國)、heathendom (異教國)。
- (8) **-hood.** 状態及び役目を表し、「……たる事、時代、位、職」を意味す。
- boyhood (少年時代)、childhood (小兒たる事、小兒時代)、likelihood (有りさうな事)、manhood (大人たること)、priesthood (僧侶たる事)、widowhood (寡婦たる事)。
- (9) **-ice.** 行爲・性質を表し、「……する事、たる事、なる事」を意味す。
- avarice (貪慾)、cowardice (卑怯)、justice (正義)、malice (惡意)、notice (豫告、注意)。
- (10) **-ics.** 學術・學・技術を表す。
- acoustics (音響學)、conics (圓錐曲線學)、dynamics (力學)、mathematics (數學)、athletics (運動)、politics (政治)、tactics (戰略)。
- (11) **-ism.** 主義・説・行爲・状態・語癖・訛を表す。

- communism (共產主義)、socialism (社會主義)、Bolshevism (過激主義)、conservatism (保守主義)、baptism (洗禮)、heroism (壯烈)、barbarism (野蠻)、Americanism (米語の癖、米語)、alcoholism (アルコール中毒)。
- (12) **-ity, -ety.** 状態・習慣を表し、「……なる事、よく……する事」を意味す。
- acidity (酸い事、酸性)、anxiety (心配)、cupidity (貪慾)、gaiety (陽氣)、rapidity (迅速)、reality (實際)、solidity (堅牢)、variety (變化)。
- (13) **-ment.** 行爲・状態を表し、「……する事、なる事」を意味し、動詞より名詞を作る。
- amazement (驚愕)、contentment (満足)、encouragement (奨勵)、embezzlement (横領)、judgment (判断)、management (經營)、punishment (罰)。
- (14) **-mony.** 状態を表す、「……たる事、する事」を意味す。
- acrimony (辛烈)、harmony (調和)、hegemony (覇權)、matrimony (結婚)、parsimony (吝嗇)。
- (15) **-ness.** 状態を表し、「……なる事、たる事」を意味し、形容詞及び分詞より名詞を作る。
- calmness (静かな事)、fatness (肥大)、greatness (偉大)、fulness (十分)、holiness (神聖)、tiredness (疲勞)。
- (16) **-our, -or.** 状態を表し、「……なる事、たる事」を意味す。
- ardour (熱心)、honour (名譽)、humour (氣分、滑稽)、vigour (元氣、精力)、colour (色)。
- (17) **-ry.** 技術・行爲を表し、「術・法、……する事」を意味し、又集合名詞を作つて「物全體」を意味す。
- archery (弓術)、cookery (料理法)、forgery (偽造)、misery (難儀、悲慘)、surgery (外科)。以下集合名詞、drapery (呉服物全體)、poetry (詩全體)、infantry (歩兵隊)。
- (18) **-ship.** 状態・技術・役・期限を表し、「……なる事、たる事、技術・術・職・期限」を意味す。
- airmanship (飛行家の技術)、authorship (著者たる事)、apprenticeship (徒弟たる事、徒弟期間)、friendship (友た

る事、友誼)、partnership (組合員たる事)、chairmanship (議長たる事、議長の職又期限)、worship (崇拜)。

(19) -th, -t. 行爲・状態を表し、「……なる事、……する事」を意味し、動詞及び形容詞に附いて名詞をつくる。

① breadth (廣さ、幅)、birth (出生)、dearth (飢饉)、depth (深さ)、death (死)、truth (眞理)、height (高さ)、stealth (盗み)、health (健康)。

(20) -tion, -sion, -ion, -on. 行爲・状態を表し、「……する事、なる事」の意。

① action (行爲)、admission (入る事)、attention (注意)、reception (歓迎)、relation (關係)。

(21) -tude. 状態を表し、「……なる事、たる事」の意。

① attitude (態度)、altitude (高度)、gratitude (感謝)、solitude (孤獨)。

(22) -ty. 行爲・状態を表し、「……する事、……なる事」を意味す。

① bounty (寛大、仁慈)、cruelty (残酷)、loyalty (忠義)、plenty (澤山、豊富)、penalty (刑罰)。

(23) -ure. 行爲・状態を表し、「……する事、……なる事」を意味す。

① capture (捕へる事)、rapture (恍惚たる事)。

(24) -y. 状態を表し、「……なる事、……たる事」を意味す。

① honesty (正直)、study (勉強)、victory (勝利)。

3. 場所の名を作る接尾語。場所の名を表し普通名詞を作る接尾語は次の通り。

(1) -ary.

① infirmary (病院)、seminary (苗床、學校)、granary (穀倉)、aviary (鳥小屋)、penitentiary (刑務所、監獄)。

(2) -ery, -ry.

① battery (食料室)、brewery (醸造所)、vinery (葡萄園)、nursery (苗床、小供室)、pantry (食料室)。

(3) -tory, -torium.

① auditorium (講堂)、sanatorium (療養所)、reformatory (感化院)、dormitory (寄宿舎)、lavatory (洗面所)、conservatory (温室)。

4. 指小辭 (diminutive suffix)。英語には指小接尾語 (diminutive suffix) と言つて「小さな物」を表す接尾語がある。之は名詞に附いて普通名詞を作り、愛撫の意又は輕蔑の意を表す。指小辭中主なるものは次の通り。

	cigar (葉卷)	cigarette (卷煙草)
	home (家庭)	hamlet (小村、部落)
	isle (小島)	islet (小島)
	lance (槍)	lancet (双針)
-et -let -ot	owl (梟)	owlet (小梟)
	pouch (囊)	pocket (ポケット)
	river (川)	rivulet (小川)
	stream (流、川)	streamlet (小川)
	trump (喇叭、管)	trumpet (喇叭)
	car (車)	chariot (戦車、馬車)
	animal (動物)	animalcule (小動物)
-cule -cle -ule	corpus (體)	corpuscle, corpuscule (微分子、血球)
	globe (球)	globule (小球)
	grain (粒)	granule (小粒)
	part (部分)	particle (小部分)
	tavern (居酒屋、小屋)	tabernacle (小屋)
-el -le	sack (囊)	satchel (小鞆)
	corn (穀物)	kernel (仁、核)
	spark (火花)	sparkle (火花)
	spade (鋤)	paddle [小鋤 (s 脱落)]
-en -kin	cat (猫)	kitten (小猫)
	cock (雄鶏)	chicken (雛)
	lamb (小羊)	lambkin (小羊)
	pipe (管)	pipkin (小土瓶、手桶)
	nappe (布)	napkin (ナプキン)
	man (人)	manikin (小人、マニキン)
	viol (大提琴)	violin (ヴァイオリン)
	cod (鱈)	codling (小鱈)
-ling	dear (親愛なる)	darling (愛人、可愛い人)
	duck (鴨)	duckling (小鴨)
	fop (しやれ者)	fopling (小しやれ者)
	goose (鵞)	gosling (小鵞)

-ling	lord (貴族、主)	lordling (でも貴族)
	hire (雇ふ)	hireling (雇はれ者)
	ground (土間、土)	groundling (土間客、下種)
	under (下)	underling (小役人)
	wit (才子、才)	witling (でも才子)
-ock -y -ie	world (世界)	worldling (俗人、俗物)
	bull (牡牛)	bullock (小牛、牡牛)
	hill (小山)	hillock (小丘)
	hump (瘤、小山)	hummock (圓丘、塚)
	babe (赤兒)	baby (赤坊)
	bird (鳥)	birdie (小鳥)
	mouse (廿日鼠)	mousie (小廿日鼠)

5. 病名を作る接尾語。病名は大概抽象名詞であるが、病名を作る接尾語は次の通り。

-itis	appendicitis (盲腸炎);	nephritis (腎臓炎);
	meningitis (脳膜炎);	bronchitis (気管枝炎)
-a	pneumonia (肺炎);	cholera (コレラ);
	diphtheria (ジフテリ);	diarrhoea (下痢)
-y	dysentery (赤痢);	pleurisy (助膜炎);
	apoplexy (卒中)	
-sis	tuberculosis (結核);	phthisis (肺癆);
	cirrhosis (硬化病)	

注意 -itis には accent が必ず i に附いて、[-aitis] となる、即ち *appenicitis* [əpendisaitis] のやうに。尚 -itis は「炎症、炎」 (=inflammation) の意。

6. 學科の名を作る接尾語。學科は抽象名詞であるが、此學科の名を表す接尾語は -logy, -sophy, -metry, -ic, -ics 等である。

-logy	philology (言語學);	sociology (社會學);
	zoology (動物學)	
-sophy	philosophy (哲學);	theosophy (神智學)
-metry	geometry (幾何學);	trigonometry (三角術);
	alkalimetry (アルカリ測定)	
-ics -ic	arithmetic (算術);	economics (經濟學);
	mathematics (數學);	physics (物理學);
	politics (政治學)	

II. 名詞の種類 (Kinds of Nouns)

物の名、人名、地名、物質の名、集合體の名、無形の觀念即ち性質や動作を表す名稱なごあらゆる有形無形の事物の名稱が名詞 (noun) である。而して名詞には次の五種類ある。

1. 普通名詞 (common noun)。
2. 固有名詞 (proper noun)。
3. 物質名詞 (material noun)。
4. 集合名詞 (collective noun)。
5. 抽象名詞 (abstract noun)。

1. An aeroplane is flying high up in the sky. (飛行機が空高く飛んで居る) (普通名詞)
2. Japan is a part of Asia. (日本は亞細亞の一部である) (固有名詞)
3. Water is indispensable to our existence. (水は吾々の生存に必要缺く可からざるものだ) (物質名詞)
4. England has a strong navy. (英國は強大な海軍を有す) (集合名詞)
5. Early-rising is good for the health. (早起は健康によい) (抽象名詞)

III. 普通名詞 (Common Nouns)

1. 普通名詞 (common noun) の定義。普通名詞は同種類のものに普く通する名稱であつて、凡ての名詞の中で一番多いのが此普通名詞である。

例へば house (家) と言へば自分の住んで居る家も house だし他の人の住んで居る家も house だ。同様に hat (帽子); pen (ペン); pencil (鉛筆); knife (小刀); city (市); country (國); man (男); woman (女); bird (鳥); tree (木) も普通名詞だ。

2. 普通名詞と單複數。普通名詞には單數 (singular) と複數 (plural) との區別がある。且つ普通名詞は同種類のものに普く通する名稱故、一つ二つと勘定出来る

ものである、何となれば house (家) と言ふ種類に属するものは世の中にいくつもあるからである。

- ④ That is a house. (あれは家だ) (単數)
There are 300 houses in this village. (此村に家が三百ある)
(複數)

3. 普通名詞と冠詞。單數普通名詞には必ず不定冠詞 (indefinite article) の a 又は an を附す。a は子音の前に、an は母音の前に附す。又特に或物を指す場合には定冠詞 (definite article) の the を附す。

邦語では「私は本を持つてゐる」と言へば通ずるが、英語では必ず数を明示して一つとか三つとか言はねばならぬ。だから上の文を英語に直譯して

I have book.

としたのでは駄目だ。一つ持つてゐるなら、

I have a book.

とせねばならぬ。いくつか持つてゐるなら、

I have some books.

とするし、其の本とかあの本とかお互にはつきり解つてゐるなら、

I have the book.

とする。之を逆にして英語を日本語に譯す場合には英語の不定冠詞は必ずしも一々「一つの」と譯さずともよいのだ。

- ⑤ It is a dog. (それは犬だ)
That is a school. (あれは學校だ)

として差支ない。勿論不定冠詞の a も an も元來は one (一の) から轉じたものである事を心得て置かねばならぬ。

4. 普通名詞が其種類全體を表す場合。普通名詞が其種類全體を表すには次の三通りの言ひ方がある。

- ⑥ The dog is a faithful animal.
A dog is a faithful animal. } (犬は忠實な動物である)
Dogs are faithful animals.

以上は「犬と言ふものは忠實な動物である」と言ふ意味で犬全體に關して言ふのである。即ち定冠詞を用ゐても、不定冠詞を用ゐて

もよいし、或は複數にしてもよいのである。

⑦ man (男、人) と woman (女) とは例外であつて、全體を指すときには冠詞を全然附けないで單數で用ゐる。

- ⑧ Man is lord of the creation. (人は萬物の靈長である)
Man is stronger than woman. (男は女より強い)

IV. 固有名詞 (Proper Nouns)

1. 固有名詞 (proper noun) の定義。固有名詞 (proper noun) は特殊の人又は物に附けた特殊の名稱である。固有名詞は必ず大文字 (capital letter) で書き出し、且つ普通は複數になる事なく、又定冠詞を附けない、之れ固有名詞は世界に一つしか無いのが當り前だからだ。

人名、地名、山川、湖水、公共建物、月名、七曜名、天體名、祭日の名、國民名、國語の名、新聞雜誌書籍等の名稱は固有名詞である。

- ⑨ Taro (人名); Tokyo (地名); Mt. Everest (山); the Sumida river (川); Lake Biwa (湖); Tokyo station (公共建物); January (月名); Sunday (七曜名); Venus (天體名); Christmas (祭日名); Japanese (國民名); English (國語名); the Japan Times (新聞名)

⑩ the sun (太陽)、the earth (地球) 及び the moon (月) は同じく天體でも例外であつて普通名詞として取扱はる、但し定冠詞の the が附く。

2. 定冠詞の the がつく固有名詞。固有名詞は元來世界に一つしか無いものに附けた特殊の名稱故、定冠詞の the を附けて「此の」とか「あの」とか區別する必要が無いものであるが、然しながら同じ固有名詞でも次ぎの如きは他のものと區別する必要があるので定冠詞の the を附ける習慣となつてゐる。

- (1) 河の名。
- (2) 海・大洋・灣・海峡・運河・半島の名。
- (3) 船舶及び艦隊の名稱。
- (4) 公共的建物・團體即ち官衙・學校・病院・劇場・協會・團體等の名稱。

- (5) 會社・商店の名。
 (6) 新聞・雜誌・書物の名。
 (7) 複數形の固有名詞、即ち山脈の名・群島の名・家族の名・國民の名・國の名。
 (8) 特殊の地名、殊に普通名詞より轉じて地名となるもの。
 (9) 人名又は地名に形容詞を附けた場合。
 (10) 國語の名。

① (1) $\left\{ \begin{array}{l} \text{the Sumida river} \\ \text{the river Sumida} \end{array} \right\}$ (隅田川) (河名)

(2) the Japan Sea (日本海); the Pacific Ocean (太平洋); the Mexican Gulf (メキシコ灣); the Straits of Gibraltar (ジブラルター海峡); the Panama Canal (パナマ運河); the Izu Peninsula (伊豆半島)

(海洋・海峡・運河・半島)

湖・港・岬には the がつかない、例へば Lake Biwa; Yokohama Harbour; Wada Point のやうに。Tokyo bay にも the はつかない。

(3) the Mutsu (陸奥); the Korea Maru (コレア丸); the Atlantic Fleet (大西洋艦隊) (船舶・艦隊)

(4) the Foreign Office (外務省); the Imperial University of Tokyo (東京帝國大學); the Japan Red Cross Hospital (日本赤十字病院); the Imperial Theatre (帝國劇場); the Japan Red Cross Society (日本赤十字社); the League of Nations (國際聯盟)

(官衙・學校・病院・劇場・協會・團體)

(5) the Nippon Yusen Kaisha (日本郵船會社); the Mitsui Bussan Kaisha (三井物産會社) (會社・商店)

(6) the Japan Times (ジャパントイムス紙); the Bible (聖書); the Sketch Book (スケッチ・ブック)

(新聞・雜誌・書名)

人名を其儘書名としたる場合及び著者の名を以て其作物を表す場合には the を附けない。Robinson Crusoe; Mencius (孟子); Shakespeare (沙翁) のやうに。

(7) the Alps (アルプス山脈); the Urals (ウラル山脈);

the Himalayas (ヒマラヤ山脈)。(山脈)

the Philippines (ヒリッピン群島); the Kuriles (千島列島); the Loochoos (琉球諸島); the Pescadores (澎湖列島); the Bonins (小笠原諸島) (群島)

the Tokugawas (徳川家); the Tairas (平家) (家族)

the Japanese (日本人); the English (英國民) (國民)

the United States of America (北米合衆國) (國名)

(8) the Orient (東洋); the Occident (西洋); the Hague (和蘭の首府); the Netherlands (和蘭); the Ukraine (ウクライナ); the Argentine (アルゼンチン); the Balkans (バルカン半島); the Punjab (パンジヤブ地方); the Baltic (バルチック沿岸) (特殊地名)

(9) the ambitious Napoleon (覇氣満々たるナポレオン); Peter the Great (=the Great Peter) (彼得大帝)

(形容詞)

但し little; young; old; poor; dear の如く別に性格を表はさない形容詞が附いても the を附けない。little Mary; poor Tom のやうに。

(10) the English language (英語); the Japanese language (日本語) (國語)

但し language を附けなければ the を用ゐないで單に English; Japanese; German (獨逸語) とする。

3. 固有名詞が普通名詞に轉ずる場合。固有名詞が普通名詞に轉用されれば不定冠詞の a や an を取り又は定冠詞の the を取るばかりで無く又複數にもなる。然しかゝる場合でも常に大文字 (capital letter) で書き出す事は固有名詞と變りが無い。而して固有名詞が普通名詞に轉用されるのは次の三つの場合である。

(1) 固有名詞と同一又は類似の性質を有する物を表す時。

(2) 同一の固有名詞を有する者が澤山ある時。

(3) 國民・家族・團體・協會の一員を指す時。

- I wish to become an Edison. (私はエジソンのやうな人になりたい) (類似)
- (1) Japan is called the England of the Far East. (日本は東洋の英國と稱せらる) (同上)
- (2) There are three Nakayamas in our class. (吾々の級には中山が三人居る) (同一)
- This is a genuine Masamune. (これは本物の正宗だ) (同上)
- (3) His father is a Tokugawa, and his mother a Fujiwara. (彼の父は徳川、母は藤原だ) (一員)
- He is a Christian (a Buddhist). (彼は基督教徒(佛教徒)だ) (同上)

V. 物質名詞 (Material Nouns)

1. 物質名詞の定義。物質名詞 (material noun) とは物質の名稱である。而して物質とは製品の材料になるものであつて、一定の形もなく位置もなく又如何に之れに變化を加へても元來の性質を失はないものである。例へば paper (紙) にせよ gold (金) にせよ又 water (水) にせよ、之を原料として三角にも出来れば四角にも出来るし、又大きくも小さくも出来るけれども、元來は一定の形を持つて居るもので無い。又 paper で book (本) を作つても newspaper (新聞) を作つても元來の紙と言ふ性質は失はれない。gold にしても之れで gold ring (金指環) や gold watch (金時計) を作つても或は之を粉碎して gold dust (金沙、金粉) にしても金と言ふ性質に變りはない。water (水) に就いても同様である。

斯く物質を材料にして作つた製品、即ち a book にせよ、a newspaper にせよ或は a gold ring にせよ又は a gold watch にせよ普通名詞であつて一つ二つと勘定が出来るが、物質は決して一つ二つと計算が出来ない、故に物質名詞は複數とならず又不定冠詞を取らないのである。

原料及び食料品は物質名詞であるが其中主なるものは、air

(空氣); water (水); dew (露); rain (雨); snow (雪); ice (氷); cloud (雲); gold (金); silver (銀); copper (銅); iron (鐵); lead (鉛); brass (眞鍮); zinc (亜鉛); tinplate (ブリキ); platinum (白金); electricity (電氣); stone (石); earth (土); linen (リンネル); flax (亞麻); hemp (大麻); cotton (綿); wool (羊毛); paper (紙); brick (煉瓦); glass (ガラス); rock (岩); marble (大理石); sand (砂); mud (泥); oil (油); petroleum (石油); petrol (ガソリン); gasoline (ガソリン); silk (生絲); wood (木); lumber (材木); steam (蒸氣); money (金錢); chalk (白墨); soap (石鹼); rice (米); barley (大麥); wheat (小麥); bread (パン); butter (バター); meat (肉); fish (魚肉); fruit (果物); salt (鹽); ham (ハム); tea (茶); coffee (珈琲); wine (葡萄酒); beer (麥酒); cocoa (ココア); milk (牛乳); dry milk (コナミルク); beef (牛肉); pork (豚肉)。

2. 物質名詞の分量の言ひ表し方。單數普通名詞には必ず不定冠詞の a 又は an を附けて其の數を明示せねばならない事は既に述べたが、物質名詞には不定冠詞が附かないのみならず定冠詞も不要だ。故に英語では物質名詞で其物全體を指す場合には不定冠詞も定冠詞も用ゐないで次の如く言ふ。

Fish is as nourishing as meat. (魚肉には肉に劣らぬ滋養がある)

かく物質名詞の表す物質全體を意味する場合には何等冠詞を要せず又分量を表す語句も必要としないが、其他の場合には some (いくらかの、若干の); a little (少しの) 又は much (澤山の) なごの形容詞を用ゐる。疑問文及び否定文では any (いくらかの、少しも) なる形容詞を用ゐねばならぬ。

- I have some paper. (紙を持つてゐる)
- I want some sugar. (砂糖がほしい)
- If you have any money, please lend me some. (金を持つて居るなら少し貸してくれ)
- We have recently had much rain. (近頃雨が多かつた)

斯く物質名詞には **some** 又は **any** が附くけれども、之れは邦語には一々譯す必要がない、恰も單數普通名詞につく不定冠詞の **a** や **an** を譯す必要が無いやうに。

例 物質名詞は複數に出来ないから其數量を明示するには次の如き言ひ方をする。a cup of tea (coffee) [茶(珈琲)一杯] **cup** は茶と珈琲にのみ用ゐる。two glasses of milk (water, wine, beer) [牛乳(水・葡萄酒・麥酒)を二杯] **glass** 斯かる場合 **cup** を用ゐない。three spoonfuls of sugar (砂糖を三匙)。a bucketful of water (水をバケツに一杯)。a handful of rice (米を一掴み)。an armful of wood (薪を一抱へ)。five cartloads of brick (煉瓦を荷車に五臺)。four sheets of paper (紙四枚)。two pieces of chalk (白墨を二本)。half a dozen bottles of beer (麥酒半打)。two pounds of sugar (砂糖二斤)。three kilogrammes of rice (米を三キログラム)。four litres of sake (酒四リットル)。five bags of rice (米五俵)。six bales of cotton (綿六俵)。ten bales of silk (生絲十捆)。five cakes of soap (石鹸五個)。two loaves of bread (パン二斤)。three yards of serge (セル三ヤール)。

3. 物質名詞が普通名詞となる場合。物質名詞が普通名詞に轉用されるのは次の四つの場合である。(1) 材料を表はさないで材料から作った物を表す場合。(2) 物質の全體を指さずに物質の種類を指す場合。(3) 物質の全體を指さずに其物質の箇々の部分を指す場合。(4) 物質を指さずにその物質から起る出來事を指す場合。

- (1) Glass is very brittle. (ガラスは脆い) (物質名詞)
 (1) Fill the glasses with wine. (コップに葡萄酒を注げ) (普通名詞)
- (2) It is made of metal. (それは金屬製だ) (物質)
 (2) Copper is a useful metal. (銅は有用な金屬だ) (普通)
- (3) This house is built of stone. (此家は石造だ) (物質)
 (3) He threw a stone at the dog. (彼は犬に石を投げつけた) (普通)
- (4) We have recently had much rain. (近頃雨が多かつた) (物質)
 (4) We had a slight rain yesterday. (昨日少し雨が降つた) (普通)

VI. 集合名詞 (Collective Nouns)

1. 集合名詞の定義。集合名詞 (collective noun) とは集合體の名稱である。即ち一箇の物又は一人の人に附けた名稱でなく此等の物や人々の集合した物の名稱である。例へば family (家族); class (學級); committee (委員會); army (軍隊); infantry (歩兵隊) の如き之れである。

例 集合名詞は集合體の名稱であるが、元來集合體は一つ二つと算へる事が出来るもの故不定冠詞の **a** や **an** も又定冠詞の **the** も取るのである。且つ集合體は類似又は同一の物がいくつも世の中にあるもの故集合名詞は複數にもなる。たとへば family (家族) は自分のも family だし他人のも family である、のみならず各 family には大小の別もあるわけだ。故に、

- (19) I have a large family. (私の家は大家族だ)
 His family is small. (彼の家族は少ない)
 There are 300 families in this village. (此村には戸數三百ある)

とも言へるのである。斯く集合名詞は冠詞を取り複數にもなるから普通名詞と何等の相違がなく、殊更に集合名詞なる一項目を設ける必要が無いやうであるが、然しながら集合名詞が普通名詞と異なる處は集合名詞の次に來る動詞との關係である (次の群集名詞の部參照 (第 178 頁)。次に集合名詞の主なるものを掲げる

(19)	(單 數)	(複 數)
	a family (家族)	families
	a class (學級)	classes
	a company (會社)	companies
	a commission (委員會)	commissions
	a committee (分科委員會)	committees
	a party (黨)	parties
	a people (人民)	peoples
	a nation (國民)	nations
	a fleet (艦隊)	fleets
	an army (軍隊)	armies
	a navy (海軍)	navies

a corps (團、軍團)	corps (同形)
a parliament (議會)	parliaments
a government (政府)	governments
an administration (政府、内閣)	administrations
a cabinet (内閣)	cabinets

2. 群集名詞 (Noun of Multitude)。集合名詞が集合體を一つの團體として表さず、其集合體中の個々の人々の状態を示す場合には形は單數でも意味は複數故、其動詞は必ず複數形を用ゐる。且つ其代名詞も複數 (they; their; them) の形を用ゐる。かゝる集合名詞を殊に群集名詞 (noun of multitude) と呼ぶ。

- ① My family is a large one. (僕の家族は大勢だ) (團體)
- ② My family are all well. (家族は皆丈夫だ) (個々の状態)
- ③ The committee consists of ten. (委員會は十名より成る) (團體)
- ④ The committee are divided in their opinions. (委員達は意見が一致しない) (個々の状態)
- ⑤ This class is very small. (此級は人數が大層少ない) (團體)
- ⑥ This class are all diligent. (此級の生徒は皆勉強だ) (個々の状態)
- ⑦ The infantry was beaten by the cavalry. (歩兵隊が騎兵隊に負けた) (團體)
- ⑧ The infantry were poorly armed. (歩兵隊の武装は貧弱だつた) (個々の状態)

⑨ 集合體中の一員を指す場合には -man なる接尾語を取るか (但し勝手に附けてはならぬ)、a member of (一員) なる語句を用ゐるか或は -or なる接尾語を取る事が多い。

集合名詞 (團體)	普通名詞 (一員)
cavalry (騎兵隊)	cavalryman (騎兵)
infantry (歩兵隊)	infantryman (歩兵)
artillery (砲兵隊)	artilleryman (砲兵)
jury (陪審官)	jurymen (陪審官)
committee (委員會)	committee man (委員)

clergy (僧侶)	clergyman (僧)
Congress (議會)	Congressman (議員)
assembly (議會)	assemblyman (議員)
Cabinet (内閣)	Cabinet member (閣員)
family (家族)	family member (家族)
Municipal Council (市參事會)	Municipal Councillor (市參事會員)

Privy Council (樞密院) Privy Councillor (樞密顧問官)

⑩ **people** なる語は國民又は人民の意味では集合體全體として見るから a people; two peoples のやうに不定冠詞の a も取るし複數にもなるが世人とか人々と言ふ意味では形は單數でも意味は複數故常に複數の動詞を取る又決して不定冠詞を取らない。

- ⑪ The Chinese are an industrious people. (支那人は勤勉な國民である) (團體)
- ⑫ There are many different peoples in the Far East. (東洋には色々の國民が澤山居る) (團體)
- ⑬ People say he is rich. (世間では彼を金持だと言ふ) (人々)

3. 複數の意味に用ゐられる集合名詞。形は單數でも意味が複數故、必ず複數の動詞を取る集合名詞がある。即ち前述の群集名詞 (noun of multitude) が之れである。

⑭ 此種の集合名詞は其數少なく nobility (貴族); peerage (華族); royalty (王族); peasantry (百姓); infantry (歩兵隊); cavalry (騎兵隊); artillery (砲兵隊); jewellery (寶石類); poultry (家禽類); clergy (僧侶); cattle (家畜); people (人々、人民); vermin (害蟲) 等である。

- ⑮ The court nobility are generally poor. (公卿華族は大抵貧乏だ)
- ⑯ Jewellery are displayed in the show-windows. (寶石類が陳列窓に陳列してある)
- ⑰ Those cattle are mine. (此等の家畜は私のだ)
- ⑱ Fifty head of cattle are bought. (五十頭の家畜を買つた)
- ⑲ head は「……頭」の意味では單複同形。尙 50 people (五十人の人々) とは言ふが 50 cattle とか 50 infantry とは言はない。
- ⑳ The infantry of 50 [strong] (五十名の歩兵隊)

The committee of 10 (十名の委員会)
のやうに書く。

4. 単数に用ゐられる集合名詞。集合名詞の中には常に単数に用ゐられ、物質名詞と殆んど同一の取扱を受くるものがある。従つて不定冠詞の a 又は an や或は定冠詞の the を取らない。

① 常に単数に用ゐられる集合名詞の主なるものは。furniture (家具); clothing (衣類); drapery (反物); food (食物); grain (穀物); corn (穀物); produce (産物); merchandise (商品); game (獵、得物); luggage (手荷物); baggage (手荷物) [米語]; freight (貨物); leafage (葉); plumage (羽毛); coinage (貨幣); postage (郵税); poetry (詩); plate (食器); issue (子供); alphabet (字母)。

② 此等の名詞の數量を表すには次の語句を用ゐる。a useful piece of furniture (有用なる家具); two articles (pieces) of furniture (家具を二つ); an article of food (食品)。

5. 集合名詞をつくる接尾語。集合名詞をつくる接尾語は -ry; -ty; -age 等であつて、殊に -ry 及び -ty は複数の意味を有する集合名詞 (即ち群集名詞) をつくり、-age は単数にのみ用ゐられる集合名詞をつくる (第163頁参照)。

- ③ -ry { peasantry (農民); jewellery (寶石); poultry (家禽); infantry (歩兵隊); artillery (砲兵隊); cavalry (騎兵隊); drapery (反物類); poetry (詩); soldiery (兵隊)。
- ty ... nobility (貴族); royalty (王族)。
- age { coinage (貨幣); plumage (羽毛); leafage (葉); peerage (華族); herbage (草); fruitage (果實); postage (郵税); wharfage (埠頭税); brokerage (手数料); portage (運賃); cartage (運賃); pilotage (水先案内料)。

6. 數量を表す名詞としての集合名詞。集合名詞の中には數量を表す名詞として用ゐられるものがある。斯かる場合には不定冠詞の a や an が附く許りでなく又、複数にもなる。

- The crowd was large. (大變な人出だつた)
What a crowd of motor-cars! (何と大變な自動車だらう)
Crowds of people thronged the park. (澤山な人々が公園へ押寄せた)
The collection was large and varied. (蒐集品は數多く種類も色々あつた)
He has a large collection of books. (彼は藏書家だ)
The party numbered 50 in all. (一行は全部で五十人だつた)
A party of tourists. (觀光團)
The group dispersed by twos and threes. (團體は三々五々散つてしまつた)
A group of islands. (群島)
A flock of birds (beauties). (鳥、美人の群)
A herd of cattle. (家畜の群)
A swarm of ants (bees) (蟻、蜜蜂の群)

VII. 抽象名詞 (Abstract Nouns)

1. 抽象名詞の定義。抽象名詞 (abstract noun) は性質・状態・動作を表はす名詞である。尙病氣・身分・學科名・科學の名・感情や心の働きも抽象名詞である。

④ The cow is a useful animal (牛は有用な動物だ) や The telephone is useful (電話は有用だ) や The railway is useful (鐵道は有用だ) と言ふ場合に此等の useful (有用な) は物から「有用」(usefulness) と言ふ性質を抽出して考へる事が出来る。斯く物體の有する性質や状態或は動作を抽出して之に附けた名稱が抽象名詞である。之れ抽象名詞と言ふ名の起る所以である。抽象名詞は無形の性質・状態又は動作の名稱故、一つ二つと勘定出来るもので無いから不定冠詞の a や an を附ける事も出来ないし又複数にする事も出来ない。但し或特殊の性質・状態・動作を示す場合には定冠詞の the を附ける。

- Happiness lies in contentment. (幸福は満足にあり)
⑤ The rich envy the happiness of the poor. (富者は貧者の幸福を羨む) (特殊)

Wisdom is gained by **experience**. (智慧は経験に依つて得らる) (抽象)
 He has the **wisdom** of Solomon. (ソロモンの如き智慧を有す) (特殊)

2. 抽象名詞を作る接尾語。(1) 性質を表す抽象名詞は多くは **-ness; -dom; -ty; -ity; -y; -ence; -ism; -ude; -hood; -cy; -th** 等の接尾を付けて作る (第163頁参照)。(2) 動作を表す抽象名詞は 大抵動詞に **-tion; -sion; -ing; -ment; -ence; -ance; -ure** 等の接尾語を付けて作る (第163頁参照)。(3) 身分又は官職を表す抽象名詞は普通名詞に **-ship; -hood; -head; -cy; -ry** を付けて作る (第163頁参照)。(4) 学科や科学の名を表す抽象名詞は **-logy; -sophy; -metry; -ic; -ics** 等の接尾語を付けて作る (第168頁参照)。(5) 病名を表す抽象名詞は **-itis; -a; -y; -sis** 等の接尾語を付けて作る (第168頁参照)。

3. 抽象名詞が普通名詞となる場合。抽象名詞が普通名詞となるのは (一) 形容詞が附いた場合、(二) 種類又は例を示す場合、及 (三) 其性質を所有する者又は人を示す場合の三つの場合である。

① Knowledge is gained by **experience**. (知識は経験に依つて得られる) (抽象)
 He has a **deep knowledge** of English. (深い英語の知識を有す) (普通) (形容詞)
 Never be afraid of **failure**. (失敗を恐れる勿れ) (抽象)
 He met with a **miserable failure**. (彼はひどい失敗にあった) (普通) (形容詞)

② **weather** (天気); **progress** (進歩); **history** (歴史) は形容詞が附いても普通名詞にならないから不定冠詞を取らない。

Virtue is good. (徳はよい) (抽象)
 Charity is a **virtue**. (慈善は一の徳である) (普通) (種類)
 He is learning **painting**. (彼は繪を習つてゐる) (抽象) (書き方)
 He gave me a **painting**. (彼は僕に繪を一枚くれた) (普通) (種類)

The **beauty** of the scenery is beyond description. (風景の美筆紙に盡し難し) (抽象)
 What a **beauty** she is! (素敵なお美人だ) (普通) (具備者)
 Knowledge is **power**. (知識即力だ) (抽象)
 Japan is one of the Big Five **Powers**. (日本は五大強國の一だ) (普通) (具備者)

4. 抽象名詞と集合名詞。抽象名詞は又時として集合名詞として用ゐられる事がある。

Youth (= Young people) should respect **age** (= old people). (若い者は老人を尊敬すべきである)
 ③ **Envy** (= Envious people) hates what **justice** (= just people) admires. (嫉妬深い人々は正義の士が稱讃する事を憎むものである)

5. 抽象名詞と形容詞句及び副詞句。抽象名詞は of と合して形容句 (adjective phrase) を作る。かゝる場合は「……のある、……を有する、……な」と譯せばよい。又抽象名詞は with; in; by 等の前置詞と合して副詞句 (adverbial phrase) を作る事がある。次に all+抽象名詞及び抽象名詞+itself は「非常に……である、……の化身だ」との意味を表す。

a man of **ability**=an able man (敏腕家)
 a man of **courage**=a courageous man (勇者)
 a man of **learning**=a learned man (學者)
 a man of **talent**=a talented man (才子)
 of **use**=useful (役に立つ); of **great use**=very useful (大に役に立つ); of **importance**=important (重要な); of **influence**=influential (勢力ある)。
 with **caution**=cautiously (用心して); with **ease**=easily (容易に); with **care**=carefully (注意して); with **kindness**=kindly (親切に); with **fairness**=fairly (公平に)。
 in **amazement**=amazedly (驚いて); in **despair**=despairingly (絶望して); in **admiration**=admiringly (感心して); in **earnest**=earnestly (真面目に); in **private**=privately (秘密に); in **public**=publicly (公然と)。

by accident = accidentally (偶然に); by mistake (誤つて); by chance (ふと、偶然); by good luck = luckily (幸にも)。

He is all attention.
He is attention itself. } = He is very attentive. (彼は非常に注意してゐる)

She is all beauty.
She is beauty itself. } = She is very beautiful. (非常に美しい、美の權化だ)

6. 抽象名詞の譯し方。抽象名詞は其用ひ場所によつて副詞又は名詞節 (noun clause) のやうに譯さねばならぬ。

① He had the kindness to lend me the book. = He kindly lent me the book. (親切にも私に其の本を貸した) (副詞)
I doubt the advisability of such a measure. = I doubt whether such a measure is advisable or not. (私はそんな手段が果して得策なるや否やを疑ふ) (名詞節)

7. 抽象名詞と尊稱。抽象名詞は尊稱として用ゐられる事がある。かゝる場合には一種の普通名詞となつたものであつて複數になる。而して尊稱として用ゐられた抽象名詞は第二人称には your を冠し、第三人称には his; her; their を其前に附ける。然しながら之を受ける動詞は複數形を除けば何れの場合も第三人称單數である。

● 君主、皇族	{ Your (His; Her) Majesty (陛下) Your (His; Her) Highness (殿下)
天皇陛下	H. I. M. (= His Imperial Majesty) the Emperor
大臣・大使・知事等	Your (His) Excellency (閣下)
法王	Your (His) Holiness (猊下)
公爵	Your (His) Grace (閣下)
公爵夫人	Your (Her) Grace (閣下)
貴族	Your (His) Lordship (閣下)
貴族夫人	Your (Her) Ladyship (閣下)
裁判官・市長等	Your (His) Honour (閣下)
僧侶	Your (His) Reverence (師、猊下)

8. 抽象名詞と複數。抽象名詞は元來複數になるものではないが抽象名詞の表す性質・動作の種類や一例を指すと普通名詞になり従つても、抽象名詞の表す意味とは違つて来る。かく抽象名詞で普通名詞に轉用され複數になる主なるものは次の如し。

● { advice (忠告)	{ depth (深さ)
{ advices (報告)	{ depths (深淵、奥)
{ content (満足)	{ duty (義務)
{ contents (内容)	{ duties (職務)
{ excellency (卓越)	{ good (善良)
{ excellencies (閣下達)	{ goods (貨物)
{ height (高さ)	{ highness (高さ)
{ heights (高地、山)	{ highnesses (閣下達)
{ exercise (運動)	{ earning (稼ぐ事)
{ exercises (練習、學課)	{ earnings (収入高)
{ pain (苦痛)	{ majesty (尊嚴)
{ pains (苦心、骨折)	{ majesties (陛下)
{ ruin (滅亡)	{ saving (貯ふる事)
{ ruins (遺跡)	{ savings (貯金)
{ time (時)	{ spirit (精神)
{ times (時代、景氣)	{ spirits (元氣、火酒)

VIII. 人 稱 (Person)

名詞は話す人自身を表す時には之を第一人稱 (first person) と言ひ、話の相手となる人又は物を表す時には之を第二人称 (second person)、話題になる人又は物を表す時には之を第三人稱 (third person) と言ふ。

● We, Japanese, should make overseas development. (吾々日本人は海外に發展せねばならぬ) (一人稱)

Nakayama, where have you been? (中山君、何處に行つて居たのか) (二人稱)

Sato wrote this letter. (佐藤が此手紙を書いた) (三人稱)

■ 名詞は一般に三人稱だと思つて差支ない。即ち名詞は代名詞の同格名詞として用ゐられた場合を除けば第一人稱として用ゐられる事は無い。